チャレンジ

I　自分で決められない人たち

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

以上に見る通り、日本社会とは空気のごとく依存性が浸透しきった社会であるといえます。なぜそうなのでしょうか。私は、日本的な家族のあり方にその秘密があると考えます。

まず、自立性よりも他人との同調をよしとする日本社会は依存的な人間像を理想として掲げており、家庭でもそのような方向での教育がなされています。私には幼い娘がいるので幼児向けのしつけ教材にはずいぶん目を通したのですが、例外なしに最初から最後まで「自分を譲って、他人に迷惑をかけるな」というメッセージが執拗に繰り返されています（これに対して、たとえばディズニーのある幼児教材的なビデオ作品にはこれまた最初から最後まで「君は他の誰とも違う個人だ」「誰もやらないオリジナルなことをやれ」というメッセージが繰り返されており、ちょっとしたカルチャー・ショックを受けました）。日本の幼児教材ビデオでは、「自分の意見をはっきり言おう」などというメッセージにはただの一度もお目にかかったことはありません。

日本の親たちの養育方針が、アメリカ等に比べて正義感などのポリシーを持つということに重点を置いていないことはいろいろな調査結果から広く知られています。

（矢幡 洋『自分で決められない人たち』中公新書ラクレ）

ごとく：～のように
依存性（いぞんせい）：他のものをたよりとして存在すること
浸透（しんとう）する：中に入っていく
自立（じりつ）：自分の力だけで物事をすること
同調（どうちょう）：他と調子を合わせること
よしとする：いいと考える
人間像（にんげんぞう）：性格、見た目、行動等を通して得られるその人の姿、イメージ
掲（かか）げる：目につくように示す
しつけ：礼儀・作法を教えること
メッセージ：message
執拗（しつよう）に：しつこく
ディズニー：©Disney　アメリカの会社
教材（きょうざい）：学習の材料
オリジナル：original
カルチャー・ショック：違う文化に驚くこと
養育（よういく）：育てること
正義感（せいぎかん）：公正、公平を大切にする気持ち
ポリシー：policy

チャレンジ　ふりがな付本文

I 自分で決められない人たち

以上に見る通り、日本社会とは空気のごとく依存性が浸透しきった社会であるといえます。なぜそうなのでしょうか。私は、日本的な家族のあり方にその秘密があると考えます。

まず、自立性よりも他人との同調をよしとする日本社会は依存的な人間像を理想として掲げており、家庭でもそのような方向での教育がなされています。私には幼い娘がいるので幼児向けのしつけ教材にはずいぶん目を通したのですが、例外なしに最初から最後まで「自分を譲って、他人に迷惑をかけるな」というメッセージが執拗に繰り返されています（これに対して、たとえばディズニーのある幼児教材的なビデオ作品にはこれまた最初から最後まで「君は他の誰とも違う個人だ」「誰もやらないオリジナルなことをやれ」というメッセージが繰り返されており、ちょっとしたカルチャー・ショックを受けました）。日本の幼児教材ビデオでは、「自分の意見をはっきり言おう」などというメッセージにはただの一度もお目にかかったことはありません。

日本の親たちの養育方針が、アメリカ等に比べて正義感などのポリシーを持つということに重点を置いていないことはいろいろな調査結果から広く知られています。

（矢幡 洋『自分で決められない人たち』中公新書ラクレ）

ごとく：〜のように
依存性：他のものをたよりとして存在すること
浸透する：中に入っていく
自立：自分の力だけで物事をすること
同調：他と調子を合わせること
よしとする：いいと考える
人間像：性格、見た目、行動等を通して得られるその人の姿、イメージ
掲げる：目につくように示す
しつけ：礼儀・作法を教えること
メッセージ：message
執拗に：しつこく
ディズニー：©Disney　アメリカの会社
教材：学習の材料
オリジナル：original
カルチャー・ショック：違う文化に驚くこと
養育：育てること
正義感：公正、公平を大切にする気持ち
ポリシー：policy

問　　題

問 1　筆者は日本の幼児教材は何を教えていると思っているか。

1　自分の考えをはっきりいうこと
2　他人と調子を合わせること
3　人と違うことをすること
4　何よりも自分を大切にすること

問 2　筆者はアメリカ等の幼児教材は何を教えていると思っているか。

1　他人を思いやること
2　人に合わせて行動をすること
3　自分にしかできない行動をすること
4　自分を譲ること

問 3　筆者が述べている日本社会の特徴は何か。

1　自分は他人と違うという個人性を積極的に表現する社会
2　リーダーシップをもち、自分から進んで物事を決める社会
3　周囲の行動を見て、互いに依存している社会
4　自分さえよければいいと考えるような社会

読解のポイント

✒ **依存性が浸透しきった社会であるといえます。**
　＝お互いが完全に頼りあっている社会だといえます。

✒ **同調をよしとする日本社会**
　＝同調することがいいことだと考える日本社会

✒ **理想として掲げており、**
　＝理想的なものであると考えていて、

✒ **目を通した**＝見た

✒ **なされています。**＝されています。
　教育が**なされています。**
　＝教育がされています。

✒ **譲る**＝自分を後にする
　自分を**譲って、**
　＝自分のことはがまんして、

✒ **これまた**＝これも
　これまた最初から最後まで
　＝こちらのほうも最初から最後まで

✒ **オリジナルなことをやれ**
　＝自分で考えたことをしなさい

チャレンジ

II ことばの詩学

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

しかし、私たち人間は定められたものに定められた意味しか読みとらないというような存在ではありません。機械ならばその状況にとどまっているでしょうが、人間はそうはいきません。たとえば、朝起きて雨戸を開けた時にたまたま感じた明るい日差し、すがすがしい空気の肌ざわり、そして小鳥の囀り——今日はなんとすばらしい日なのだろう、きっと何かよいことがあるに違いないと思ったりすることはないでしょうか。何でもないことに意味を読みとるのです。(現代に生きる私たちの多くは迷信を脱却したと思っていますが、①迷信を作り出すもととなるような力は、このようにしてあいかわらず私たちの中に生きています。) あるいは、ある女性が日頃とは違った髪型なり服装をしてきたとしたらどうでしょうか。今日の彼女はいつもと違う、何か——もしかしたら何か喜ばしいことでも——あるのではないか、と思ってみたりします。やはり、②そこにある意味を読みとっているのです。私たちが意味を読みとるのは、(　③　) その女性の髪型なり、服装なりも、私たちにとって「言語らしいもの」となります。このように考えてきますと、私たちがどれくらい多く「言語らしいもの」によって取り囲まれた環境の中で生きているかは明らかでしょう。

(池上 嘉彦『ことばの詩学』岩波書店 同時代ライブラリー)

定(さだ)める：決定する
日頃(ひごろ)：普段
囀(さえず)り：鳥の鳴き声
すがすがしい：さわやかで、気持ちがいい
はだざわり：体に感じる感覚
迷信(めいしん)：現代人の判断から見て不合理と考えられるもの
脱却(だっきゃく)：すて去ること
喜(よろこ)ばしい：うれしい、楽しい

チャレンジ　ふりがな付本文

II　ことばの詩学

しかし、私たち人間は定められたものに定められた意味しか読みとらないというような存在ではありません。機械ならばその状況にとどまっているでしょうが、人間はそうはいきません。たとえば、朝起きて雨戸を開けた時にたまたま感じた明るい日差し、すがすがしい空気の肌ざわり、そして小鳥の囀り——今日はなんとすばらしい日なのだろう、きっと何かよいことがあるに違いないと思ったりすることはないでしょうか。何でもないことに意味を読みとるのです。（現代に生きる私たちの多くは迷信を脱却したと思っていますが、①迷信を作り出すもととなるような力は、このようにしてあいかわらず私たちの中に生きています。）あるいは、ある女性が日頃とは違った髪型なり服装をしてきたとしたらどうでしょうか。今日の彼女はいつもと違う、何か——もしかしたら何か喜ばしいことでも——あるのではないか、と思ってみたりします。やはり、②そこにある意味を読みとっているのです。私たちが意味を読みとるのは、（　③　）その女性の髪型なり、服装なりも、私たちにとって「言語らしいもの」となります。このように考えてきますと、私たちがどれくらい多く「言語らしいもの」によって取り囲まれた環境の中で生きているかは明らかでしょう。

（池上嘉彦『ことばの詩学』岩波書店 同時代ライブラリー）

定める：決定する
日頃：普段
囀り：鳥の鳴き声
すがすがしい：さわやかで、気持ちがいい
はだざわり：体に感じる感覚
迷信：現代人の判断から見て不合理と考えられるもの
脱却：すて去ること
喜ばしい：うれしい、楽しい

問　題

問１　①「迷信を作り出すもととなるような力」にならないものはどれか。

1　晴れた空を見て今日はすばらしい日だと思うこと
2　人の話を言葉の意味どおりに受け取ること
3　人の服装を見てどんな人か判断すること
4　自分を見ている人は自分のことが好きなのだと思うこと

問２　②「そこ」とあるが、どんなことを指しているか。

1　みんなが信じている迷信
2　いつもとちがう髪型や服装
3　いつもと同じ髪型や服装
4　幸せそうな女性

問３　（　③　）に入る最も適当な文はどれか。

1　意味だけからではないのです。
2　言葉ばかりからではないのです。
3　言葉だけからです。
4　言葉に意味があるからです。

問４　この文章の内容と合っているものはどれか。

1　私たち人間は言葉以外のものからも意味を読みとる。
2　私たち人間は言葉でしか意味を読みとらない。
3　私たち人間は喜んだり悲しんだりするものだ。
4　私たち人間は言葉を作り出すものだ。

読解のポイント

✒ **人間は定められたものに定められた意味しか読みとらないというような存在ではありません。**
＝人間は言葉などに決められた意味以上の意味を読み取る存在です。

✒ **状況**＝状態
その**状況**にとどまっている
＝その状態のまま、変化しない

✒ **人間はそうはいきません。**
＝人間はそうではありません。

✒ **すがすがしい空気の肌ざわり、**
＝きれいな空気を気持ちよいと感じること

✒ **何でもないことに意味を読みとるのです。**
＝普通のことに意味を感じるのです。

✒ **迷信を脱却した**＝迷信など信じていない

✒ **〜なり**＝〜など
日頃とは違った髪型**なり**
＝いつもと違った髪形など

✒ **喜ばしいこと**＝うれしいこと

✒ **言語らしいもの**＝言語のようなもの

チャレンジ

III　異文化の根っこ

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

牛の生き血を満たしたコップが目の前にさしだされたとき、頭に浮かんだのは「細菌がいっぱいだろうな」だった。

しかし、見つめているマサイの若者たちの手前、飲まないわけにはいかない。思い切って一気に飲んだ。意外に血のにおいはしない。私の懸命の表情がおかしかったのだろう、①若者たちが手をたたいて笑った。

（中略）

群れの中から、若くて健康な牛を一頭引き出してくる。小さな弓で、首の静脈に傷をつける。傷口からとろとろと流れ出た血を、革の容器に受ける。

採った血にほぼ倍の量の牛乳をまぜる。ピンク色の、いちごミルクのような液体ができあがる。それを空き缶のコップで回し飲みするのである。

伝統的な生活をするマサイの人々は、野菜や穀物をいっさい口にしない。土から生えてくるものは不浄だとする教えがあるからだ。食べるのは肉、乳、血だけである。それでも脚気や壊血症のようなビタミン欠乏症にならないのは、牛が草を食べてとったビタミンを生き血から摂取しているためだった。

細菌の恐れがある牛の血など飲まず、新鮮な野菜を食べればいいではないか。穀物や野菜は不浄だなどという不合理な考えは捨てて……。②そこまで考えてハッとした。

マサイが住むサバンナでは、雨が年間に300ミリ程度しか降らない。平均1800ミリといわれる日本の6分の1以下だ。

③そんな土地で農耕に依存する生活を始めたら最後、たちまち干ばつに悩まされることになる。民族の存亡にも関わる問題だ。そのため彼らは、④「土から生えるものは不浄だ」という教えで農業を遠ざけ、遊牧の生活に依拠しているのではないか——。

（松本 仁一「異文化の根っこ」岩波書店『図書』99年11月号掲載）

〜を満（み）たした：〜でいっぱいになった
細菌（さいきん）：バクテリア
一気（いっき）に：一息で
弓（ゆみ）：武器の一種
静脈（じょうみゃく）：血液を心臓に運ぶ血管　cf　動脈
とろとろと：ゆっくりと流れる様子
不浄（ふじょう）：よごれていること
乳（ちち）：ミルク
脚気（かっけ）：ビタミンの不足から起こる病気
壊血症（かいけつしょう）：ビタミンの不足から起こる病気
欠乏症（けつぼうしょう）：何かが足りなくなる病気
摂取（せっしゅ）：取り入れて自分のものにすること
恐（おそ）れ：よくない事が起こるのではないかという心配
ハッとした：急に思いついて驚いた
農耕（のうこう）：農業、田畑をたがやすこと
依存（いぞん）する：他の人をたよりにすること
干（かん）ばつ：長い間雨が降らず、水がなくなること
民族（みんぞく）：同じ言語や宗教を持つ人々の集団
存亡（そんぼう）：存在するかなくなるか
遠（とお）ざけ：近寄らないようにして
遊牧（ゆうぼく）：草や水を探して、牛や馬などの群れと一緒に移動すること
依拠（いきょ）：たよりにするところ

チャレンジ　ふりがな付本文

III 異文化の根っこ

牛の生き血を満たしたコップが目の前にさしだされたとき、頭に浮かんだのは「細菌がいっぱいだろうな」だった。

しかし、見つめているマサイの若者たちの手前、飲まないわけにはいかない。思い切って一気に飲んだ。意外に血のにおいはしない。私の懸命の表情がおかしかったのだろう、①若者たちが手をたたいて笑った。

（中略）

群れの中から、若くて健康な牛を一頭引き出してくる。小さな弓で、首の静脈に傷をつける。傷口からとろとろと流れ出た血を、革の容器に受ける。

採った血にほぼ倍の量の牛乳をまぜる。ピンク色の、いちごミルクのような液体ができあがる。それを空き缶のコップで回し飲みするのである。

伝統的な生活をするマサイの人々は、野菜や穀物をいっさい口にしない。土から生えてくるものは不浄だとする教えがあるからだ。食べるのは肉、乳、血だけである。それでも脚気や壊血症のようなビタミン欠乏症にならないのは、牛が草を食べてとったビタミンを生き血から摂取しているためだった。

細菌の恐れがある牛の血など飲まず、新鮮な野菜を食べればいいではないか。穀物や野菜は不浄だなどという不合理な考えは捨てて……。②そこまで考えてハッとした。

マサイが住むサバンナでは、雨が年間に300ミリ程度しか降らない。平均1800ミリといわれる日本の6分の1以下だ。

③そんな土地で農耕に依存する生活を始めたら最後、たちまち干ばつに悩まされることになる。民族の存亡にも関わる問題だ。そのため彼らは、④「土から生えるものは不浄だ」という教えで農業を遠ざけ、遊牧の生活に依拠しているのではないか――。

（松本仁一「異文化の根っこ」岩波書店『図書』'９９年11月号掲載）

～を満たした：～でいっぱいになった
細菌：バクテリア
一気に：一息で
弓：武器の一種
静脈：血液を心臓に運ぶ血管　　cf. 動脈
とろとろと：ゆっくりと流れる様子
不浄：よごれていること
乳：ミルク
脚気：ビタミンの不足から起こる病気
壊血症：ビタミンの不足から起こる病気
欠乏症：何かが足りなくなる病気
摂取：取り入れて自分のものにすること
恐れ：よくない事が起こるのではないかという心配
ハッとした：急に思いついて驚いた
農耕：農業、田畑をたがやすこと
依存する：他の人をたよりにすること
干ばつ：長い間雨が降らず、水がなくなること
民族：同じ言語や宗教を持つ人々の集団
存亡：存在するかなくなるか
遠ざけ：近寄らないようにして
遊牧：草や水を探して、牛や馬などの群れと一緒に移動すること
依拠：たよりにするところ

問　題

問１　①「若者たちが手をたたいて笑った」とあるが、なぜ笑ったのか。

1　私が牛の生き血をおいしそうな顔で飲んだから。
2　私が牛の生き血をまずそうな顔で飲んだから。
3　私が牛の生き血を必死の顔で飲んだから。
4　私が牛の生き血を飲めなかったから。

問２　②「そこまで考えてハッとした」とあるが、どうしてか。

1　マサイの人々は野菜がきらいなことに気がついたから。
2　マサイの人々が住む土地では、雨がほとんど降らないことに気がついたから。
3　マサイの人々にとって穀物や野菜は不浄ではないことに気がついたから。
4　マサイの人々が飲む牛の生き血には細菌の恐れのないことに気がついたから。

問３　③「そんな土地」とはどんな土地のことか。

1　雨が年間 300 ミリくらい降る土地
2　雨が年間 1800 ミリくらい降る土地
3　日本と同じように農業中心の土地
4　雨が日本の６倍くらい降る土地

問４　筆者はなぜ④「土から生えるものは不浄だ」という教えが守られていると考えるか。

1　土から生えるものを食べると病気になるから。
2　サバンナの土から生えるものはとても汚いから。
3　雨が降らない土地で牛を中心とした生活をするのは危険だから。
4　雨が降らない土地で農業中心の生活をするのは危険だから。

チャレンジ

IV ところ変わればことばも変わる

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

ところ変わればことばも変わる――だれでも知っていることですが、この当たり前のことが忘れられて、「あんな言い方はおかしい。正しくない」と、他の地域の人のことばを、唯一絶対の「規範」に引き比べて採点している、そんなことはありませんか。

では、その唯一絶対の「規範」とは何なのかとつきつめると、実は「その人自身のことば」にすぎないということが多いようです。自分のあり方をものさしにして「自分は言わない」、「自分とはちがっている」というだけで、（　①　）と評価しているわけです。これでは独りよがりといわざるをえないでしょう。意識しないまま、いわれのない偏見を生み出しているわけです。人間というのは、自分のあり方という色眼鏡を通してしかまわりを見られないので、そうした自分のあり方も、他の人のさまざまなあり方と同様、②ひとつのあり方にすぎないのだと、相対化・客観化して見ることがなかなかできないのです。

しかし、そうした独善、偏見を逃れることができたとしても、ことばのちがいそのものに気づかず、相手を「間違っている」と感じてしまう場合もないわけではありません。

よく知られた大方言、東京弁と大阪弁を例にして考えてみましょう。

ちがう言語どうしでは語の表す意味の範囲が異なることはよく知られています。③「水」ではやけどはありえませんが、waterではやけどをすることがあります。英語のwaterは日本語の「水」と「湯」とをあわせた意味をもつ語だからです。一方、日本語の「牛」は英語ではcowとoxで言い分けなければなりません。

同じことが日本語の方言の間にも見られます。しかし、こちらは、なまじ形が同じため、④そのちがいに気づきにくいのが厄介です。

薄味の料理に特徴のある大阪では「あまい」と「水くさい」（塩味の薄いこと）が区別されますが、その反対は区別なく「からい」です。一方、味の濃い料理が特徴の東京では「からい」と「しょっぱい」（塩味の濃いこと）を区別しますが、その反対は「あまい」です。ですから、たとえば「塩味の濃いこと」を言おうとして大阪の人が「からい」と言っても、⑤東京の人は「からい」からそうした意味を読みとれず、行き違って、お互い相手のことばを「おかしい」と感じかねないのです。

ことばを使う条件が異なることもあります。東京では「ありがとう」は、丁寧形「ありがとうございます」と使い分けられるもので、あまり丁寧な言い方ではありません。一方、大阪では、もともと使われていた「おおきに」がすたれ、代わりに「ありがとう」が普及してきていますが、「おおきに」は丁寧さが必要な場合、必要とされない場合どちらにも用いられたので、「ありがとう」にもそうした区別がありません。たとえば店員がお客に向かって「ありがとう」といっても、大阪の人には特に失礼な言い方とは感じられないのに、東京から来たお客なら、⑥ぞんざいなあつかいを受けたように感じかねないということが生じます。

方言のちがいというのは、実際に使われた語そのものが問題なのではなく、その背後にある「しくみ」（体系）のちがいが問題なのだということがおわかりいただけるでしょう。

（屋名池 誠「ところ変わればことばも変わる」
『新「ことば」シリーズ 17 言葉の「正しさ」とは何か』国立国語研究所）

規範：規則、基準
独りよがり：自分だけで、よいと思っていること
いわれ：事情、理由
偏見：公正でない意見
相対：お互いに比べること
客観：第三者の立場で物事を見ること
独善：自分だけが正しいと信じて行動すること
逃れる：逃げる
そのもの：それ自身
東京弁：東京の言葉
どうし：同じ仲間、互いに同じ種類のもの
なまじ：そうでないほうがいいのに
すたれる：使われなくなる
ぞんざいな：あつかい方などがていねいでない様子
あつかい：あつかうこと
背景：ある人や事件の後ろにあるもの
しくみ：構造

チャレンジ　ふりがな付本文

IV　ところ変わればことばも変わる

ところ変わればことばも変わる——だれでも知っていることですが、この当たり前のことが忘れられて、「あんな言い方はおかしい。正しくない」と、他の地域の人のことばを、唯一絶対の「規範」に引き比べて採点している、そんなことはありませんか。

ではその唯一絶対の「規範」とは何なのかとつきつめると、実は「その人自身のことば」にすぎないということが多いようです。自分のあり方をものさしにして「自分は言わない」、「自分とはちがっている」というだけで、（　①　）と評価しているわけです。これでは独りよがりといわざるをえないでしょう。意識しないまま、いわれのない偏見を生み出しているわけです。人間というのは、自分のあり方という色眼鏡を通してしかまわりを見られないので、そうした自分のあり方も、他の人のさまざまなあり方と同様、②ひとつのあり方にすぎないのだと、相対化・客観化して見ることがなかなかできないのです。

しかし、そうした独善、偏見を逃れることができたとしても、ことばのちがいそのものに気づかず、相手を「間違っている」と感じてしまう場合もないわけではありません。

よく知られた大方言、東京弁と大阪弁を例にして考えてみましょう。

ちがう言語どうしでは語の表す意味の範囲が異なることはよく知られています。③「水」ではやけどはありえませんが、water ではやけどをすることがあります。英語の water は日本語の「水」と「湯」とをあわせた意味をもつ語だからです。一方、日本語の「牛」は英語では cow と ox で言い分けなければなりません。

同じことが日本語の方言の間にも見られます。しかし、こ

ちらは、なまじ形が同じため、④そのちがいに気づきにくいのが厄介です。
薄味の料理に特徴のある大阪では「あまい」と「水くさい」(塩味の薄いこと)が区別されますが、その反対は区別なく「からい」です。一方、味の濃い料理が特徴の東京では「からい」と「しょっぱい」(塩味の濃いこと)を区別しますが、その反対は「あまい」です。ですから、たとえば「塩味の濃いこと」を言おうとして大阪の人が「からい」と言っても、⑤東京の人は「からい」からそうした意味を読みとれず、行き違って、お互い相手のことばを「おかしい」と感じかねないのです。

ことばを使う条件が異なることもあります。東京では「ありがとう」は、丁寧形「ありがとうございます」と使い分けられるもので、あまり丁寧な言い方ではありません。一方、大阪では、もともと使われていた「おおきに」がすたれ、代わりに「ありがとう」が普及してきていますが、「おおきに」は丁寧さが必要な場合、必要とされない場合どちらにも用いられたので、「ありがとう」にもそうした区別がありません。たとえば店員がお客に向かって「ありがとう」といっても、大阪の人には特に失礼な言い方とは感じられないのに、東京から来たお客なら、⑥ぞんざいなあつかいを受けたように感じかねないということが生じます。
方言のちがいというのは、実際に使われた語そのものが問題なのではなく、その背後にある「しくみ」(体系)のちがいが問題なのだということがおわかりいただけるでしょう。

(屋名池 誠「ところ変わればことばも変わる」
『新「ことば」シリーズ17 言葉の「正しさ」とは何か』国立国語研究所)

規範:規則、基準
独りよがり:自分だけで、よいと思っていること
いわれ:事情、理由
偏見:公正でない意見
相対:お互いに比べること
客観:第三者の立場で物事を見ること
独善:自分だけが正しいと信じて行動すること
逃れる:逃げる
そのもの:それ自身
東京弁:東京の言葉
どうし:同じ仲間、互いに同じ種類のもの
なまじ:そうでないほうがいいのに
すたれる:使われなくなる
ぞんざいな:あつかい方などがていねいでない様子
あつかい:あつかうこと
背景:ある人や事件の後ろにあるもの
しくみ:構造

問　　題

問１　（　①　）に入るものとして最も適当なものは次のどれか。

1「私の言い方はへんだ」
2「ところ変わればことばも変わるものだ」
3「正しくない」「間違っている」
4「当たり前だ」「正しい」

問２　②「ひとつのあり方にすぎない」とあるが、それはこの場合どのような意味か。

1　自分は他の人と同じではいけないという意味
2　自分だけが正しいわけではないという意味
3　自分も他の人も大切ではないという意味
4　自分は一人しかいないという意味

問３　③「『水』ではやけどはありえませんが、waterではやけどをすることがあります」とあるが、それはどのような意味か。

1　英語の「water」と日本語の「湯」は表す意味が同じだという意味
2　英語の「water」と日本語の「水」は表す意味が全く違うという意味
3　英語の「water」と日本語の「水」は表す意味が全く同じだという意味
4　英語の「water」は日本語の「水」と「湯」の両方の意味があるという意味

問４　④「そのちがい」とあるが、「そのちがい」とは何か。

1　ことばの表す意味の範囲が方言によって違うこと
2　ことばのアクセントが方言によって違うこと
3　ことばの形が方言によって違うこと
4　ことばの組み合わせ方が方言によって違うこと

問５　⑤「東京の人は『からい』からそうした意味を読み取れず」とあるが、それはなぜか。

1　東京の人は塩味の濃いことを「しょっぱい」というため。
2　東京の人は塩味の濃いことを「からい」というため。
3　東京の人は「からい」と「しょっぱい」ということばを知らないため。
4　東京の人は「からい」と「しょっぱい」が同じ意味だと思っているため。

問６　⑥「ぞんざいなあつかいを受けたように感じかねない」とあるが、それはなぜか。

1　大阪では「ありがとうございます」というのをなるべく避けるため。
2　大阪の人は「ありがとうございます」と「ありがとう」をはっきり区別するため。
3　大阪では客に対して丁寧さを表す表現を使わないため。
4　大阪の人は、東京の人が「ありがとうございます」というところを「ありがとう」というため。

01 ウラかオモテか

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

　数年前のことだが、ある官庁から封書が届いた。あけてみると、ワープロで打った文書がすぐ目にとびこんできた。つまり、文面を外にして折ってあったのである。ぎょっとした。差し出人は若い事務官らしい。おそらくものを知らないから、こんなことをしたのだろうと勝手に解釈した。

　それにしてもひどいものだとびっくりしたから、いつまでも頭にのこっていた。そして気をつけるともなく気をつけていると、①同じようなことをしている文書がときどきある。世の中はそこまで落ちぶれてきたのかと②情けない思いをして、ものを知らない代表のように言われる学生はどうであろう、と思ってアンケートをとることを考えついた。

　五十人にきいた。全員が文面を内側にして出す、と答えた。外にしたりすることがあるのか、と反問したものもいる。まずは常識的である、とひそかに安心した。やはりお役所がおかしいのだと、こんどはいっそう自信をもって勝手に判断した。そのことを文章に書いたものをいれて本を出版したところ知人から注意をうけた。

　③それは無知のせいではない。非常識ときめつけられては困る。このごろは文面を外にする折り方はすこしも珍しくない。自分も仕事上の通信ではそのようにしている。書いてあることが内側になっていると、ひらいて見るのに手間がかかる。外を向いていれば、一目で用件がわかって便利である。能率的である。もっとも私信は別で、これはかならず書いた方を内側にして便箋を折る……。

　そう言われて、ひどくおどろいた。いつのまにか世の中で新しい、自分のまったく知らない方式が行われていたのである。こちらが無知なのに、相手がいけないと思ったりして恥ずかしかった。この知人は大企業の最高幹部として活躍しているだけでなく、文筆でも一家をなしていて、日ごろから敬服している人だけに、④そのことばは決定的だった。私はさっそく自分の考えを訂正することにした。

　そこへやはり知り合いの年配の婦人からやはりその本をよんだといってはがきをもらった。その人が先年、ある機関の事務の仕事をすることになったとき、まず、最初に教えられた訓練は郵便物を出すとき、文面を外側にして折るように、ということだった、と書いてある。

　そう言われて注意してみると、あるわあるわ、文面を外にした郵便物が毎日いくつも届くのである。ダイレクトメールのたぐいが多いこともあって、これまで気づかなかった。そんなものは手紙と認めないから、ろくに見もしないで、ときには封も切らずにすてていた。そういう郵便物の多くは印刷してある。あるいはワープロで打ってある。事務用、業務用、宣伝用の通信で、手書きの私信で外側にしたのは、いまのところひとつもない。しかし、それだけ外折りがふえてくると、⑤私信といえども安心できなくなるかもしれない。

　折り曲げるから、文面を内にするか外にするかが問題になる。折り曲げてあるからひろげる面倒もおこる。一枚をそのままにして封に入れれば、そういうことが一挙に解決してしまう。そう考えるところが多くなったとしても不思議ではない。折らないものをそのまま送ってくる。それで郵便物がどんどん大型化してきた。

―中略―

　それはともかく、当面は、私信は文面を内側にし、事務通信、ダイレクトメールは外側にするという二通りの様式が共存することになる。そのことをまだ一般に知らない人が多いということを官庁や企業などの人は⑥頭に入れておいた方がよいかもしれない。われわれはなにごとによらず、むき出しをき

らう。金やものを人にわたすときにもかならず包む。封書からむき出しの文面がとび出してくるのはあまりいい感じのものではない。

（外山 滋比古『ことばと人間関係』チクマ秀版社）

ふりがな付本文

01 ウラかオモテか

数年前のことだが、ある官庁から封書が届いた。あけてみると、ワープロで打った文書がすぐ目にとびこんできた。つまり、文面を外にして折ってあったのである。ぎょっとした。差し出人は若い事務官らしい。おそらくものを知らないから、こんなことをしたのだろうと勝手に解釈した。

それにしてもひどいものだとびっくりしたから、いつまでも頭にのこっていた。そして気をつけるともなく気をつけていると、①同じようなことをしている文書がときどきある。世の中はそこまで落ちぶれてきたのかと②情けない思いをして、ものを知らない代表のように言われる学生はどうであろう、と思ってアンケートをとることを考えついた。

五十人にきいた。全員が文面を内側にして出す、と答えた。外にしたりすることがあるのか、と反問したものもいる。まずは常識的である、とひそかに安心した。やはりお役所がおかしいのだと、こんどはいっそう自信をもって勝手に判断した。そのことを文章に書いたものをいれて本を出版したところ知人から注意をうけた。

③それは無知のせいではない。非常識ときめつけられては困る。このごろは文面を外にする折り方はすこしも珍しくない。自分も仕事上の通信ではそのようにしている。書いてあることが内側になっていると、ひらいて見るのに手間がかかる。外を向いていれば、一目で用件がわかって便利である。能率的である。もっとも私信は別で、これはかならず書いた方を内側にして便箋を折る……。

そう言われて、ひどくおどろいた。いつのまにか世の中で新しい、自分のまったく知らない方式が行われていたのである。こちらが無知なのに、相手がいけないと思ったりして恥ずかしかった。この知人は大企業の最高幹部として活躍しているだけでなく、文筆でも一家をなしていて、日ごろから敬服している人だけに、④そのことばは決定的だった。私はさっそく自分の考えを訂正する

ことにした。

そこへやはり知り合いの年配の婦人からやはりその本をよんだといってはがきをもらった。その人が先年、ある機関の事務の仕事をすることになったとき、まず、最初に教えられた訓練は郵便物を出すとき、文面を外側にして折るように、ということだった、と書いてある。

そう言われて注意してみると、あるわあるわ、文面を外にした郵便物が毎日いくつも届くのである。ダイレクトメールのたぐいが多いこともあって、これまで気づかなかった。そんなものは手紙と認めないから、ろくに見もしないで、ときには封も切らずにすてていた。そういう郵便物の多くは印刷してある。あるいはワープロで打ってある。事務用、業務用、宣伝用の通信で、手書きの私信で外側にしたのは、いまのところひとつもない。しかし、それだけ外折りがふえてくると、⑤私信といえども安心できなくなるかもしれない。

折り曲げるから、文面を内にするか外にするかが問題になる。折り曲げてあるからひろげる面倒もおこる。一枚をそのままにして封に入れれば、そういうことが一挙に解決してしまう。そう考えるところが多くなったとしても不思議ではない。折らないものをそのまま送ってくる。それで郵便物がどんどん大型化してきた。

—中略—

それはともかく、当面は、私信は文面を内側にし、事務通信、ダイレクトメールは外側にするという二通りの様式が共存することになる。そのことをまだ一般に知らない人が多いということを官庁や企業などの人は⑥頭に入れておいた方がよいかもしれない。われわれはなにごとによらず、むき出しをきらう。金やものを人にわたすときにもかならず包む。封書からむき出しの文面がとび出してくるのはあまりいい感じのものではない。

（外山滋比古『ことばと人間関係』チクマ秀版社）

問　題

問1　①「同じようなことをしている文書」とあるが、どんな文書か。

1　ワープロで打った文書
2　文面を外にして折った文書
3　勝手な解釈を載せた文書
4　ものを知らずに書いた文書

問2　②「情けない思い」とあるが、筆者はなぜ情けないと思ったのか。

1　ワープロで打った文書はいつも文面を外にして折られていて、ぎょっとすることが多いから。
2　若い事務官は、文書の折り方に気を付けたり付けなかったりで、びっくりさせられることが多いから。
3　文面を外側にして折った非常識だと思われる文書をときどき見るので、ものを知らない人間が増えてきたと感じたから。
4　世の中が落ちぶれてきて、ものを知らない学生や若い事務官が多くなったから。

問3　③「それは無知のせいではない」とあるが、「それ」は何を指すか。

1　学生がものを知らないこと
2　文面を内側にして折ること
3　学生が反問したこと
4　文面を外にして折ること

問４　④「そのことばは決定的だった」とあるが、何を決定的にしたのか。

1　知人を敬服すること
2　自分の考えを訂正すること
3　文面を外側にして折ること
4　相手が間違っていること

問５　⑤「私信といえども安心できなくなるかもしれない」とあるが、どういう意味か。

1　私信は安心して送れなくなるかもしれない。
2　私信も印刷するようになるかもしれない。
3　私信も外折りになるかもしれない。
4　私信は折らずに送るようになるかもしれない。

問６　⑥「頭に入れておいた方がよいかもしれない」とあるが、何を頭に入れておくのか。

1　私信は文面を内に、事務通信、宣伝用は外にするという二通りの様式が共存すること
2　私信は文面を内に、事務通信、宣伝用は外にするという二通りの様式が将来もずっと共存するだろうということ
3　私信は文面を内に、事務通信、宣伝用は外にするという二通りの様式が共存することを、知らない人が多いこと
4　私信は文面を内に、事務通信、宣伝用は外にするという二通りの様式が共存することを、知らない人はいないこと

問７　文書の外折りを筆者はどのように思っているか。

1　世の中の新しい方式ではあるが、むき出しの文面は感じのいいものではないので、やめるべきだ。
2　あまり感じのいいものではないし、われわれの習慣にもそぐわないので非常識である。
3　文面を外にした郵便物は手紙と認められないから、事務用、業務用、宣伝用だけにしたほうがいい。
4　非常識であるとはいわないが、われわれの習慣にそぐわないし、あまり感じのいいものではない。

問３　③「それは無知のせいではない」とあるが、「それ」は何を指すか。

「それ」→「そのことを文章に書いた」→「そのこと」＝前の文全部

前の文の内容＝文面を外にして折る。

∴正解４　文面を外にして折ること

問５　⑤「私信といえども安心できなくなるかもしれない」とあるが、どういう意味か。

「私信で外側にしたのは、いまのところひとつもない。」を「しかし」で打ち消して、この文が続いている。

∴正解３　私信も外折りになるかもしれない。

問７　文書の外折りを筆者はどのように思っているか。

「自分の考えを訂正することにした。」という部分と、最後の「われわれはなにごとによらず、むき出しをきらう。」「あまり感じのいいものではない。」から判断できる。

∴正解４　非常識であるとはいわないが、われわれの習慣にそぐわないし、あまり感じのいいものではない。

日本の手紙の基本

【封筒の書き方】

・封筒には「和封筒」と「洋封筒」の２種類があります。

【便せんの折り方】

文章が書いてある方を内側にして、便せんを三つ折りにする。

文章が書いてある方を内側にして、便せんを四つ折りにする。

02 きまり文句

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

日本に来て暫くすると、僕のところにも年賀状が来るようになった。その返信として、何を書けばいいのかと迷っていた。友達に聞いてみると「昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします」と書くのが一番無難であると教えられた。お陰で僕は、その後の三、四年間、年賀状にはその文句以外、何も書くことはなかった。すべての年賀状に「昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします」とだけ書き、個人的な数人の友人にだけ、せいぜい「HAPPY NEW YEAR」と書き足す程度だった。まさに①馬鹿の一つ憶えのように、それだけの年賀状を出し続けていたのだ。その後、②目から鱗(うろこ)が落ちるような思いをしたのが、エプソンというコンピュータ関連機器メーカーのテレビコマーシャルの仕事だった。

当時エプソンでは、同社のプリンターを使った年賀状コンテストを行なっており、僕はその審査に参加することになった。集まった年賀状には、コンピュータを駆使したような、さまざまなデザインがあった。その中に、一際僕の目を引く年賀状があった。土佐の美しい紺碧(こんぺき)の海を背景に、父親らしき人物の元気な笑顔の写真が写っている。その父親の写真には吹き出しで、「みんな元気かい？　おれ元気よ」と書いてある。年賀状に書いてあるのはそれだけなのだが、とても素晴らしいと思った。なんて型破りなんだろう！　とても素直に自分の元気を伝え、皆の安否を気遣(きづか)っている。それがとてもいい感じに思えたのだ。

この年賀状を見たことがきっかけとなり、僕も自由に年賀状を書くようになった。しかも同じ日に、さらにもう一つ、③マニュアルに翻弄(ほんろう)されていた自分を発見する出来事があった。

外出先から自分の家に電話をして、留守番電話の伝言(メッセージ)(注)を確認しようとした。当然のことだが、留守番電話になっているので電話口には「只今出かけております。ご伝言のある方はピッという発信音の後にメッセージをお願いいたします」という自分の声で録音した案内が流れてくる。これは電話を買った時に、留守番電話の応答案内には何を録音すればよいのかを友人に聞き、教えられた科白をそのまま吹き込んだだけの案内だった。以来、無関心にもずっとそのままにしていたのだが、これがとても恥ずかしく思えたのだ。

僕は帰宅するなり、すぐさま録音をやり直した。今度は優しい声で「あなたからのお電話を心待ちにしておりました」といった具合だ。するとどうだろう、無言電話も減ったではないか！

留守電の案内音声ながら、優しい声で話しかけられれば、相手も無言で電話を切るのは悪いと思うのだろう。僕自身も、相手の留守番電話が機械音の案内音声だったりすると、伝言を残す気にもならない。もしかしたら間違った場所へ電話を掛けてしまったのかと思ってしまうことさえある。④携帯電話の留守番電話も同じだ。たいがいは機械音の案内音声が流れるが、自分の声で案内を録音している人もたまに居る。僕の場合、「ちょっと声が聞きたかった」という程度の理由では、機械音の案内に伝言を残すことはない。特に携帯電話の場合には、伝言を残さなくても着信履歴で誰から電話が掛かってきたのかが判別できるからだ。

言葉というのは、あくまでも人間と人間の個人的な触れ合いのためのものだと思っている。言葉は道具だが、言葉を通してお互いの関係をもっと良くしようとし、言葉を使ってお互いに気を遣い合う。

以前の僕の年賀状のように、すべての人に同じ文面の年賀

状を出していたら、それは結局、義務で送っているようなものになってしまうだろう。⑤そのような年賀状では、個人的な人間関係を築くことはまず無理だ。年賀状の文面一つをとってみても、マニュアルにある定型文を使うだけではなく、（　⑥　）。

（注）伝言　でんごん

（ピーター フランクル『美しくて面白い日本語』宝島社）

ふりがな付本文

02 きまり文句

日本に来て暫くすると、僕のところにも年賀状が来るようになった。その返信として、何を書けばいいのかと迷っていた。友達に聞いてみると「昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします」と書くのが一番無難であると教えられた。お陰で僕は、その後の三、四年間、年賀状にはその文句以外、何も書くことはなかった。すべての年賀状に「昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします」とだけ書き、個人的な数人の友人にだけ、せいぜい「HAPPY　NEW　YEAR」と書き足す程度だった。まさに①馬鹿の一つ憶えのように、それだけの年賀状を出し続けていたのだ。その後、②目から鱗が落ちるような思いをしたのが、エプソンというコンピュータ関連機器メーカーのテレビコマーシャルの仕事だった。

当時エプソンでは、同社のプリンターを使った年賀状コンテストを行なっており、僕はその審査に参加することになった。集まった年賀状には、コンピュータを駆使したような、さまざまなデザインがあった。その中に、一際僕の目を引く年賀状があった。土佐の美しい紺碧の海を背景に、父親らしき人物の元気な笑顔の写真が写っている。その父親の写真には吹き出しで、「みんな元気かい？　おれ元気よ」と書いてある。年賀状に書いてあるのはそれだけなのだが、とても素晴らしいと思った。なんて型破りなんだろう！　とても素直に自分の元気を伝え、皆の安否を気遣っている。それがとてもいい感じに思えたのだ。

この年賀状を見たことがきっかけとなり、僕も自由に年賀状を書くようになった。しかも同じ日に、さらにもう一つ、③マニュアルに翻弄されていた自分を発見する出来事があった。

外出先から自分の家に電話をして、留守番電話の伝言（注）を確認しようとした。当然のことだが、留守番電話になっているので電話口には「只今出かけております。ご伝言のある方はピッという発

信音の後にメッセージをお願いいたします」という自分の声で録音した案内が流れてくる。これは電話を買った時に、留守番電話の応答案内には何を録音すればよいのかを友人に聞き、教えられた科白をそのまま吹き込んだだけの案内だった。以来、無関心にもずっとそのままにしていたのだが、これがとても恥ずかしく思えたのだ。

僕は帰宅するなり、すぐさま録音をやり直した。今度は優しい声で「あなたからのお電話を心待ちにしておりました」といった具合だ。するとどうだろう、無言電話も減ったではないか！

留守電の案内音声ながら、優しい声で話しかけられれば、相手も無言で電話を切るのは悪いと思うのだろう。僕自身も、相手の留守番電話が機械音の案内音声だったりすると、伝言を残す気にもならない。もしかしたら間違った場所へ電話を掛けてしまったのかと思ってしまうことさえある。④携帯電話の留守番電話も同じだ。たいがいは機械音の案内音声が流れるが、自分の声で案内を録音している人もたまに居る。僕の場合、「ちょっと声が聞きたかった」という程度の理由では、機械音の案内に伝言を残すことはない。特に携帯電話の場合には、伝言を残さなくても着信履歴で誰から電話が掛かってきたのかが判別できるからだ。

言葉というのは、あくまでも人間と人間の個人的な触れ合いのためのものだと思っている。言葉は道具だが、言葉を通してお互いの関係をもっと良くしようとし、言葉を使ってお互いに気を遣い合う。

以前の僕の年賀状のように、すべての人に同じ文面の年賀状を出していたら、それは結局、義務で送っているようなものになってしまうだろう。⑤そのような年賀状では、個人的な人間関係を築くことはまず無理だ。年賀状の文面一つをとってみても、マニュアルにある定型文を使うだけではなく、（　⑥　）。

(注)伝言　でんごん

(ピーター フランクル『美しくて面白い日本語』宝島社)

問　題

問1　①「馬鹿の一つ憶えのように」と言っているのはなぜか。

1　個人的な数人の友人にだけ年賀状を出していたから。
2　無難であると教えられた同じ文句だけを毎年書いていたから。
3　馬鹿のような文句だけを毎年書いていたから。
4　昨年お世話になったことだけを毎年書いていたから。

問2　②「目から鱗が落ちるような思いをした」のはなぜか。

1　コンピュータ関連機器メーカーのコマーシャルに出演したから。
2　土佐の美しい紺碧の海の写真を見たから。
3　素直な気持ちを伝えた型にはまっていない年賀状を見たから。
4　父親に宛てた写真入りの年賀状を見たから。

問3　③「マニュアルに翻弄されていた」とあるが、この場合どういう意味か。

1　外出先から留守番電話の伝言を確認していたという意味
2　留守番電話の応答案内を優しい声で録音し直していたという意味
3　留守番電話の応答案内を友人に教えられた科白で流していたという意味
4　誰から電話があったかを着信履歴で調べていたという意味

問 4　④「携帯電話の留守番電話も同じだ」とあるが、何が同じなのか。

1　留守番電話の応答案内が優しい声でも無言で電話を切ること
2　「声が聞きたかった」という伝言を残すこと
3　着信履歴で誰から掛かってきたか分かるので伝言を残さないこと
4　留守番電話の応答案内が機械音の音声だと伝言を残す気にならないこと

問 5　⑤「そのような年賀状」とあるが、どんな年賀状か。

1　コンピュータを使って書いた年賀状
2　きまり文句だけを書いた年賀状
3　写真を入れた年賀状
4　自由に書いた年賀状

問 6　（　⑥　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　すべての人に同じ文面の年賀状を出すことも大切だろう
2　皆の安否を気遣(きづか)う文面を入れることも必要である
3　臨機応変に自分の気持ちを伝えればいいのである
4　コンピュータを駆使して書いてみてはどうか

問 7　筆者は言葉についてどのように考えているか。

1　言葉は個人的な人間関係を築くための道具であるから、言葉を使ってお互いに気を遣い合うことが大事である。
2　言葉は社会的人間関係を築く道具であるから、マニュアル的な挨拶や文章を使いこなせることが大事である。
3　言葉は個人的な触れ合いのためのものだから、年賀状や電話では丁寧な言葉を使わなければならない。
4　言葉は人間と人間の個人的な触れ合いを築くものであるから、無難な言い方や文章でお互いに気を遣い合うことが大事である。

03 部屋の条件

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

家具というものを、ほとんど持ったことがない。というのも、ひとり暮らしをしていく中で、住居のスペースのほうにお金を費やしてしまっていたからだ。つまり、分不相応（ぶんふそうおう）の広さの空間を手に入れていたということ。

仕事を持ってからも、①家賃ではいつも無理をしていたような気がする。

仮に、お給料が二十万円だとして、実際に使えるお金の中から家賃を捻出（ねんしゅつ）するとすれば、四分の一の五万円くらいが妥当なライン。でも、私は十万円くらいのスペースを借りていた。ああ、こんなことを思い出すたびに高すぎる家賃にカッとする！

いつもお給料の半分以上は、家賃にいってしまっていたと思う。

私は家にいるのが好きだし、空間を楽しむことも好きだし、その中で工作などをすることが好きだから、②テーブルや椅子といった具体的なものに情熱を傾けるよりも、「自分がいつもいて幸せでゆったりできる広さの空間」に情熱を傾けたかった。今でも、③この気持ちには変わりがない。

それに、仕事柄いろいろな家具を見ていたので、

「今、この家具に決めて買ってしまうと、部屋の感じが定まってしまう」

と考え、そのうちに、もっと自分の好きな家具に出会うかもしれない、などと思っているうちに、二十代、三十代はあっという間に過ぎた。

厚い、建材用のベニヤ板の下に事務用のキャビネットを置いて、下は収納、上は広いままの一枚板にしておく。そこにクリップライトをつけたスタンドを置く。

これが部屋の真ん中にデンとあって、ご飯を食べるのも、友達とおしゃべりするのも、原稿を書くのも、電話を掛けるのも、全部そこでやった。

このスタイルでずっと済ませてきたので、長い間ワンルーム暮らしだった。分かれたとしても、ベッドルームだけが別という感じだったから、家具らしきものは、さほど必要ではなかった。

ずっと昔から、ロフトというには狭すぎるが、何もないというところがロフトスタイルというか、スタジオタイプの生活で、仕事も私生活も二十四時間ミックスしていた。だから、家庭らしさといったことよりも、落ち着いて仕事ができることが、私の部屋の第一条件だった。

ソファが欲しいとか、飾り棚が欲しい、テーブルが欲しいといった気持ちにならなかったのは、④そのせいかもしれない。

つまり、⑤外の顔と家の顔というのが、きっぱり分かれていなかったのだ。いつも家にいる顔のようでいて、いつも働いているようなスタイル。だから、くつろぐということに対して、あまり興味がなかったともいえる。

今でも、くつろぐということ自体には、それほど興味はない。いわゆる「胡座（あぐら）をかいて、ドデッとしてテレビを見る」という感覚に憧れたり、それで気持ちが休まるだろうと思ったことは、ほとんどない。

ただ、ベッドルームに関しては、切り離して考えないとくたびれるようになってきた。

昔はワンルームだったから、朝起きたらちゃんとベッドを整えて、お客様が来てもいいようにスクリーンを立てたりしていた。

でも、三十代の半ば頃、病気がちになったりしたこともあっ

て、⑥ベッドルームだけは壁で隔てたほうが便利だと思うようになった。ドアを閉めれば、いつでも横になれるような場所も必要だと考えるようになってきた。

気兼ねせずに休めるそんな空間がひとつあれば、それ以外に居間などの「くつろぎの場所」は、私にはあまり必要ではなかった。

ゴロッとして、だらだらテレビを見るのを好む人もいれば、そうではない人もいる。

家に置く必要なものは、⑦こうしたスタイルによって、ずいぶん変わってくるものである。

（津田 晴美『住まい方は生き方』講談社）

ふりがな付本文

03 部屋の条件

家具というものを、ほとんど持ったことがない。というのも、ひとり暮らしをしていく中で、住居のスペースのほうにお金を費やしてしまっていたからだ。つまり、分不相応の広さの空間を手に入れていたということ。

仕事を持ってからも、①家賃ではいつも無理をしていたような気がする。

仮に、お給料が二十万円だとして、実際に使えるお金の中から家賃を捻出するとすれば、四分の一の五万円くらいが妥当なライン。でも、私は十万円くらいのスペースを借りていた。ああ、こんなことを思い出すたびに高すぎる家賃にカッとする！

いつもお給料の半分以上は、家賃にいってしまっていたと思う。

私は家にいるのが好きだし、空間を楽しむことも好きだし、その中で工作などをすることが好きだから、②テーブルや椅子といった具体的なものに情熱を傾けるよりも、「自分がいつもいて幸せでゆったりできる広さの空間」に情熱を傾けたかった。今でも、③この気持ちには変わりがない。

それに、仕事柄いろいろな家具を見ていたので、

「今、この家具に決めて買ってしまうと、部屋の感じが定まってしまう」

と考え、そのうちに、もっと自分の好きな家具に出会うかもしれない、などと思っているうちに、二十代、三十代はあっという間に過ぎた。

厚い、建材用のベニヤ板の下に事務用のキャビネットを置いて、下は収納、上は広いままの一枚板にしておく。そこにクリップライトをつけたスタンドを置く。

これが部屋の真ん中にデンとあって、ご飯を食べるのも、友達とおしゃべりするのも、原稿を書くのも、電話を掛けるのも、全

部そこでやった。

このスタイルでずっと済ませてきたので、長い間ワンルーム暮らしだった。分かれたとしても、ベッドルームだけが別という感じだったから、家具らしきものは、さほど必要ではなかった。

ずっと昔から、ロフトというには狭すぎるが、何もないというところがロフトスタイルというか、スタジオタイプの生活で、仕事も私生活も二十四時間ミックスしていた。だから、家庭らしさといったことよりも、落ち着いて仕事ができることが、私の部屋の第一条件だった。

ソファが欲しいとか、飾り棚が欲しい、テーブルが欲しいといった気持ちにならなかったのは、④そのせいかもしれない。

つまり、⑤外の顔と家の顔というのが、きっぱり分かれていなかったのだ。いつも家にいる顔のようでいて、いつも働いているようなスタイル。だから、くつろぐということに対して、あまり興味がなかったともいえる。

今でも、くつろぐということ自体には、それほど興味はない。いわゆる「胡座をかいて、ドデッとしてテレビを見る」という感覚に憧れたり、それで気持ちが休まるだろうと思ったことは、ほとんどない。

ただ、ベッドルームに関しては、切り離して考えないとくたびれるようになってきた。

昔はワンルームだったから、朝起きたらちゃんとベッドを整えて、お客様が来てもいいようにスクリーンを立てたりしていた。

でも、三十代の半ば頃、病気がちになったりしたこともあって、⑥ベッドルームだけは壁で隔てたほうが便利だと思うようになった。ドアを閉めれば、いつでも横になれるような場所も必要だと考えるようになってきた。

気兼ねせずに休めるそんな空間がひとつあれば、それ以外に居間などの「くつろぎの場所」は、私にはあまり必要ではなかった。

ゴロッとして、だらだらテレビを見るのを好む人もいれば、そうではない人もいる。

家に置く必要なものは、⑦こうしたスタイルによって、ずいぶん変わってくるものである。

（津田 晴美『住まい方は生き方』講談社）

問題

問1 ①「家賃ではいつも無理をしていた」とあるが、この場合どういう意味か。

1 使えるお金から家賃を捻出（ねんしゅつ）していたという意味
2 給料の半分以上を家賃に使っていたという意味
3 給料の四分の一を家賃に使っていたという意味
4 高い家賃にカッとしていたという意味

問2 ②「テーブルや椅子といった具体的なものに情熱を傾ける」とあるが、どういう意味か。

1 テーブルや椅子などにはお金を使わないという意味
2 好きなテーブルや椅子に出会うまで買わないという意味
3 テーブルや椅子を自分で作るという意味
4 テーブルや椅子などにお金を費やすという意味

問3 ③「この気持ちには変わりがない」とあるが、どんな気持ちか。

1 家具よりも住居のスペースにこだわりたいという気持ち
2 テーブルや椅子といった具体的なものにこだわりたいという気持ち
3 家具にも住居のスペースにもこだわりたいという気持ち
4 工作をすることだけを考えて住居を選びたいという気持ち

問4 ④「そのせいかもしれない」とあるが、何のせいか。

1 ロフトスタイルの部屋に住んでいたこと
2 ソファやテーブルが欲しいという気持ちがなかったこと
3 落ち着いて仕事ができることが部屋の第一条件だったこと
4 くつろぐことに興味があったこと

問5 ⑤「外の顔と家の顔というのが、きっぱり分かれていなかったのだ」とあるが、どういう意味か。

1 ロフトとスタジオスタイルの生活は同じだったという意味
2 仕事と私生活の区別がなかったという意味
3 働く場所とテレビを見る場所の区別がなかったという意味
4 外出の時と家にいる時の服装は同じだったという意味

問6 ⑥「ベッドルームだけは壁で隔（へだ）てたほうが便利だ」とあるが、どういう意味か。

1 ベッドルームだけは別の部屋にしたほうが便利だという意味
2 ベッドの横にだけはスクリーンを立てたほうが便利だという意味
3 ベッドだけは壁のそばに置いたほうが便利だという意味
4 ベッドルームだけはドアを閉めたほうが便利だという意味

問７　⑦「こうしたスタイルによって」とあるが、この場合「スタイル」とは何を意味するのか。

1　テレビの見方
2　ベッドの置き方
3　休み方
4　暮らし方

答　問7/4

読解のポイント

分不相応＝身分にふさわしくないこと
分不相応の広さの空間を手に入れていた
＝身分にふさわしくない広い部屋を手に入れていた。

捻出＝やりくりして必要なお金を作ること
実際に使えるお金の中から家賃を捻出するとすれば、
＝使えるお金から工夫して家賃を作り出すとすれば、

妥当＝適切
五万円くらいが妥当なライン。
＝五万円くらいが適切な金額。

さほど＝それほど、たいして（後ろに打ち消しの語がくる）
家具らしきものは、さほど必要ではなかった。
＝家具のようなものは、それほど必要ではなかった。

胡座（あぐら）＝両足を組んで座ること
「胡座をかいてドデッとしてテレビを見る」
＝「両足を組んでとても楽な姿勢でテレビを見る」

病気がち＝病気することが多い
病気がちになったり
＝病気をすることが多くなったり

隔てた＝あいだに物を置いた、仕切った
ベッドルームだけは壁で隔てたほうが便利だ
＝ベッドルームだけは壁で仕切ったほうが便利だ。

国際的感覚　04

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

「日本語は外国人には分らないむずかしい言葉だ」という思い込みは、日本人の間にまだ強いようだ。われわれは、外国人が巧みに日本語を操る光景に出くわすと、思わず称賛したくなるし、眼や髪が黒く、皮膚も黄土色の人が日本語を使えない場面に接すると、一瞬異様な感じを受けることがある。「いや私は国際的だからそんなことはない」と自負する人でも、日系人と初めて対面したときには、思わず日本語で話しかけるだろうし、その人が全然日本語が分らないことを知ると「ああ、そうだった。この人は外国人なんだ」と考え直し、①そのことを意識して話すようになるだろう。

　このごろは日本語の達者な外国人が多くなっているので、日本人は外国人が日本語を操る情景にも慣れてきた、という見解は、一見もっとものように響いてくる。

（　②　）。国際交流基金に勤めていた頃、私は、招聘（しょうへい）した日本語学習者や日本語教師など三百人ほどの外国人を対象に、日本語で日本人に声をかけたときの反応を聞くようにしていたが、今なお、十人に三人ぐらいは〝黙って逃げられた〟〝英語らしい言葉で返答された〟という経験を報告してきた。もちろん、話しかける彼らの日本語が拙（つたな）ければ、聞かれた日本人としても返答に困るだろう。③外国人の日本語の正確さや明晰さが反応に影響することも考慮に入れなければならないが、それでも、かなり流暢（りゅうちょう）に話す人の中からも、④右のような報告があるのだ。

　どうも、私達日本人は、まず相手の姿形、皮膚や眼の色を目で確かめて、その後でその人の音声を耳で聞き取ろうとするようだ。

　そのために、⑤青い眼の人を見ると、無条件で日本語を聞き取る準備を放棄してしまう癖（くせ）が身についているのではないだろうか。逆に身体が日本人に近い人々に対しては、日本人と同様の日本語を使うことを期待してしまうようだ。

　日系や東アジアの人からは、日本で買い物をしたとき、店先で、日本語が十分に話せないでいたら、⑥売り手の日本人が、その客が自分をからかっていると思い込んで態度を荒げた、というような報告も時々聞かされる。売り手が、その客をてっきり日本人だと思っていて、言葉のやりとりがうまくできないことに感情的な反応をしたことは、容易に推定できる。皮膚が黄土色で目が黒い人は日本語が分ると思い込んでいるのである。

　余談だが、こうした観念があるかぎり日本人の国際化は遠い、などとここで説教を垂れようとは思わない。なぜなら、中には、道を聞いたら、説明はしてもらえなかったが、その場所へと案内してもらった、という経験をして感激したという報告もあり、私は、国際的感覚とは、外国人との会話に慣れていなくても、こうした感動を与えられる姿勢があれば、すでに備（そな）わっていると思うからである。外国人に道を聞かれて、うまく説明できなかったり、また、外国人が日本語を話すことに驚いたりしても、その人が行きたいところまで案内をする労を厭（いと）わないという姿勢こそ、いわゆる国際化時代に必要な姿勢だと思う。

　また、⑦右に述べたような癖（くせ）は、日頃外国人に接している私達の中にも巣くっていることを素直に認めて初めて、適切な対応ができると、私は思っている。文化という〝長い間に積み重ねられた習慣〟の中で育てられた私達は、「国際化」という一片の標語を叫ぶだけでは、個々の文化に付随する癖を消すことはできないのだから。

（松井 嘉和『外国人から見た日本語』日本教文社）

国際的感覚 04

「日本語は外国人には分からないむずかしい言葉だ」という思い込みは、日本人の間にまだ強いようだ。われわれは、外国人が巧みに日本語を操る光景に出くわすと、思わず称賛したくなるし、眼や髪が黒く、皮膚も黄土色の人が日本語を使えない場面に接すると、一瞬異様な感じを受けることがある。「いや私は国際的だからそんなことはない」と自負する人でも、日系人と初めて対面したときには、思わず日本語で話しかけるだろうし、その人が全然日本語が分からないことを知ると「ああ、そうだった。この人は外国人なんだ」と考え直し、①そのことを意識して話すようになるだろう。

このごろは日本語の達者な外国人が多くなっているので、日本人は外国人が日本語を操る情景にも慣れてきた、という見解は、一見もっともなように響いてくる。

（②）。国際交流基金に勤めていた頃、私は、招聘した日本語学習者や日本語教師など三百人ほどの外国人を対象に、日本語で日本人に声をかけたときの反応を聞くようにしていたが、今なお、十人に三人ぐらいは〝黙って逃げられた〟〝英語らしい言葉で返答された〟という経験を報告してきた。もちろん、話しかける彼らの日本語が拙ければ、聞かれた日本人としても返答に困るだろう。③外国人の日本語の正確さや明晰さが反応に影響することも考慮に入れなければならないが、それでも、かなり流暢に話す人の中からも、④右のような報告があるのだ。

どうも、私達日本人は、まず相手の姿形、皮膚や眼の色を目で確かめて、その後でその人の音声を耳で聞き取ろうとするようだ。

そのために、⑤青い眼の人を見ると、無条件で日本語を聞き取る準備を放棄してしまう癖が身についているのではないだろうか。逆に身体が日本人に近い人々に対しては、日本人と同様の日本語を使うことを期待してしまうようだ。

日系や東アジアの人からは、日本で買い物をしたとき、店先で、日本語が十分に話せないでいたら、⑥売り手の日本人が、その客が自分をからかっていると思い込んで態度を荒げた、というような報告も時々聞かされる。売り手が、その客をてっきり日本人だと思っていて、言葉のやりとりがうまくできないことに感情的な反応をしたことは、容易に推定できる。皮膚が黄土色で目が黒い人は日本語が分ると思い込んでいるのである。

余談だが、こうした観念があるかぎり日本人の国際化は遠い、などとここで説教を垂れようとは思わない。なぜなら、中には、道を聞いたら、説明はしてもらえなかったが、その場所へと案内してもらった、という経験をして感激したという報告もあり、私は、国際的感覚とは、外国人との会話に慣れていなくても、こうした感動を与えられる姿勢があれば、すでに備わっていると思うからである。外国人に道を聞かれて、うまく説明できなかったり、また、外国人が日本語を話すことに驚いたりしても、その人が行きたいところまで案内をする労を厭わないという姿勢こそ、いわゆる国際化時代に必要な姿勢だと思う。

また、⑦右に述べたような癖は、日頃外国人に接している私達の中にも巣くっていることを素直に認めて初めて、適切な対応ができると、私は思っている。文化という〝長い間に積み重ねられた習慣〟の中で育てられた私達は、「国際化」という一片の標語を叫ぶだけでは、個々の文化に付随する癖を消すことはできないのだから。

（松井嘉和『外国人から見た日本語』日本教文社）

問　　題

問１　①「そのことを意識して話すようになるだろう」とあるが、何を意識するのか。

1　この日系人が日本語をむずかしいと感じていること
2　この日系人には日本語が通じないということ
3　この日系人は国際人だと自負しているが日本語はわからないということ
4　この日系人は巧みに日本語を操るが外国人であるということ

問２　（　②　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　そして、現実はそうだ
2　しかし、現実はそうだろう
3　だが、現実はそうではない
4　また、現実もそうだ

問３　③「外国人の日本語の正確さや明晰さが反応に影響することも考慮に入れなければならないが」とあるが、ここではどういう意味か。

1　外国人の話す日本語が正確ではっきりしていても、話しかけられた日本人は返答に困るかもしれないが
2　日本語で日本人に声をかけたときの反応は、外国人の話す日本語の正確さや明晰さに影響されないが
3　外国人の話す日本語が正しくはっきりしていれば、話しかけられた日本人も逃げたり英語らしい言葉で返答することはないかもしれないが
4　外国人は、自分が話す日本語の正確さや明晰さが日本人に与える影響を考慮しなければならないが

問４　④「右のような報告」とあるが、どんな報告か。

1　日本語で話しかけると、英語で返答する日本人が十人に三人はいた。
2　流暢（りゅうちょう）な日本語で話しかけると、ほめてくれる日本人が多かった。
3　拙（つたな）い日本語で話しかけられると、異様な感じを受けるという日本人がいた。
4　日本語で話しかけると、逃げられたり英語らしい言葉で返答されたりした。

問５　⑤「青い眼の人を見ると、無条件で日本語を聞き取る準備を放棄してしまう」とあるが、ここではどういう意味か。

1　日本人は、青い眼の人は日本語が話せないと思い込んでいるので、その人の日本語を聞こうとする意志をまったく持たなくなるという意味
2　青い眼の人も日本語を話せると思っているが、その人の日本語を聞いてみようとする気持ちはないという意味
3　日本語が話せるとわかっても青い眼の人には日本語で話しかけることはしないという意味
4　青い眼の人には日本語はむずかしいかもしれないので、日本語で聞くことをあきらめるという意味

05 相席

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

ひところ都心での「昼飯戦争」が話題になったが、行列をつくらないとなかなか食べられないという大都会のきびしい昼飯事情はあまりかわらない。そんなわけだから、昼時の食堂での相席はごくあたりまえになっている。「相席おねがいしまーす」と、まるでなんでもないことのようにいわれる。

けれども、いったい見も知らぬ人とじっと向かいあってすわっているだけでも気詰まりなのに、①そんな状態でものを食べるのは落ち着かないことはなはだしい。どうしても大急ぎでかきこんで席を立つということになる。飽食の時代などとよくいわれるが、日本人の食事のこうした風景はまことに貧しく、寒々しい思いすらする。

知らない人を同席させる相席という習慣が日本でいつからはじまったのかつまびらかにしないが、テーブルが一般に広まる以前にはかんがえられないから、そうふるいことではないだろう。

まったくの他人といっしょに食事をすることには、満員電車で知らない人と顔をつきあわせて立っているときなどとはまたちがった、特別なうっとうしさがある。

肉体に直接かかわるほかの作用と同様に、食べることにはどこの社会にもさまざまなタブーがあり、概してつつしみが求められる。そのために、たいていの社会で、多かれ少なかれ、こみいった食事作法がきめられている。食べるところをみられるのを裸をみられる以上に恥ずかしがる社会もあれば、男女別々に食事をする社会もある。

食べることは、饗宴などの例外的機会をのぞけば、本来、人間が自分の「なわばり」で、もっとも親しい者とのみおこなう、きわめてプライベートな行為なのだ。

②人間のなわばりには集団的なものもあるが、まず個々人が他人に立ちいられると不安になって逃げだしたくなるような非許容空間をもっている。個人のまわりに泡のように広がるその空間は自我の延長なのだ。相席をさせられると、この空間をたがいに侵すことになり、無意識にも不安がつのって、食べ物の滋味をどれほど薄くするかわからない。

もう少し厳密にいうと、それでも③カウンターの席なら、隣りにだれがすわってもさほど抵抗を感じないのは、「個人空間」ともいわれる人間の個人のなわばりが、前方に長く、背後や左右には短い楕円形をしているあかしである。

（　④　）、今日の日本のように家族がそろって食事をする日が少なくなると、他人と同席して勝手に食べたいものを食べるのをなんとも思わなくなっているのだろう。しかし、⑤これは文化からの退行でなければ、逸脱ではないか。

（野村 雅一『しぐさの人間学』河出書房新社）

discuss the point in detail

reserve, modesty

dismal, gloomy
（わずらわしい）
うっとうしい天気

髪がのびてうっとうしい

05 相席

ふりがな付本文

05 相席

ひところ都心での「昼飯戦争」が話題になったが、行列をつくらないとなかなか食べられないという大都会のきびしい昼飯事情はあまりかわらない。そんなわけだから、昼時の食堂での相席はごくあたりまえになっている。「相席おねがいしまーす」と、まるでなんでもないことのようにいわれる。

けれども、いったい見も知らぬ人とじっと向かいあってすわっているだけでも気詰まりなのに、①そんな状態でものを食べるのは落ち着かないことはなはだしい。どうしても大急ぎでかきこんで席を立つということになる。飽食の時代などとよくいわれるが、日本人の食事のこうした風景はまことに貧しく、寒々しい思いすらする。

知らない人を同席させる相席という習慣が日本でいつからはじまったのかつまびらかにしないが、テーブルが一般に広まる以前にはかんがえられないから、そうふるいことではないだろう。

まったくの他人といっしょに食事をすることには、満員電車で知らない人と顔をつきあわせて立っているときなどとはまたちがった、特別なうっとうしさがある。

肉体に直接かかわるほかの作用と同様に、食べることにはどこの社会にもさまざまなタブーがあり、概してつつしみが求められる。そのために、たいていの社会で、多かれ少なかれ、こみいった食事作法がきめられている。食べるところをみられるのを裸をみられる以上に恥ずかしがる社会もあれば、男女別々に食事をする社会もある。

食べることは、饗宴などの例外的機会をのぞけば、本来、人間が自分の「なわばり」で、もっとも親しい者とのみおこなう、きわめてプライベートな行為なのだ。

②人間のなわばりには集団的なものもあるが、まず個々人が他人に立ちいられると不安になって逃げだしたくなるような非許容空

間をもっている。個人のまわりに泡のように広がるその空間は自我の延長なのだ。相席をさせられると、この空間をたがいに侵すことになり、無意識にも不安がつのって、食べ物の滋味をどれほど薄くするかわからない。

もう少し厳密にいうと、それでも③カウンターの席なら、隣りにだれがすわってもさほど抵抗を感じないのは、「個人空間」ともいわれる人間の個人のなわばりが、前方に長く、背後や左右には短い楕円形をしているあかしである。

（　④　）、今日の日本のように家族がそろって食事をする日が少なくなると、他人と同席して勝手に食べたいものを食べるのをなんとも思わなくなっているのだろう。しかし、⑤これは文化からの退行でなければ、逸脱ではないか。

（野村雅一『しぐさの人間学』河出書房新社）

問　題

問１　①「そんな状態」とあるが、どんな状態か。

1　行列をつくらなければならない状態
2　知らない人と向かい合ってすわっている状態
3　すぐに席を立たなければならない状態
4　食事を短時間で済ませなければならない状態

問２　②「人間のなわばり」とあるが、この場合どんなものか。

1　他人が立ち入ると抵抗を感じる空間
2　自我の立ち入ることができない空間
3　家族が立ち入ると抵抗を感じる空間
4　他人が立ち入っても抵抗を感じない空間

問３　③「カウンターの席なら、隣りにだれがすわってもさほど抵抗を感じない」とあるが、なぜか。

1　個人のまわりには泡のように広がる非許容空間があるから。
2　楕円形をした個人のなわばりは、左右の非許容空間が広いから。
3　楕円形をした個人のなわばりは、左右の非許容空間が狭いから。
4　カウンターの席は長いので個人のなわばりが広くなるから。

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　たとえば
2　単に
3　とりあえず
4　ともあれ

問５　⑤「これは」とあるが、何を指すか。

1　カウンターの席で隣りにだれかすわると抵抗を感じること
2　他人と同席して勝手に食べたい物を食べることに抵抗を感じないこと
3　家族がそろって食事をする日が少なくなっていること
4　相席をさせられると食べ物の味がかわること

問６　筆者の言う「個人のなわばり」の形からすると、他人が入って来たときに抵抗を感じる空間が広いのは、どの位置だと考えられるか。

1　右側
2　左側
3　前方
4　後方

問７　筆者は相席についてどのように思っているか。

1　行列しなければ昼食が食べられないという大都会の事情があり、当然のこととして受け入れるべきだ。
2　食べることはプライベートな行為であるが、親しい者とのみ相席をしてはいけない。
3　どこの社会にもそれぞれの食事作法があるのだから、相席もその作法に合ったものでなければならない。
4　家族が食事を共にしなくなったり、相席をなんとも思わなくなっているのは文化からの退行である。

読解のポイント

✒ **ひところ**＝以前のある時期
ひところ都心での「昼飯戦争」が話題になった。
＝以前に、ある時期、都心での「昼飯戦争」が話題になった。

✒ **相席**＝飲食店などで、知らない他の客と同じ席に着くこと

✒ **見も知らぬ**＝まったく知らない

✒ **気詰まり**＝まわりに遠慮して、気持ちが窮屈なこと
見も知らぬ人とじっと向かいあってすわっているだけでも気詰まり
＝まったく知らない人と向かいあってすわっているだけでも窮屈に感じる。

✒ **〜すら**＝〜さえも、〜(で)さえ
寒々しい思いすらする。
＝寒々しい思いさえもする。

✒ **つまびらか**＝詳しく、明らか
いつからはじまったのかつまびらかにしない
＝いつからはじまったのかわからない。

✒ **概して**＝だいたい、一般に

✒ **つつしみ**＝間違いのないように気を付けること
概してつつしみが求められる。
＝一般に間違いのないように気を付けることが要求される。

✒ **滋味**＝味がよいこと、味わいがあること
食べ物の滋味をどれほど薄くするかわからない。
＝食べ物がどれほどおいしくなくなるかわからない。

問題を解くための解説

問2　②「人間のなわばり」とあるが、この場合どんなものか。

「人間のなわばり」＝「個々人が他人に立ちいられると不安になって逃げだしたくなるような非許容空間」
「非許容空間」＝入ってきてほしくない空間
∴正解１　他人が立ち入ると抵抗を感じる空間

問3　③「カウンターの席なら、隣りにだれがすわってもさほど抵抗を感じない」とあるが、なぜか。

「個人空間」は「左右には短い」→カウンター席では、人は横に並んですわる。
∴正解３　楕円形をした個人のなわばりは、左右の非許容空間が狭いから。

問5　⑤「これは」とあるが、何を指すか。

「これ」は直前のものを指す。
∴正解２　他人と同席して勝手に食べたいものを食べることに抵抗を感じないこと

問6　筆者のいう「個人のなわばり」の形からすると、他人が入ってきたときに抵抗を感じる空間が広いのは、どの位置だと考えられるか。

個人のなわばりの形＝前方→長い、背後・左右→短い
∴正解３　前方

06 「め」と「レンガ」

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

顔の話しが出たついでに、眼や鼻のことも調べてみたい。さきに述べたように、「頬」や「顎」が正確にはどの部分を言うのかが不明であっても、眼がどこの部分かはっきりしないなどと思う人はまずいないだろう。

ところが意外なことに、眼も実はどの部分のことだか、良く分らないのである。

①この点を明らかにするために、「煉瓦」ということばと、「め」ということばの、それぞれ五種類の使い方を次に比較してみよう。

(1) このレンガは四角い。　(1)' 彼のめは丸い。
(2) このレンガは赤い。　(2)' 彼のめは青い。
(3) このレンガは重い。　(3)' 彼のめは大きい。
(4) このレンガは固い。　(4)' 彼のめはいい。
(5) このレンガは凹んでいる。　(5)' 彼のめは凹んでいる。

上段(1)から(5)までは、ある一個のレンガについて、そのいろいろな性質を述べた文であり、下段(1)'から(5)'までは、ある人の眼について、さまざまな描写を試みた文である。

上段の文はすべて、同一の対象（referent）を次々と形容しているのであり、②そこでは「レンガ」

ということばと、レンガという対象の関係は不変である。ところが、文の形の上では、これと全く変わらない下段の五つの文の中に出てくる「め」ということばと、それが対応する（　③　）は全く違っている。

(1)'における「め」は、上下のまぶたで作られる形を形容しているので、眼球が丸いと言っているわけではない。(2)'の文の「め」とは、虹彩のことである。(3)'では眼球が、まぶたから外部に露出している部分の大きさをいい、(4)'では視力のことであり、(5)'は眼球それ自体が凹んでいるわけではなく、眼球と顔面との相対的な位置が形容されているのである。

レンガが凹んでいると言えば、レンガの一部が欠けたか、とれたかして他の部分より引込んでいることであるし、赤い、重い、固い、四角いなどすべてレンガ自体についての形容であるのと比べると、「め」ということばが指す対象がいかに変化するかに、④今更のように驚かされるのである。一体日本語の「め」とは、体のどの部分を指すことばであろうか。

はじめ人間の顔の各部分の名称を相互に比較したときは、「頬」や「こめかみ」に比べて、「眼」はどちらかといえば、（　⑤　）、いざその眼に焦点を当ててみると、⑥何が眼なのか、はっきりしなくなってしまう。

（鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書）

「め」と「レンガ」 06

顔の話しが出たついでに、眼や鼻のことも調べてみたい。さきに述べたように、「頬」や「顎」が正確にはどの部分を言うのかが不明であっても、眼がどこの部分かはっきりしないなどと思う人はまずいないだろう。ところが意外なことに、眼も実はどの部分のことだか、良く分からないのである。

①この点を明らかにするために、「煉瓦」ということばと、「め」ということばの、それぞれ五種類の使い方を次に比較してみよう。

(1) このレンガは四角い。　(1)' 彼のめは丸い。
(2) このレンガは赤い。　(2)' 彼のめは青い。
(3) このレンガは重い。　(3)' 彼のめは大きい。
(4) このレンガは固い。　(4)' 彼のめはいい。
(5) このレンガは凹んでいる。　(5)' 彼のめは凹んでいる。

上段(1)から(5)までは、ある一個のレンガについて、そのいろいろな性質を述べた文であり、下段(1)'から(5)'までは、ある人の眼について、さまざまな描写を試みた文である。

上段の文はすべて、同一の対象（referent）を次々と形容しているのであり、②そこでは「レンガ」という**ことばと、レンガという対象の関係は不変である。**ところが、文の形の上では、これと全く変わらない下段の五つの文の中に出てくる「め」ということばと、それが対応する（③）は全く違っている。

(1)'における「め」は、上下のまぶたで作られる形を形容しているので、眼球が丸いと言っているわけではない。(2)'の文の「め」とは、虹彩のことである。(3)'では眼球が、まぶたから外部に露出している部分の大きさをいい、(4)'では視力のことであり、(5)'は眼球それ自体が凹んでいるわけではなく、眼球と顔面との相対的な位置が形容されているのである。

レンガが凹んでいると言えば、レンガの一部が欠けたか、とれたかして他の部分より引込んでいることであるし、赤い、重い、固い、四角いなどすべてレンガ自体についての形容であるのと比べると、「め」ということばが指す対象がいかに変化するかに、④今更のように驚かされるのである。一体日本語の「め」とは、体のどの部分を指すことばであろうか。

はじめ人間の顔の各部分の名称を相互に比較したときは、「頬」や「こめかみ」に比べて、「眼」はどちらかといえば、（⑤）、いざその眼に焦点を当ててみると、⑥何が眼なのか、はっきりしなくなってしまう。

（鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書）

問　　題

問１　①「この点を明らかにするために」とあるが、「この点」とは何を指すか。

1　「眼」がどの部分かはっきりしないと思う人が多いこと
2　「眼」がどの部分かはっきりしないと思う人はいないこと
3　「眼」がどの部分であるかはっきりしていること
4　「眼」がどの部分か良く分らないこと

問２　なぜ②「そこでは『レンガ』ということばと、レンガという対象の関係は不変である」と分るのか。

1　「レンガ」という言葉で表されるものは種類が少ないから。
2　「レンガ」という言葉で表されるものはいつも同じ物であるから。
3　「レンガ」を表すほかの言葉が存在しないから。
4　「レンガ」ははっきりとした対象を持っていないから。

問３　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　対象の言葉
2　文の形の関係
3　対象の関係
4　形容詞の意味

問４　④「今更のように驚かされるのである」と言っているが、筆者は何に驚いているのか。

1　「め」ということばが一定の部分を表していることに驚いている。
2　「め」ということばの表す部分は一定ではないことに驚いている。
3　日本語が考えていたより不正確であることに驚いている。
4　日本語は少ないことばで多くの表現をすることが可能であることに驚いている。

問５　（　⑤　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　それ自体の境界は明瞭（めいりょう）だが、独立性の強いものではないように思えたのだが
2　それ自体の境界は明瞭ではないが、独立性の強いものであるように思えたのだが
3　それ自体の境界の明瞭な、独立性の強いものであるように思えたのだが
4　それ自体の境界が不明瞭な、独立性の弱いものであるように思えたのだが

問６　筆者は⑥「何が眼なのか、はっきりしなくなってしまう」と言っているが、それはなぜか。

1　「め」ということばの対象が不変であるから。
2　「め」ということばの意味が分りにくいから。
3　「め」ということばの対象が変化するから。
4　「め」ということばの対象が存在しないから。

問７　この文のタイトルとして最も適当なものはどれか。
1　指示対象の神秘性
2　指示対象のあいまい性
3　指示対象の絶対性
4　指示対象の対称性

読解のポイント

✏ **まず**＝たぶん
まずいないだろう
＝たぶんいないだろう。

✏ **試みる**＝してみる
さまざまな描写を試みた文である。
＝いろいろな方法で説明してみた文である。

✏ **それ自体が**＝そのものが
眼球それ自体が凹んでいるわけではなく、
＝眼球そのものが凹んでいるのではなく、

✏ **相対的** ⇔ 絶対的
眼球と顔面との相対的な位置が形容されているのである。
＝眼球が顔の表面に対してどの程度凹んでいるかを述べているのである。

✏ **今更のように**＝もう分っていることなのに、今はじめてのように
今更のように驚かされるのである。
＝もう分っていたことだから、(驚かないと思っていたが) やはり驚いてしまう。

✏ **境界が明瞭**＝境目(さかいめ)がはっきりしている。
境界が明瞭な独立性が強いもの
＝境目がはっきりしていて、他と混同されないもの

✏ **いざ**＝さて、いよいよ
いざ～する＝思い切って～をはじめる。
いざその眼に焦点を当ててみると、
＝さて、いよいよ、今まで話題にしていた眼に注目してみると、

問題を解くための解説

問１　①「この点を明らかにするために」とあるが、「この点」とは何を指すか。

「この」で指し示されるものは、直前の文中にある。
「眼も実はどの部分のことだか、良く分らないのである。」
∴正解４　「眼」がどの部分か良く分らないこと

問３　(　③　)に入るものとして最も適当なものはどれか。

「ところが」の後ろには前文と反対の文がくる。
「対象の関係は不変である。」⇔「対象の関係は全く違っている。」
∴正解３　対象の関係

問４　④「今更のように驚かされるのである」と言っているが、筆者は何に驚いているのか。

驚く対象→「対象がいかに変化するか」
∴正解２　「め」ということばの表す部分は一定ではないことに驚いている。

問５　(　⑤　)に入るものとして最も適当なものはどれか。

「はじめ人間の顔の各部分の名称を相互に比較したときは、『頬』や『こめかみ』に比べて、」とあるので、本文の最初の部分を参照する。
∴正解３　それ自体の境界の明瞭な、独立性の強いものであるように思えたのだが

07 「写す」・「移す」

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

ここで注目したいのは「うつす」というはたらきについてです。「子どもたちは身近な人々のありようを、自身の体にうつしかえる才能の持ち主である」。(注) ①子どもは身近な大人の生きざまを自分の身にうつしていきます。この「うつし」という言葉はいろいろな意味にとることが可能でしょう。たとえば鋳型と鋳物の関係です。幼い子どもたちは、まわりの大人の笑い声にあわせて意味もわからず一緒に笑いだすことがあります。また子ども同士でもよく行為が伝染します。誰か一人が泣きだすと、他の子どももわけがわからず泣きだすということがある。それどころか、誰かがお腹が痛くなると自分もそうなったり、他の子のおできを見て自分もうつるのではないかと気になりだすと、本当にできものができてしまう。そのような例は日常にあふれているでしょう。まさに病がうつるごとく、子どもたちの身体は互いにうつしあっています。むしろ②身体の一部がつながっていると見たほうがよくわかるかもしれぬほどです。

うつし、うつるという言葉をあえて漢字にせず用いましたが、これは非常に多義的な言葉です。大きく分けて「写す」と「移す」の二つの意味があります。子どもたちは他人の行為や動作を「写す」ことにすぐれていることを述べましたが、それは同時に感染や伝染とも見える形で、感情すら移ることも多い。しかも、子どもたちの砂場での遊びを見ていると、実際にものを「移す」ことに特別の愛着を抱いているように見えることもあります。砂を右手ですくい、それを左手に、また右手にと移しかえをくりかえす、そんな遊びはごく普通に見かけます。こういった単純な遊びながら、その行為から読み

取ることのできる意味は存外に深いものがあります。右手の指が左手に移るとき一方が満たされ、他方は空になります。あたりまえのことながら、これは子どもたちが自分に気づいていく過程と並行しているといえるのです。（　③　）、ものは移ることで新しい場所を得るが同時に前の場所を失う。一つのものが同時に二つの場所にあることはできない。これは自分が限られた肉体のなかにあって、同時に別のところにはないという発見につながっているようにも思われるのです。フロイトが一歳半の男の子の糸巻き遊びで確認したこと、あるいは、かくれんぼや鬼ごっこというもっともポピュラーな遊びにも「いる―いない」の対比が明確に表れております。

また、砂や水を器にいれながらそれをくつがえす＝覆すということも子どもたちはよくやります。何か容器に入っているものをひっくりかえす、まわりの大人が眉をしかめるのもいとわずそれだけの行為に楽しんでいるみたいです。その覆す行為がそのうち型どりをする、同型のものを作りだす遊びへと変化していきます。砂を泥状にしてプリン型に詰め、（　④　）、うまくできるまで何度もやる、こんな遊びをどの子どもたちもやっているでしょう。型を利用して「写し」をいくつも作っていく、これも読み方によってはいろんな意味が出てくると思われます。

（注）本田和子『子どもたちのいる宇宙』三省堂より引用

（森岡 正芳『こころの生態学』朱鷺書房）

ふりがな付本文

07 「写す」・「移す」

ここで注目したいのは「うつす」というはたらきについてです。「子どもたちは身近な人々のありようを、自身の体にうつしかえる才能の持ち主である」。(注) ①子どもは身近な大人の生きざまを自分の身にうつしていきます。この「うつし」という言葉はいろいろな意味にとることが可能でしょう。たとえば鋳型と鋳物の関係です。幼い子どもたちは、まわりの大人の笑い声にあわせて意味もわからず一緒に笑いだすことがあります。また子ども同士でもよく行為が伝染します。誰か一人が泣きだすと、他の子どももわけがわからず泣きだすということがある。それどころか、誰かがお腹が痛くなると自分もそうなったり、他の子のおできを見て自分もうつるのではないかと気になりだすと、本当にできものができてしまう。そのような例は日常にあふれているでしょう。まさに病がうつるごとく、子どもたちの身体は互いにうつしあっています。むしろ②身体の一部がつながっていると見たほうがよくわかるかもしれぬほどです。

うつし、うつるという言葉をあえて漢字にせず用いましたが、これは非常に多義的な言葉です。大きく分けて「写す」と「移す」の二つの意味があります。子どもたちは他人の行為や動作を「写す」ことにすぐれていることを述べましたが、それは同時に感染や伝染とも見える形で、感情すら移ることも多い。しかも、子どもたちの砂場での遊びを見ていると、実際にものを「移す」ことに特別の愛着を抱いているように見えることもあります。砂を右手ですくい、それを左手に、また右手にと移しかえをくりかえす、そんな遊びはごく普通に見かけます。こういった単純な遊びながら、その行為から読み取ることのできる意味は存外に深いものがあります。右手の指が左手に移るとき一方が満たされ、他方は空になります。あたりまえのことながら、これは子どもたちが自分に気づいていく過程と並行しているといえるのです。（　③　）、ものは移ることで新しい場所を得るが同時に前の場所を失う。一つのものが同時に二つの場所にあることはできない。これは自分が限られた肉体のなかにあって、同時に別のところにはないという発見につながっているようにも思われるのです。フロイトが一歳半の男の子の糸巻き遊びで確認したこと、あるいは、かくれんぼや鬼ごっこというもっともポピュラーな遊びにも「いる―いない」の対比が明確に表れております。

また、砂や水を器にいれながらそれをくつがえす＝覆すということも子どもたちはよくやります。何か容器に入っているものをひっくりかえす、まわりの大人が眉をしかめるのもいとわずそれだけの行為に楽しんでいるみたいです。その覆す行為がそのうち型どりをする、同形のものを作りだす遊びへと変化していきます。砂を泥状にしてプリン型に詰め、（　④　）、うまくできるまで何度もやる、こんな遊びをどの子どもたちもやっているでしょう。型を利用して「写し」をいくつも作っていく、これも読み方によってはいろんな意味が出てくると思われます。

（注）本田和子『子どもたちのいる宇宙』三省堂より引用

（森岡正芳『こころの生態学』朱鷺書房）

問　　題

問１　①「子どもは身近な大人の生きざまを自分の身にうつしていきます」とはどういう意味か。

1　周囲の大人の行為を次々にまねていくという意味
2　周囲の大人と同じことをして、それを鏡にうつして遊ぶという意味
3　周囲の大人の身なりをよく観察しているという意味
4　身近にあるものを何でも鏡にうつして遊ぶという意味

問２　②「身体の一部がつながっている」とはどういうことか。

1　子どもたちは手をつないだりして、いつも体がつながっている。
2　さまざまなものが伝染していくので、体がつながっているようだ。
3　子どもは同じようなことをするので、相手を鏡にうつしたようだ。
4　子どもは同じようなことをするので、心と心がつながっているようだ。

問３　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　けれども
2　あるいは
3　いっぽう
4　すなわち

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　その絵を描く
2　それを鏡にうつす
3　それを他の子どもと交換する
4　それを皿の上にひっくりかえす

問５　「うつし、うつるという言葉をあえて漢字にせず用いましたが」から始まる第二段落の内容と最も よく合っているものはどれか。

1　子どもはものを「移す」という行為を通して、反復の動作を学んでいく。
2　子どもはものを「移す」という行為を通して、自分の居場所を認識していく。
3　子どもは単純な遊びを通して、「写す」「移す」の違いを学んでいく。
4　「右」から「左」へものをうつすことで、子どもは「いる―いない」というかくれんぼや鬼ごっこのルールを学んでいく。

問６　文章の内容に最もよく合っているものはどれか。

1　子どもは同型のものを作り出す遊びの天才である。
2　「うつす」ということばには、「写す」「移す」の二つの意味がある。
3　子どもは感情を伝えることが上手である。
4　子どもはまわりの世界や大人の動きをうつしとっていく。

読解のポイント

✒ **生きざま**＝人の生き方
人の生きざまを自分の身にうつしていきます。
＝他人の生き方を自分でまねていきます。

✒ **鋳型**＝形をつくるための型

✒ **鋳物**＝型に金属等を流し込んで作った物
鋳型と鋳物の関係です。
＝型とその中にある物との関係です。

✒ **おでき**＝できもの、はれもの、ふきでもの
他の子のおできを見て自分もうつるのではないかと気になりだすと、
＝他人のふきでものを見て自分にも同じものができるのではないかと気になりだすと、

✒ **ごとく**＝ように
まさに病がうつるごとく、
＝ちょうど病気が他の人にうつるように、

✒ **あえて〜ない**＝特に〜ない、わざと〜ない
あえて漢字にせず用いましたが、
＝わざと漢字にしないで使いましたが、

✒ **多義的**＝いろいろな意味に解釈できるさま
多義的な言葉です。
＝いろいろな意味に取れる言葉です。

✒ **愛着**＝慣れ親しんでいる物や人と離れたくないと感じること
愛着を抱いているように見えることもあります。
＝それが好きで離れたくない、やめたくないと感じているように見えることもあります。

✒ **すくう**＝手やスプーンなどで、液体や粉を軽くくみ取ること
砂を右手ですくい、
＝砂を、右手を使ってくみ取り、

✒ **存外に**＝思いのほかに
意味は存外に深いものがあります。
＝思っているより深い意味があります。

✒ **過程**＝段階

✒ **フロイト**＝Sigmund Freud　心理学者、精神科医

✒ **かくれんぼ**＝子どものグループ遊びの一つ
一人が「鬼」になり、かくれている他の子どもを探す遊び

✒ **鬼ごっこ**＝子どもの遊びの一つ
一人が「鬼」になり、走って逃げる子どもを追いかけて、つかまえる遊び

✒ **覆す**＝ひっくり返す
それをくつがえす＝覆すということも子どもたちはよくやります。
＝それをひっくり返すということも子どもたちはよくします。

✒ **眉をしかめる**＝心配や不快感から暗い顔をする

✒ いとわず＝いとわない、いやではない、いやがらない、気にしない
大人が眉をしかめるのもいとわず
＝大人がいやな顔をするのも気にしないで

問題を解くための解説

問１　①「子どもたちは身近な大人の生きざまを自分の身にうつしていきます」とは、どういう意味か。

「身近な大人の生きざま」＝周囲にいる大人の生き方やしていること
「自分の身にうつしていく」＝真似をする
∴正解１　周囲の大人の行為を次々に真似ていくという意味

問３　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

（　③　）の前：子どもたちが砂を右手から左手にもちかえてものの移動を学んでいる。
（　③　）の後：「一つのものが同時に二つの場所にあることはできない」
（　③　）の前と後ろは同じことを述べている。
∴正解４　すなわち

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「覆す行為がそのうち型どりをする、同形のものを作りだす遊びへと変化」
→「砂を泥状にしてプリン型に詰め、」
∴正解４　それを皿の上にひっくりかえす

問５　「うつし、うつるという言葉をあえて漢字にせず用いましたが」から始まる第二段落の内容と最もよく合っているものはどれか。

この段落では「移す」行為が述べられている。
「砂を右手ですくい、それを左手に、また右手にと移しかえをくりかえす」「これは子どもたちが自分に気づいていく過程と並行しているといえるのです。」
こういう遊びを通して、子どもは自分の存在を認識していく。
∴正解２　子どもはものを「移す」という行為を通して、自分の居場所を認識していく。

08 左右対称

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、１・２・３・４から最も適当なものを一つ選びなさい。

多くの生物は左右対称のからだの構造をもっている。私たち人間の顔の作りや手足なども、鳥の羽や昆虫の手足や羽も、左右対称になっていることが多い。これらの構造は、理想的には対称になるはずなのだが、実際は、細かくみれば本当に対称ではない。たとえば、誰の顔をみても、目、鼻、口、眉の造作に（　①　）。

ＦＡとは、生物のからだのいろいろな部分の対称性が、理想的な対称から微妙にずれている度合いを表わす。これが、行動生態学とどんな関係があるのだろう？　手足や顔のような左右対称の構造は、本来、遺伝的にはきっちり対称になるように設計されているはずだが、発生の途上のさまざまな悪条件や事故、疾病などによって、本来の完全な対称は達成されないことが多い。

そこで、②これらの構造に関して、きちんと対称になっている個体がいたとしたら、その対称性は、発生途上の厳しい条件にもかかわらず達成されたのだから、その個体が遺伝的に非常に強いことを物語っているのかもしれない。そうだとすると、③雌は、配偶者の選り好みをするときに、雄の形質の対称性のゆらぎに注目しているかもしれないのである。

これまで、昆虫の左右の四枚の羽、鳥の左右の羽、魚の左右の鰭（ひれ）などに関して、④ＦＡの少ない個体、すなわち、より完全な対称に近い個体ほど、繁殖成功度が高いことが、いろいろな種でみつかっている。

しかし、これには二つの意味がある。鰭や羽は、実際にその生物が暮らしていく上で重要な器官であり、それは対称であるほど効率よく働く。ツバメの尾羽には、左右二本だけすーっと長い羽があるが、それが左右対称でなければ、飛翔に支障がでる。そこで、そのような、実際の生活上で機能している器官が対称である個体は、異性にもてるかどうかとは別に、生存率や寿命のうえで（　⑤　）はずだ。

一方、クジャクの大きな飾り羽で代表されるような、雌に対する求愛の小道具の役割だけを果たしている器官には、実際の生活上の機能はない。つまり、飾り羽が左右対称でなくても、飛んだり走ったりすることに支障はないのである。（　⑥　）、そのような器官も対称に作られていることが多い。⑦それは、その器官のＦＡに着目して、雌が雄を選んできたからなのだろうか？

このことに関しては、まだ決着がついていない。器官の対称性が、雌の配偶者選びの重要な指標になっているかどうかも、対称性が本当に遺伝的な強さを表わしているのかどうかも、まだ、論争の余地がある。私たちも、最近、クジャクの羽のＦＡと繁殖成功との関係を研究しているが、決定的な結論は得られていない。

（長谷川 眞理子『科学の目 科学のこころ』岩波新書）

ふりがな付本文

08 左右対称

　多くの生物は左右対称のからだの構造をもっている。私たち人間の顔の作りや手足なども、鳥の羽や昆虫の手足や羽も、左右対称になっていることが多い。これらの構造は、理想的には対称になるはずなのだが、実際は、細かくみれば本当に対称ではない。たとえば、誰の顔をみても、目、鼻、口、眉の造作に（　①　）。

　ＦＡとは、生物のからだのいろいろな部分の対称性が、理想的な対称から微妙にずれている度合いを表わす。これが、行動生態学とどんな関係があるのだろう？　手足や顔のような左右対称の構造は、本来、遺伝的にはきっちり対称になるように設計されているはずだが、発生の途上のさまざまな悪条件や事故、疾病などによって、本来の完全な対称は達成されないことが多い。

　そこで、②これらの構造に関して、きちんと対称になっている個体がいたとしたら、その対称性は、発生途上の厳しい条件にもかかわらず達成されたのだから、その個体が遺伝的に非常に強いことを物語っているのかもしれない。そうだとすると、③雌は、配偶者の選り好みをするときに、雄の形質の対称性のゆらぎに注目しているかもしれないのである。

　これまで、昆虫の左右の四枚の羽、鳥の左右の羽、魚の左右の鰭などに関して、④ＦＡの少ない個体、すなわち、より完全な対称に近い個体ほど、繁殖成功度が高いことが、いろいろな種でみつかっている。

　しかし、これには二つの意味がある。鰭や羽は、実際にその生物が暮らしていく上で重要な器官であり、それは対称であるほど効率よく働く。ツバメの尾羽には、左右二本だけすーっと長い羽があるが、それが左右対称でなければ、飛翔に支障がでる。そこで、そのような、実際の生活上で機能している器官が対称である個体は、異性にもてるかどうかとは別に、生存率や寿命のうえで（　⑤　）はずだ。

　一方、クジャクの大きな飾り羽で代表されるような、雌に対する求愛の小道具の役割だけを果たしている器官には、実際の生活上の機能はない。つまり、飾り羽が左右対称でなくても、飛んだり走ったりすることに支障はないのである。（　⑥　）、そのような器官も対称に作られていることが多い。⑦それは、その器官のＦＡに着目して、雌が雄を選んできたからなのだろうか？

　このことに関しては、まだ決着がついていない。器官の対称性が、雌の配偶者選びの重要な指標になっているかどうかも、対称性が本当に遺伝的な強さを表わしているのかどうかも、まだ、論争の余地がある。私たちも、最近、クジャクの羽のＦＡと繁殖成功との関係を研究しているが、決定的な結論は得られていない。

（長谷川 眞理子『科学の目 科学のこころ』岩波新書）

問　　題

問１　（　①　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　左右のずれはまったくないものだ
2　多少の左右のずれはあるものだ
3　はっきりした左右のずれがあるものだ
4　理想的ずれがあるものだ

問２　②「これら」は何を指しているか。

1　さまざまな悪条件を作る構造
2　本来の完全な対称が達成されなかった構造
3　手や足のような左右対称の構造
4　微妙に対称性がずれた構造

問３　③「雌は、配偶者の選り好みをするときに、雄の形質の対称性のゆらぎに注目しているかもしれないのである」といっているが、筆者はなぜこう思うのか。

1　対称性のゆらぎの多いものほど遺伝的に強いと考えられるから。
2　正確に左右対称の個体は遺伝的に強いと考えることができるから。
3　正確に左右対称であるなしにかかわらず、雌は好きな雄を選ぶから。
4　正確に左右対称であっても、遺伝的に強いとは考えにくいから。

問４　④「ＦＡの少ない個体」とはどんな個体か。

1　対称性のずれがない個体
2　対称すぎて魅力が少ない個体
3　対称性のずれが少ない個体
4　対称性のゆらぎが大きい個体

問５　（　⑤　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　有利である
2　不利である
3　危険である
4　無用である

問６　（　⑥　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　それで
2　それはそうとして
3　それにもかかわらず
4　それゆえに

問７　⑦「それは、その器官のＦＡに着目して、雌が雄を選んできたからなのだろうか？」と筆者が考えるのはなぜか。

1　すべての器官が左右対称になっているとはいえないから。
2　求愛の小道具の器官が左右対称になっていないから。
3　生活上で機能している器官が左右対称になっているから。
4　求愛の小道具の器官が左右対称になっているから。

答　問1/2　問2/3　問3/2　問4/3　問5/1　問6/3　問7/4

読解のポイント

- **ＦＡ**＝fluctuating asymmetry の略
- **微妙**＝細かい
  理想的な対称から微妙にずれている度合いを表わす。
  ＝理想的な対称からわずかにずれている程度を表わす。

- **行動生態学**＝動物の行動を研究する学問

- **本来の完全な対称は達成されないことが多い。**
  ＝設計されていたような完全な対称にはならないことが多い。

- **物語っている**＝はっきりと示している。
  その個体が遺伝的に非常に強いことを物語っているのかもしれない。
  ＝その個体が遺伝的に優れていることを示しているかもしれない。

- **選り好み**＝好きなものだけを選ぶこと
  雌は、配偶者の選り好みをするときに、
  ＝雌が配偶者にしたい雄を選ぶときに、

- **形質**＝形と性質

- **ゆらぎ**＝ゆれること、ぐらぐら動くこと
  雄の形質の対称性のゆらぎに注目しているかもしれないのである。
  ＝雄の体つきがどの程度対称性をもっているかに注目しているかもしれない。

- **繁殖**＝動物や植物が増えること
  繁殖成功度が高いことが、
  ＝繁殖力が強いことが、

- **効率がいい**＝能率がいい
  生物が暮らしていく上で重要な器官であり、それは対称であるほど効率よく働く。
  ＝対称性が高ければ高いほど、その器官は優れている。

- **飛翔**＝飛ぶこと
  飛翔に支障がでる。
  ＝うまく飛べない。

- **機能する**＝動く、働く
  生活上で機能している器官
  ＝生活をするために大切な働きをする器官

- **もてる**＝人気がある
  異性にもてるかどうかとはべつに、
  ＝異性に人気があるかどうかは、考えに入れないで、

- **着目する**＝注目する
  その器官のＦＡに着目して、
  ＝その器官のＦＡの度合いをみて、

- **指標**＝目印
  配偶者選びの重要な指標
  ＝結婚相手を選ぶときの重要な条件・目印

- **余地がある**＝余裕がある、ゆとりがある
  論争の余地がある。
  ＝まだ論争すべき部分がある。

✏ 決定的＝確実

決定的な結論は得られていない。
＝はっきりとした結論はまだでていない。

問題を解くための解説

問１　（　①　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「理想的には対称になるはずなのだが、実際は、細かくみれば本当に対称ではない。」
「細かくみれば本当に対称ではない」＝多少の左右のずれはあるものだ。
∴正解２　多少の左右のずれはあるものだ

問３　③「雌は、配偶者の選り好みをするときに、雄の形質の対称性のゆらぎに注目しているかもしれないのである」と言っているが、筆者はなぜこう思うのか。

「きちんと対称になっている個体がいたとしたら、その対称性は、発生途上の厳しい条件にもかかわらず達成されたのだから、その個体が遺伝的に非常に強いことを物語っているのかもしれない。」
∴正解２　正確に左右対称の個体は遺伝的に強いと考えることができるから。

問４　④「ＦＡの少ない個体」とはどんな個体か。

「ＦＡとは、生物のからだのいろいろな部分の対称性が、理想的な対称から微妙にずれている度合いを表わす。」
「微妙にずれている度合い」→ 少しずれているという意味
対称性のずれが少ない個体＝あまりずれていない個体
対称性のずれがない個体＝まったくずれていない個体
∴正解３　対称性のずれが少ない個体

問６　（　⑥　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「飾り羽が左右対称でなくても、飛んだり走ったりすることに支障はない」＝左右対称は必要ない。
「そのような器官も対称に作られている」＝対称になっている
左右対称は必要ない。⇔ 対称になっている。
前文と後文は反対の関係
∴正解３　それにもかかわらず

09 言語と住まい

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

　さきに記したように、日本で私のようなおしゃべり人間が損をしがちなのは、日本人の言語習慣に深く根ざした現象であろう。日本の人間関係では①「言わなくても察する」という非言語コミュニケーションが重視される。これは、農耕、漁労などの共同労働を通じて地域の人々が皆気持ちを通じあっていたムラ的社会の心情が今も残っているからだろう。そこには気配りや思い遣りなど捨て難い美点もあるが、それらが物事を明確に処理すべき場にまで持ち込まれ、国政の重要事項に関する駆け引きが政治家同士の腹芸で決まるなんてことは感心しない。その点で欧米は、国情による多少の差はあっても一般に日本に比べればずっと言葉社会である。アメリカの大統領選挙でテレビ討論、つまり言葉による戦いが重視され、そこで話された言葉が一回ごとに支持率に反映するのを見ると②つくづくそう思う。

　この違いは家族についてもあって、日本の家族はあまりしゃべらないで、日常的な接触を通じてお互いの気持ちを察しあい、非言語コミュニケーションに頼って人間関係を処理する傾向が強い。もちろん家庭は他人と関わる外の社会とは違い、私的な共同体なのだから思い遣りや気配りの役割も大切である。しかしそうした非言語コミュニケーションが十分に機能するためには条件がある。それは黙っている相手の気持ちを察するにはある程度長い接触時間が必要だ、ということだ。日本の昔の住まい方は③この条件を問題なく満たしていた。子供部屋が稀であった時代には、家族は皆茶の間に居て夕食から就寝まで接触し続けていたからである。しかしだからと言って「（　④　）」というふうに後ろ向きに考えてはならないだろう。自分の子供の頃を思い出してみれば分かることだが、子供は必ずしも家族団欒を楽しんで茶の間に居つづけたのではなく、他に行く場所がないから仕方なく居たという面もあるのだ。

　欧米の家族はよくしゃべる。外国の友人と会っても、映画などを見ても、夫婦が毎日「愛している」と言いあう場面によく出会う。まぁこれは日本人には照れ臭くて真似できないし、そうする気もないが、「黙っていては分からないから言葉で表現する」という習慣の典型として見れば興味深い。これは家族全体の関係でもそうで、私が過去に接したアメリカ人の家族は親子でもよくしゃべる。そして夫が子供との会話で妻に触れる時に、日本のように「お母さん」とは決して言わずyour motherと言うのが印象的だ。つまり彼女はお前の母親であって、自分にとっては母親ではなく妻だということを、ごく自然に言語化しているのだ。母親が子供と夫の話をする時もyour dadになるのだろう。

　思うにこういう言葉づかいは、子供を幼くても人格を備えた「個」、つまり年齢に応じてではあるが⑤「他人」の部分もそれなりにある存在、としてとらえることから発しているのだろう。子供部屋の存在を前提にすれば、日本の現代の家族も⑥この段階に達しているのではないか。つまり子供部屋というものは、家族それぞれが「個」として認めあい、その結果として個室を持つ欧米の、それも都市的な住様式の一部なのだ。

　そうであるとすれば、子供が子供部屋に閉じこもるのを嘆く人は、その原因の少なくとも一部が、家族の関わりを子供部屋のなかった時代、つまりお茶の間時代の非言語コミュニケーションに頼っていることにありはしないか、と考えてみる必要がありそうだ。個室を前提とした住まい方は、実は言語表現とワンセットなので、日本の子供部屋問題は家族の会話、言語による自己表現能力の訓練をなおざりにして、間取りだけ輸入したことにあるのではないか。

（渡辺 武信『住まい方の実践』中公新書）

09 言語と住まい

さきに記したように、日本で私のようなおしゃべり人間が損をしがちなのは、日本人の言語習慣に深く根ざした現象であろう。日本の人間関係では①「言わなくても察する」という非言語コミュニケーションが重視される。これは、農耕、漁労などの共同労働を通じて地域の人々が皆気持ちを通じあっていたムラ的社会の心情が今も残っているからだろう。そこには気配りや思い遣りなど捨て難い美点もあるが、それらが物事を明確に処理すべき場にまで持ち込まれ、国政の重要事項に関する駆け引きが政治家同士の腹芸で決まるなんてことは感心しない。その点で欧米は、国情による多少の差はあっても一般に日本に比べればずっと言葉社会である。アメリカの大統領選挙でテレビ討論、つまり言葉による戦いが重視され、そこで話された言葉が一回ごとに支持率に反映するのを見ると②つくづくそう思う。

この違いは家族についてもあって、日本の家族はあまりしゃべらないで、日常的な接触を通じてお互いの気持ちを察しあい、非言語コミュニケーションに頼って人間関係を処理する傾向が強い。もちろん家庭は他人と関わる外の社会とは違い、私的な共同体なのだから思い遣りや気配りの役割も大切である。しかしそうした非言語コミュニケーションが十分に機能するためには条件がある。それは黙っている相手の気持ちを察するにはある程度長い接触時間が必要だ、ということだ。日本の昔の住まい方は③この条件を問題なく満たしていた。子供部屋が稀であった時代には、家族は皆茶の間に居て夕食から就寝まで接触し続けていたからである。しかしだからと言って「（　④　）」というふうに後ろ向きに考えてはならないだろう。自分の子供の頃を思い出してみれば分かることだが、子供は必ずしも家族団欒を楽しんで茶の間に居つづけたのではなく、他に行く場所がないから仕方なく居たという面もあるのだ。

欧米の家族はよくしゃべる。外国の友人と会っても、映画などを見ても、夫婦が毎日「愛している」と言いあう場面によく出会う。まぁこれは日本人には照れ臭くて真似できないし、そうする気もないが、「黙っていては分からないから言葉で表現する」という習慣の典型として見れば興味深い。これは家族全体の関係でもそうで、私が過去に接したアメリカ人の家族は親子でもよくしゃべる。そして夫が子供との会話で妻に触れる時に、日本のように「お母さん」とは決して言わずyour motherと言うのが印象的だ。つまり彼女はお前の母親であって、自分にとっては母親ではなく妻だということを、ごく自然に言語化しているのだ。母親が子供と夫の話をする時もyour dadになるのだろう。

思うにこういう言葉づかいは、子供を幼くても人格を備えた「個」、つまり年齢に応じてではあるが⑤「他人」の部分もそれなりにある存在、としてとらえることから発しているのだろう。子供部屋の存在を前提にすれば、日本の現代の家族も⑥この段階に達しているのではないか。つまり子供部屋というものは、家族それぞれが「個」として認めあい、その結果として個室を持つ欧米の、それも都市的な住様式の一部なのだ。

そうであるとすれば、子供が子供部屋に閉じこもるのを嘆く人は、その原因の少なくとも一部が、家族の関わりを子供部屋のなかった時代、つまりお茶の間時代の非言語コミュニケーションに頼っていることにありはしないか、と考えてみる必要がありそうだ。個室を前提とした住まい方は、実は言語表現とワンセットなので、日本の子供部屋問題は家族の会話、言語による自己表現能力の訓練をなおざりにして、間取りだけ輸入したことにあるのではないか。

（渡辺 武信『住まい方の実践』中公新書）

問　題

問１　①「言わなくても察する」が重視されるとあるが、なぜか。

1　ムラ社会ではおしゃべりな人は嫌われるから。
2　気配りや思い遣りが重要視されないから。
3　共同作業を通じて、人々が気持ちを理解してきたムラ社会構造が残っているから。
4　農耕・漁労などに従事する人は、作業内容がわかっているので言葉で指示する必要はないから。

問２　②「つくづくそう思う」とあるが、何を思うのか。

1　国政の重要事項に関することも政治家の腹芸で決まってしまうこと
2　アメリカは日本よりずっと言葉社会であること
3　アメリカでもまだムラ社会の心情が残っていること
4　アメリカの大統領選挙ではいつもテレビ討論会が行われること

問３　③「この条件」とはどんなことか。

1　長い接触時間が必要なこと
2　気配りや思い遣りが必要なこと
3　家の真ん中に茶の間があること
4　家族がいつも家にいること

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　今はいい
2　今もよくない
3　昔はよかった
4　昔はよくなかった

問５　⑤「他人」とあるが、ここではどういう意味か。

1　子供もある年齢を過ぎると、親と他人のような関係になるという意味
2　子供を大人と同じに扱い、親であっても子供に丁寧な言葉を使うという意味
3　子供であっても、一人の「個」をもつ人間として扱うという意味
4　親子は結局他人であるという意味

問６　⑥「この段階」とは具体的にどんな段階か。

1　家族の中でも一人一人を人格のある個として認める段階
2　都市的な生活様式が送れるような段階
3　親子の間でも会話がよく行われる段階
4　言語による自己表現能力がついてきた段階

問７　この文章の内容と最も合っているものはどれか。

1　日本は住まい方だけを輸入し、言語による自己表現能力を磨かなかったため子供が閉じこもってしまうことが多くなった。
2　家族が黙っていても気持ちが通じ合うのは今も昔も同じである。
3　日本人は非言語コミュニケーションで、思いやりの心を育てるべきである。
4　非言語コミュニケーションに頼っている限り、都会的な生活は送れない。

読解のポイント

✒ **～に根ざした**＝根本的な原因は～にある
日本人の言語習慣に深く根ざした現象であろう。
＝日本人の言語習慣に根本的な原因がある現象だろう。

✒ **ムラ的社会**＝「ムラ」のような社会、人間関係などが村のように緊密な社会
ムラ的社会の心情が今も残っているからだろう。
＝「ムラ」社会のような人間関係が今でも機能しているからであろう。

✒ **気配り**＝心配り、配慮、あれこれ気をつけること

✒ **思い遣り**＝相手の立場や気持ちを理解しようとする心

✒ **捨て難い**＝捨てにくい、捨てるのが難しい
そこには気配りや思い遣りなど捨て難い美点もあるが、
＝相手に対する心配りや、相手を理解しようとする心のような、捨てるのが惜しい、良い点もあるが、

✒ **駆け引き**＝交渉などで、その場の状況や相手の出方などを見て、自分に有利なようにことを運ぶこと
国政の重要事項に関する駆け引き
＝国の大切な政策などに関して、自分のほうに有利になるようにことを運ぶこと

✒ **腹芸**＝心の中に思っていることを言葉や行動でではなく、経験や度胸で処理して行くこと
政治家同士の腹芸で決まる
＝政治家たちは討論などの言葉上のやりとりを経ないで、物事を決める。

✒ **非言語コミュニケーション**＝言葉を使わないで意思を伝えること
非言語コミュニケーションに頼って人間関係を処理する傾向が強い。
＝言葉を使わないで、人間関係の諸問題に対処しようとする傾向がある。

✒ **稀**＝めずらしい、めったにない
子供部屋が稀であった時代には、
＝子供部屋がある家が少なかった時代には、

✒ **茶の間**＝家族が一緒に楽しくすごす部屋、居間
家族は皆茶の間に居て夕食から就寝まで接触し続けていたからである。
＝家族は夕食から寝るまで、一緒に茶の間という一つの部屋にいたからである。

✒ **後ろ向き**＝消極的、後退的 ⇔ 前向き
後ろ向きに考えてはならないだろう。
＝ものごとを消極的に考えてはいけないだろう。

✒ **団欒**＝集まって、和やかに楽しむこと
家族団欒を楽しんで
＝家族が集まって仲良く楽しんで

✒ **照れ臭く**＝恥ずかしく
日本人には照れ臭くて真似できないし、
＝日本人には恥ずかしくて真似をすることができないし、

✒ **会話で〜に触れる**＝〜に関して話す
夫が子供との会話で妻に触れる時に、
＝夫が子供との会話で妻について話す時に、

✒ **それなりに**＝それ相応に、欠点などがあっても、
「他人」の部分もそれなりにある存在、
＝「他人」のような部分も、ある程度はある存在、

✒ **なおざりにする**＝いい加減にする
自己表現能力の訓練をなおざりにして、
＝言葉で自分自身を表すという訓練を十分にしないで、

問題を解くための解説

問1　①「言わなくても察する」が重視されるとあるが、なぜか。

「言わなくても察する」＝言わなくてもわかる。
後文がヒントになる。「これは、農耕、漁労……ムラ社会の心情が今も残っているからだろう。」
∴正解3　共同作業を通じて、人々が気持ちを理解してきたムラ社会構造が残っているから。

問3　③「この条件」とはどんなことか。

「この」は直前のものを指す。
∴正解1　長い接触時間が必要なこと

問4　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「後ろ向きに考えてはならない」
＝消極的には考えない、昔を懐かしんでばかりいてはいけない。
（　④　）には「後ろ向き」を示すものが入る。
∴正解3　昔はよかった

問５　⑤「<u>他人</u>」とあるが、ここではどういう意味か。

前文にヒントあり。

「子供を幼くても人格を備えた『個』、つまり年齢に応じてではあるが」

∴正解３　子供であっても、一人の「個」をもつ人間として扱うという意味

問７　この文章の内容と最も合っているものはどれか。

最後の段落に要点がまとめられている。

「子供が子供部屋に閉じこもるのを……非言語コミュニケーションに頼っていることにありはしないか、」

＝会話をしなくても分かり合えるという気持ちで子供に接し、会話をあまりしないことが、子供が子供部屋に閉じこもることの原因になっているのではないか、

∴正解１　日本は住まい方だけを輸入し、言語による自己表現能力を磨かなかったため子供が閉じこもってしまうことが多くなった。

日本のことわざ【その１】

・**灯台下暗し**（とうだいもとくらし）

意味　灯台のすぐ下は暗いところから、身近な事情はかえってわかりにくいたとえ。

例　「私の眼鏡がない。どこへ行っちゃったんだろう」
「頭の上にあるじゃないの。**灯台下暗し**、ね」

・**猫に小判**（ねこにこばん）

意味　貴重なものを与えても、本人にはその値うちがわからないことのたとえ。

例　高価な茶器をいただいたのだが、私にはいい物とは思えない。「**猫に小判**」というのだろうか。値うちがさっぱりわからないのだ。

・**朱に交われば赤くなる**（しゅにまじわればあかくなる）

意味　人は交わる友だちによって、善悪どちらにも感化される。

例　彼は最近友だちに影響されてギャンブルばかりしている。「**朱に交われば赤くなる**」というのは本当だ。

・**三人寄れば文殊の知恵**（さんにんよればもんじゅのちえ）

意味　平凡な人でも三人が協力すれば、よい知恵が出るものだ。

例　「**三人寄れば文殊の知恵**」と言うから、私たちいっしょにやればうまくいきますよ、きっと。

＞＞＞日本のことわざ【その２】はP.131にあります。

10 心理学

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

心理学の世界には「現象学」というひとつの立場が根づよいが、これは現実世界というのは各自の受けとり方の世界である、という考え方である。私の専攻するカウンセリングの分野でいえば、ロジャーズの自己理論や実存主義的アプローチがそれである。ところが①これに対して、客観的事実を確認する立場がある。たとえば心理テストとか行動療法の理論である。

私は「現象学」のよさを認めつつも、（　②　）。「私の父はケチだ」とか「彼はのっぽだ」とか「彼女はガリ勉家だ」というい方は現象学のいい方である。「私は父がケチだと思っている」「私は彼がのっぽだと思っている」「私は彼女がガリ勉家だと思っている」というのが正確ないい方である。つまり「私は……と思っている」のであって、他の人はどう認識するか知りませんよ、私がどう思っているかだけの話ですよ、という含みがある。

私たちは③ここで客観的事実を明確にする精神をもたなければならない。人生を生きるのに「……だと思って」生きてはならぬ。思い込みで生きてはならぬ。事実に則して生きねばならぬ。そこでこうなる。

「父はケチだと思っていたが、ケチだと判断する資料はどれだけあるか」、これを考えることである。結婚式の費用を出してくれなかった、という事実ひとつだけで「ケチである」と結論してよいか。一般化（generalization）のしすぎではないか。こう考えていくのが客観主義である。あるいは「彼はのっぽだ」と思っていたが、日本人の平均身長を考えると「のっぽ」と判断できないことに気づく。平均身長（事実）を知らないで、ただぼんやりと「のっぽだなあ」と思い込んではならない、と警告を発するのが客観主義である。

（　④　）という場合、このように、現象学的世界（受けとり方の世界）と客観的事実の世界（測定・実証可能の世界）のふたつが考えられるが、本章ではとくに後者を強調した。事実の世界は私たちに絶望を与えるかもしれない。たしかに釈迦は生老病死という事実の世界を直視して、ペシミズムに陥った。しかし彼はそこから人生への洞察を得たのである。私たちも自分なりの着眼点（フレイム・オブ・レファランス）から人生の現実を直視し、やがて⑤そこから⑥自分なりに立ち直るのでなければならない。人生への諦観から人生への真摯(しんし)さが出るということである。

（國分 康孝『〈自立〉の心理学』講談社現代新書）

ふりがな付本文

10 心理学

心理学の世界には「現象学」というひとつの立場が根づよいが、これは現実世界というのは各自の受けとり方の世界である、という考え方である。私の専攻するカウンセリングの分野でいえば、ロジャーズの自己理論や実存主義的アプローチがそれである。ところが①これに対して、客観的事実を確認する立場がある。たとえば心理テストとか行動療法の理論である。

私は「現象学」のよさを認めつつも、（　②　）。「私の父はケチだ」とか「彼はのっぽだ」とか「彼女はガリ勉家だ」といういい方は現象学のいい方である。「私は父がケチだと思っている」「私は彼がのっぽだと思っている」「私は彼女がガリ勉家だと思っている」というのが正確ないい方である。つまり「私は……と思っている」のであって、他の人はどう認識するか知りませんよ、私がどう思っているかだけの話ですよ、という含みがある。

私たちは③ここで客観的事実を明確にする精神をもたなければならない。人生を生きるのに「……だと思って」生きてはならぬ。思い込みで生きてはならぬ。事実に則して生きねばならぬ。そこでこうなる。

「父はケチだと思っていたが、ケチだと判断する資料はどれだけあるか」、これを考えることである。結婚式の費用を出してくれなかった、という事実ひとつだけで「ケチである」と結論してよいか。一般化（generalization）のしすぎではないか。こう考えていくのが客観主義である。あるいは「彼はのっぽだ」と思っていたが、日本人の平均身長を考えると「のっぽ」と判断できないことに気づく。平均身長（事実）を知らないで、ただぼんやりと「のっぽだなあ」と思い込んではならない、と警告を発するのが客観主義である。

（　④　）という場合、このように、現象学的世界（受けとり方の世界）と客観的事実の世界（測定・実証可能の世界）のふたつが考えられるが、本章ではとくに後者を強調した。事実の世界は私たちに絶望を与えるかもしれない。たしかに釈迦は生老病死という事実の世界を直視して、ペシミズムに陥った。しかし彼はそこから人生への洞察を得たのである。私たちも自分なりの着眼点（フレイム・オブ・レファランス）から人生の現実を直視し、やがて⑤そこから⑥自分なりに立ち直るのでなければならない。人生への諦観から人生への真摯さが出るということである。

（國分 康孝『〈自立〉の心理学』講談社現代新書）

問　題

問1　①「これに対して」と述べているが、「これ」は何を指しているか。

1　カウンセリングの立場
2　現実世界
3　心理学の立場
4　現象学

問2　（　②　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　客観主義の必要性は認めることはない。
2　客観主義の必要性をも強調したいのである。
3　主観主義の必要性をも強調したいのである。
4　主観主義の必要性を感じないのである。

問3　③「ここで客観的事実を明確にする精神をもたなければならない」とあるが、どんなことか。

1　事実に即さず物事を判断するようにすること
2　他人の認識を判断材料にして物事を判断すること
3　事実に即して物事を判断するようにすること
4　各自の受けとり方で、物事を判断すること

問4　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　行動
2　一般化
3　生活
4　現実

問5　⑤「そこ」と述べているが、「そこ」は何を指しているか。

1　現実を直視すること
2　釈迦の生き方を直視すること
3　病気を直視すること
4　人間の死を直視すること

問6　⑥「自分なりに立ち直るのでなければならない」というのはここではどんな意味か。

1　平凡に生きるという意味
2　悲観的に生きるという意味
3　あきらめて生きるという意味
4　精一杯生きるという意味

問7　客観主義の考え方は次のうちどれか。

1　観察する人によって、「彼はのっぽだ」と思われたり、「彼は背が低い」と考えられたりするものだ。
2　現象から判断して、「彼はのっぽだ」と考えるべきだ。
3　事実と照らし合わせずに「彼はのっぽだ」と思い込んではいけない。
4　「のっぽ」か「背が低い」かは、時代によって違うものだ。

読解のポイント

✒ **根づよい**＝しっかりと根を張っているように安定している。
「現象学」というひとつの立場が根づよいが、
＝「現象学」は正しい理論だと考えられているが、

✒ **受けとり方の世界**＝考え方によってかわる世界
現実世界というのは各自の受けとり方の世界である、
＝現実の社会は人それぞれの考え方で違うものだ、（例えば同じ経験をしても、「楽しい」と思う人と「退屈だ」と思う人が存在するように）

✒ **カウンセリング**＝counseling、面接して指導したり助言したりすること

✒ **ロジャーズ**＝Rogers.C.R.（人名）

✒ **ガリ勉家**＝勉強ばかりしている人（マイナスの表現）
彼女はガリ勉家だ
＝彼女は勉強ばかりしている（退屈）な人だ。

✒ **含み**＝表面に出ていない、中に込められた意味

✒ **生老病死**＝「生きること」と「年をとること」と「病気になること」と「死ぬこと」
（注）釈迦の教えのひとつ「年をとること、病気、死から逃げようとしないで、受け入れること。病気から逃げないということは、健康な時に病気になるかも知れないという恐怖感を持たないということである。自分では超えられないものを超えようとするから悩む。最初からそれを受け入れてしまえば悩まないで、安らかでいられる。それが、涅槃（ねはん）の境地（きょうち）、つまり心が平静で悩みのない境地である」という教え。

✒ **ペシミズム**＝pessimism、悲観論

✒ **洞察**＝物事の奥まで見抜くこと
人生への洞察を得たのである。
＝人生の真理を見抜くことができたのである。

✒ **真摯（しんし）さ**＝まじめさ
人生への真摯（しんし）さが出るということである。
＝人生にまじめに取り組もうとするということである。

✒ **人生への諦観から人生への真摯（しんし）さが出る**
＝人生の本質がわかり、まじめに人生を生きようとする。

問題を解くための解説

問２　（　②　）に入る文は次のうちどれか。

「現実世界というのは各自の受けとり方の世界である、」
「つまり『私は……と思っている』のであって、他の人はどう認識するか知りませんよ、」→「現象学」は主観的である。
「～つつも」のあとには前文と反対の意味のものが入るから、（　②　）には反対の「客観的」なものを肯定する文が入る。
∴正解２　客観主義の必要性をも強調したいのである。

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

現実世界のふたつの側面は「各自の受け取り方の世界」と「事実に則して生きる客観的事実の世界」
∴正解４　現実

問６　⑥「自分なりに立ち直るのでなければならない」というのはここではどんな意味か。

「たしかに釈迦は生老病死という事実の世界を直視して、ペシミズムに陥った。しかし彼はそこから人生への洞察を得たのである。」

∴正解４　精一杯生きるという意味

問７　客観主義の考え方は次のうちどれか。

「『彼はのっぽだ』と思っていたが、日本人の平均身長を考えると『のっぽ』と判断できないことに気づく。平均身長（事実）を知らないで、ただぼんやりと『のっぽだなあ』と思い込んではならない、と警告を発するのが客観主義である。」

∴正解３　事実と照らし合わせずに「彼はのっぽだ」と思い込んではいけない。

日本のことわざ　【その２】

・**石橋を叩いて渡る**

意味　〔堅固な石橋を、さらに叩いて安全を確かめてから渡ることから〕用心の上にも用心をする。

例　彼はとても慎重で、**石橋を叩いて渡る**のはいいけれど、決断が遅すぎて困ることがある。

・**噂をすれば影**

意味　ある人の噂をしていると、不思議にその当人がそこへ来るものだということ。噂をすれば影が差す。

例　「彼って、ちゃんとした教育を受けたことがないみたい。敬語もろくに使えないし……」

「しっ、静かに。彼が来た。**噂をすれば影**だわ」

・**人の噂も七十五日**

意味　世間の噂は長く続かず、しばらくすれば忘れられるものである。

例　悪い噂を立てられたからといって、そんなに気にすることはない。「**人の噂も七十五日**」と言うから。

・**石の上にも三年**

意味　〔冷たい石の上でも三年もいれば暖かになるという意味から〕辛抱していれば、やがては成功するものだ。忍耐力が大切なことのたとえ。

例　今まで何度会社をやめようかと思ったかわからない。でもそのうちチャンスが来るだろうと思って辛抱している。「**石の上にも三年**」だ。

＞＞＞日本のことわざ　【その３】はP.143にあります。

11 フリーター

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

「ふつう」ではないはたらき方を特権視するのは、若者ばかりではない。フリーターの親のなかには、つまらない就職をするくらいなら、フリーターのほうがましだと考える人々が存在する。

バブル崩壊以降、親（大人）自身が、これまで自分たちが築いてきた社会に対する自信を失ってしまった。そうした親たちは、子供に対して「ふつうの就職をしろ」といえなくなってしまった。それどころか、「自分は会社に縛られる生き方をしてきたが、せめて子供には①自由な生き方を見つけて欲しい」と願っている節がある。

一見すると、これは大変にもの分かりのいい態度のように感じられる。こうした親が、息子や娘のパラサイト・シングル・ライフを支えてくれることは、フリーターにとっては夢を追い続ける期間を延長できるわけだから、②願ってもない好環境といえる。

（　③　）、そうした親の姿勢は、子供たちの甘えの温床になっているどころか、若者にとっては、④新たなプレッシャーになっているのではあるまいか。こうした「もの分かりのいい親」の子供は、⑤「ふつう」ないしは「ふつう以下」の就職を受け入れ難くなっているのではあるまいか。もちろん親が、直接的に「夢を追い続けろ。ふつうのつまらない会社になんて就職するな。お前はビッグになれるはずだ」とプレッシャーをかけているわけではない。だが、モラトリアム期間が長くなれば長くなるほど、そのぬるま湯から抜け出すための心理的負担は大きくなる。そしてプライドと夢ばかりが大きくなってしまった若者は、自分から⑥敗北宣言が出来なくなってしまっているのではないか。その上、引導を渡すべき親が、あまりにもの分かりがいいので、子供としては引っ込みがつかなくなっているということも、あるのではないだろうか。

現代の日本では「ふつう」はあまりに軽んじられている。いざとなれば親が手に入れているような（そしてパラサイト・シングルが親を通じて現に今、享受しているような）「ふつう」の生活は、ちょっと長めの冒険的青春をおくった後でも、容易に手に入ると考えている。だが、⑦それは相当に難しくなっている。本当なら今時、モラトリアムを延長していられるような状態ではないはずなのだ。

若者たちも、実は薄々それに勘づいている。それどころか、私が出会ったフリーターのうちのかなりの人数は、夢を語る一方で、親が手に入れたような「ふつう」の生活を達成するのが、いかに難しいかを訴えていた。多くの若者が正社員になり結婚して子供を持つという生活をしていないのは、別にそれがしたくないからではなくて「ふつう」が難しいからであり、高いハードルとしての「ふつう」を回避するが故の「自分らしさ」なのかもしれない。

（長山 靖生『若者はなぜ「決められない」か』ちくま新書）

ふりがな付本文

11 フリーター

「ふつう」ではないはたらき方を特権視するのは、若者ばかりではない。フリーターの親のなかには、つまらない就職をするくらいなら、フリーターのほうがましだと考える人々が存在する。

バブル崩壊以降、親（大人）自身が、これまで自分たちが築いてきた社会に対する自信を失ってしまった。そうした親たちは、子供に対して「ふつうの就職をしろ」といえなくなってしまった。それどころか、「自分は会社に縛られる生き方をしてきたが、せめて子供には①自由な生き方を見つけて欲しい」と願っている節がある。

一見すると、これは大変にもの分かりのいい態度のように感じられる。こうした親が、息子や娘のパラサイト・シングル・ライフを支えてくれることは、フリーターにとっては夢を追い続ける期間を延長できるわけだから、②願ってもない好環境といえる。

（　③　）、そうした親の姿勢は、子供たちの甘えの温床になっているどころか、若者にとっては、④新たなプレッシャーになっているのではあるまいか。こうした「もの分かりのいい親」の子供は、⑤「ふつう」ないしは「ふつう以下」の就職を受け入れ難くなっているのではあるまいか。もちろん親が、直接的に「夢を追い続けろ。ふつうのつまらない会社になんて就職するな。お前はビッグになれるはずだ」とプレッシャーをかけているわけではない。だが、モラトリアム期間が長くなれば長くなるほど、そのぬるま湯から抜け出すための心理的負担は大きくなる。そしてプライドと夢ばかりが大きくなってしまった若者は、自分から⑥敗北宣言が出来なくなってしまっているのではないか。その上、引導を渡すべき親が、あまりにもの分かりがいいので、子供としては引っ込みがつかなくなっているということも、あるのではないだろうか。

現代の日本では「ふつう」はあまりに軽んじられている。いざとなれば親が手に入れているような（そしてパラサイト・シングルが親を通じて現に今、享受しているような）「ふつう」の生活は、ちょっと長めの冒険的青春をおくった後でも、容易に手に入ると考えている。だが、⑦それは相当に難しくなっている。本当なら今時、モラトリアムを延長していられるような状態ではないはずなのだ。

若者たちも、実は薄々それに勘づいている。それどころか、私が出会ったフリーターのうちのかなりの人数は、夢を語る一方で、親が手に入れたような「ふつう」の生活を達成するのが、いかに難しいかを訴えていた。多くの若者が正社員になり結婚して子供を持つという生活をしていないのは、別にそれがしたくないからではなくて「ふつう」が難しいからであり、高いハードルとしての「ふつう」を回避するが故の「自分らしさ」なのかもしれない。

（長山 靖生『若者はなぜ「決められない」か』ちくま新書）

問　題

問１　①「自由な生き方」とあるが、ここではどんな意味か。

1　就職しないで親に支えてもらうという意味
2　親の会社に就職して、自由にはたらくという意味
3　会社に縛られない生き方をするという意味
4　「ふつう」のはたらき方をするという意味

問２　②「願ってもない好環境」とあるが、どんな状態か。

1　親が自信を失っていて、子供には何も期待していない状態
2　親が会社に縛られていて、子供に何もいえない状態
3　親が子供に自由な生き方を期待している状態
4　子供が早く会社に就職することを親が期待している状態

問３　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　したがって
2　だが
3　というのも
4　なぜなら

問４　④「新たなプレッシャー」とあるが、何がプレッシャーとなるのか。

1　親の姿勢
2　自分の姿勢
3　仕事をさがすこと
4　就職すること

問５　⑤「『ふつう』ないしは『ふつう以下』の就職」とあるが、どんなことか。

1　夢が追えない、ふつうの会社に就職すること
2　夢を実現させるために、理想的な会社に就職すること
3　夢は追えないが、ビッグになれる会社に就職すること
4　夢を実現させるために、親の会社以下の会社に就職すること

問６　⑥「敗北宣言が出来なくなってしまっている」とあるが、どんな意味か。

1　会社ではたらく意欲を失ったという意味
2　親からのプレッシャーに負けて、就職することにしたという意味
3　夢を諦めて、「ふつう」の会社に就職したいといえなくなったという意味
4　どうしても夢を諦められないという意味

問７　⑦「それ」とあるが、「それ」とはどんなことか。

1　「ふつう」の生活をすること
2　冒険的青春をおくること
3　ぬるま湯の生活を続けること
4　夢を追い続ける生活を支えてもらうこと

問８　この文章の内容と合っているものは次のどれか。

1　親は「ふつう」の就職をしてもらいたいと願っているが、子供は自由な生き方ができなくなるので、就職したがらない。
2　親が子供を支えているために、子供は「ふつう」の就職に踏み出せずにいる。
3　親子ともに「ふつう」の就職を願っているが、子供がふつうの就職を見つけるのは困難になっている。
4　親が実現できなかった「自由な生き方」を子供が手に入れるために親も子供も「ふつう」の就職をしようとしない。

読解のポイント

✒ **特権視する**＝自分たちに特別に与えられた権利だと考える。
「ふつう」ではないはたらき方を特権視する
＝「ふつう」ではないはたらき方ができるのは自分たちに特別に与えられた権利だと考える。

✒ **節**＝点、箇所
～と願っている節がある。
＝～と願っているのではないかというところがある。

✒ **願ってもない**＝あればいいと願っても実現しないほど理想的な
願ってもない好環境といえる。
＝なかなか実現しないほどすばらしい、いい環境といえる。

✒ **プレッシャー**＝ pressure、圧力、重圧
新たなプレッシャーになっているのではあるまいか。
＝新しい重圧になっているのではないだろうか。

✒ **モラトリアム**＝ moratorium、大人社会に入れないでいる、精神的準備期間

✒ **プライド**＝ pride、誇り、自尊心

✒ **敗北宣言**＝戦いに負けて、戦いから退きたいとはっきり言うこと
敗北宣言が出来なくなってしまっている
＝（夢を追う戦いに）負けて、戦いから退きたい（夢を諦めたい＝ふつうの会社に就職したい）とはっきり言えなくなってしまっている。

✒ **ぬるま湯**＝努力をしなくてもいい、楽な環境（ここでは親が支える環境）
ぬるま湯からぬけだす
＝親が支えてくれる環境から出る → 自立する

✒ **引導を渡す**＝相手に最終宣告をする。「だめだ、諦めろ」という。
引導を渡すべき親
＝子供に今していることを続けてはいけないとはっきり告げるべき親

✒ **軽んじられている**＝軽視されている、大切だと思われていない
「ふつう」はあまりに軽んじられている。
＝「ふつう」は非常に軽視されている。

✒ **ハードル**＝ hurdle、（越えるべき）傷害物

✒ **回避する**＝避ける、免れる

✒ **〜が故の**＝〜ための、〜しようと思っての

✒ **自分らしさ**＝他の人とは違う自分だけの個性
高いハードルとしての「ふつう」を回避するが故の「自分らしさ」なのかもしれない。
＝高いハードルになっている「ふつう」を避けるために他の人とは違うことをしようとしているのかもしれない。

問題を解くための解説

問１　①「自由な生き方」とあるが、ここではどんな意味か。

「自分は会社に縛られる生き方をしてきた」から「子供には自由な生き方を見つけて欲しい」
∴正解３　会社に縛られない生き方をするという意味

問２　②「願ってもない好環境」とあるが、どんな状態か。

「フリーターにとっては夢を追い続ける期間を延長できる」のは
「親が、息子や娘のパラサイト・シングル・ライフを支えてくれる」から。
∴正解３　親が子供に自由な生き方を期待している状態

問３　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「願ってもない好環境といえる」→　いいこと
「若者にとっては、新たなプレッシャーになっている」→　困ること
前文と後文は反対の関係。
いいこと　＋（　③　）＋　困ること
∴正解２　だが

問４　④「新たなプレッシャー」とあるが、何がプレッシャーとなるのか。

「新たなプレッシャー」＝「そうした親の姿勢」
∴正解１　親の姿勢

問６　⑥「敗北宣言が出来なくなってしまっている」とあるが、どんな意味か。

「『夢を追い続けろ。ふつうのつまらない会社になんて就職するな。お前はビッグになれるはずだ』とプレッシャーをかけているわけではない。だが……」

∴正解３　夢を諦めて、「ふつう」の会社に就職したいといえなくなったという意味

問７　⑦「それ」とあるが、「それ」とはどんなことか。

「だが」でつながっているので、直前の文に注目
「『ふつう』の生活は、……」
∴正解１　「ふつう」の生活をすること

問８　この文章の内容と合っているものは次のどれか。

１・３　親は「ふつう」の就職をしてもらいたいと願っていない。→ ×
４　親はすでに「ふつう」の就職をしている。　→　×
∴正解２　親が子供を支えているために、子供は「ふつう」の就職に踏み出せずにいる。

日本のことわざ【その３】

・**聞くは一時の恥 聞かぬは末代の恥**
意味　知らないことを聞くのは、その場では恥ずかしい思いをするが、聞かないで知らないまま過ごすと、一生恥ずかしい思いをしなければならないということ。
例　こんなことを質問したら、みんな笑うかもしれない。でも、やっぱり聞いてみよう。「**聞くは一時の恥……**」と言うから。

・**火の無い所に煙は立たぬ**
意味　まったく根拠がなければ噂は立たない。噂が立つからには、なんらかの根拠があるはずだということ。
例　あの二人はもうすぐ結婚すると聞いたが、信じられない。ショックだ。しかし、**火の無い所に煙は立たぬ**、本当かもしれない。

・**苦しい時の神頼み**
意味　ふだんは信仰心を持たない人が、病気や災難で困ったときだけ神仏に祈って助けを求めようとすること。
例　水不足に困った農民たちは「**苦しい時の神頼み**」で、急に祭りをして神に祈った。

＞＞＞日本のことわざ【その４】はP.155にあります。

12 受験教育は年金と同じ

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

いまやほとんどの子どもたちは、第一線のビジネスマンのように、①いそがしさに追いまくられる生活をしている。パソコンと携帯電話は小学生でも必需品になっているのだ。遊びにいくときも、スケジュールを確認し、アポイントメントをとってからでないと困難だし、一日のうちでほっとできる時間は、三十分とか一時間なのだそうだ。

原因は学校ではなく、学習塾と習いごとにある。塾での受験勉強とサッカーや水泳などのスポーツクラブ、音楽や美術といった習いごと。その三種類をこなせば、平日の自由時間のほとんどを奪われてしまうのは当然である。

先日、ぼくはある大手出版社の取締役と話をした。その会社では入社試験の際、出身大学を記入する欄は用紙のなかにないという。無理やり自分の大学名を書いたりすると、逆に反感をもたれて、選考からはずされたりするそうだ。これはその会社だけでなく、一流企業といわれている多くの会社が、②すでに採用している方法である。大学名をまったく調べず、選考のポイントにしないとまではいかなくても、すでに大学時代の成績などは評価外としている企業もずいぶんある。

すると、③大学のブランド神話はとうに崩壊しているのではないか。あの神話が価値をもっていたのは、その大学をでれば一流企業への入社に有利で、いったんはいってしまえば、終身雇用で安定した生涯が保証されていたからなのだ。現在では、入社試験では大学の名に力はなく、終身雇用制はほとんど崩壊している。新卒社員の三分の一が、三年以内に最初にはいった会社を辞めてしまう時代なのだ。

これほど受験技術を高めているのに、日本の大学教育のレベルが昔にくらべて目覚しく向上したともまったくきかない。逆に一部の大学では、高校や中学で学んだはずの基礎教育をやり直してさえいるという。大学教育に耐える能力がないからだ。文化的な素養の欠如も驚くべきもので、ある統計では大学生の半分は、このひと月に一冊も本を読んでいないらしい。はっきりいって、一カ月読んでいない者は一年読んでいないのだ。本を読む力もないし、その習慣もないのである。

ぼくは学習塾や進学校が洗練させてきた日本の受験技術教育は、年金と同じだと思う。子ども時代にあれほどの犠牲を払って、かけ金を積みあげても、将来ほとんど返ってくる見こみがない。払えば払うほど、損をすると、みなわかっているのだ。④それでもこの不景気の時代、親たちはなけなしの貯蓄を取り崩して、子どもたちを塾やクラブに送りだすのである。小学生のうちから疲れたといって、栄養ドリンクなどをのむ子どもがいるのは、世界でも日本だけではないだろうか。⑤病気である。

そろそろあんな程度の低い受験技術競争はやめませんか。子どもたちのためにも、教育に役立つわけでも、将来の実益につながるわけでもない。いまや親の自己満足以外に、大学のブランドになど価値はないのだ。女性たちが競って同じ海外ブランドのバッグを買いこんでいるけれど、親たちの多くは自分の子どもを、あのバッグと同じに扱っているのだ。親の虚栄と自己満足で犠牲にするには、子ども時代というのは、あまりに貴重なものである。

（石田 衣良「受験教育は年金と同じ」2004年8月5日 夕刊 日本経済新聞）

ふりがな付本文

12 受験教育は年金と同じ

いまやほとんどの子どもたちは、第一線のビジネスマンのように、①いそがしさに追いまくられる生活をしている。パソコンと携帯電話は小学生でも必需品になっているのだ。遊びにいくときも、スケジュールを確認し、アポイントメントをとってからでないと困難だし、一日のうちでほっとできる時間は、三十分とか一時間なのだそうだ。

原因は学校ではなく、学習塾と習いごとにある。塾での受験勉強とサッカーや水泳などのスポーツクラブ、音楽や美術といった習いごと。その三種類をこなせば、平日の自由時間のほとんどを奪われてしまうのは当然である。

先日、ぼくはある大手出版社の取締役と話をした。その会社では入社試験の際、出身大学を記入する欄は用紙のなかにないという。無理やり自分の大学名を書いたりすると、逆に反感をもたれて、選考からはずされたりするそうだ。これはその会社だけでなく、一流企業といわれている多くの会社が、②すでに採用している方法である。大学名をまったく調べず、選考のポイントにしないとまではいかなくても、すでに大学時代の成績などは評価外としている企業もずいぶんある。

すると、③大学のブランド神話はとうに崩壊しているのではないか。あの神話が価値をもっていたのは、その大学をでれば一流企業への入社に有利で、いったんはいってしまえば、終身雇用で安定した生涯が保証されていたからなのだ。現在では、入社試験では大学の名に力はなく、終身雇用制はほとんど崩壊している。新卒社員の三分の一が、三年以内に最初にはいった会社を辞めてしまう時代なのだ。

これほど受験技術を高めているのに、日本の大学教育のレベルが昔にくらべて目覚しく向上したともまったくきかない。逆に一部の大学では、高校や中学で学んだはずの基礎教育をやり直して

さえいるという。大学教育に耐える能力がないからだ。文化的な素養の欠如も驚くべきもので、ある統計では大学生の半分は、このひと月に一冊も本を読んでいないらしい。はっきりいって、一カ月読んでいない者は一年読んでいないのだ。本を読む力もないし、その習慣もないのである。

ぼくは学習塾や進学校が洗練させてきた日本の受験技術教育は、年金と同じだと思う。子ども時代にあれほどの犠牲を払って、かけ金を積みあげても、将来ほとんど返ってくる見こみがない。払えば払うほど、損をすると、みなわかっているのだ。④それでもこの不景気の時代、親たちはなけなしの貯蓄を取り崩して、子どもたちを塾やクラブに送りだすのである。小学生のうちから疲れたといって、栄養ドリンクなどをのむ子どもがいるのは、世界でも日本だけではないだろうか。⑤病気である。

そろそろあんな程度の低い受験技術競争はやめませんか。子どもたちのためにも、教育に役立つわけでも、将来の実益につながるわけでもない。いまや親の自己満足以外に、大学のブランドになど価値はないのだ。女性たちが競って同じ海外ブランドのバッグを買いこんでいるけれど、親たちの多くは自分の子どもを、あのバッグと同じに扱っているのだ。親の虚栄と自己満足で犠牲にするには、子ども時代というのは、あまりに貴重なものである。

（石田 衣良「受験教育は年金と同じ」2004年8月5日 夕刊 日本経済新聞）

問　　題

問1　①「いそがしさに追いまくられる生活をしている」とあるが、なぜ子どもたちは忙しいのか。

1　パソコンと携帯電話を使う練習をするから。
2　遊ぶ時はアポイントメントをとる必要があるから。
3　学習塾に行ったり、習い事をしたりしているから。
4　平日は毎日サッカーや水泳をしているから。

問2　②「すでに採用している方法である」とあるが、どんな方法か。

1　入社試験の際に出身大学名を選考のポイントにする。
2　入社試験の際に専攻学部を選考のポイントにしない。
3　入社試験の際に出身大学名を選考のポイントにしない。
4　入社試験の際に大学時代の成績を選考のポイントにする。

問3　③「大学のブランド神話はとうに崩壊しているのではないか」と筆者が言っているのはなぜか。

1　有名な大学を卒業すると、安定した生涯が保証されるということが現実のことになったから。
2　社会が大学卒業者を必要としなくなっているので、就職することが難しくなったから。
3　有名な大学を卒業するとみな一流企業に就職するが、その三分の一が三年以内に辞めてしまうようになったから。
4　有名大学を卒業すると一流企業への入社に有利で、生涯安定した生活が送れるという保証がなくなったから。

問4　④「それでもこの不景気の時代、親たちはなけなしの貯蓄を取り崩して、子どもたちを塾やクラブに送り出すのである」とあるが、筆者は、親たちがそうするのはなぜだと考えているか。

1　親の虚栄心と自己満足のため
2　子どもに文化的素養を身に付けさせるため
3　子どもに貴重な体験をさせるため
4　程度の低い受験技術競争をやめるため

問5　⑤「病気である」とあるが、何が病気なのか。

1　日本の大学教育
2　日本の年金制度
3　子どもが勉強する社会
4　子どもが受験技術教育を受ける社会

問6　現代の大学生の状況を筆者はどのようにとらえているか。

1　大学教育に耐える能力や文化的素養が欠如している学生は少ない。
2　大学教育に耐える能力や文化的素養が欠如している学生が多い。
3　基礎学力はついているが、読書習慣のない学生が多い。
4　大学教育に耐える能力はあるが、文化的素養が欠如している学生が多い。

問７　受験教育は年金と同じだと述べているが、筆者はなぜそう思っているのか。

1　受験技術教育にお金を使うのは、将来確実に返ってくる年金のかけ金を払っているのと同じだから。
2　受験技術教育にお金を支払うのは、将来返ってくる見こみがない年金のかけ金を払っているのと同じだから。
3　学習塾や進学校などの日本の受験技術教育は、日本の年金制度と同じように洗練されたものとなったから。
4　なけなしの貯蓄を取り崩して塾にお金を使うのは、生活を犠牲にして年金のかけ金を払っているのと同じだから。

読解のポイント

✒ **いまや**＝いまでは
いまやほとんどの子どもたちは、
＝いまでは、ほとんどの子どもたちは、

✒ **第一線**＝ある分野で最も重要ではなばなしい位置
第一線のビジネスマンのように、
＝最も重要な位置ではなばなしく働くビジネスマンのように、

✒ **追いまくられる**＝せきたてられる
いそがしさに追いまくられる生活をしている。
＝いそがしいことばかりで、ゆっくりする時間がない生活をしている。

✒ **ほっと**＝安心するようす
ほっとできる時間
＝安心してゆっくりできる時間

✒ **～といった**＝～のような
音楽や美術といった習いごと。
＝音楽や美術のような習いごと。

✒ **こなせば**＝与えられた仕事や問題をうまく処理すれば
その三種類をこなせば、
＝その三種類をうまく処理すれば、

✒ **反感**＝不愉快に思って逆らう気持ち
逆に反感をもたれて、
＝逆に不愉快だと思われて、

✒ **神話**＝一般には絶対的なものと考えられているが、実は根拠のない考え方や事柄

✒ **とうに**＝ずっと前に

✒ **崩壊**＝くずれること
大学のブランド神話はとうに崩壊しているのではないか。
＝大学のブランド神話はずっと前にくずれているのではないか。

✒ **いったん**＝一度
いったんはいってしまえば、
＝一度はいってしまったら、

✒ **終身雇用**＝社員を生涯雇うこと

✒ **素養**＝教養や技術

✒ **欠如**＝必要なものが欠けていて足りないこと
文化的な素養の欠如も驚くべきもので、
＝驚くほど文化的な教養がなく、

✒ **なけなし**＝わずかしかないこと

✒ **取り崩して**＝貯めていたものを少しずつ使って
なけなしの貯蓄を取り崩して、
＝わずかしかない貯金を少しずつ使っていって、

✒ **栄養ドリンク**＝栄養を補うための飲み物

✒ **虚栄**＝外見をかざって、人によく見られようとすること

✒ **犠牲**＝ある目的のために、自分の命や大切なものを捧げること
親の虚栄と自己満足で犠牲にするには、子ども時代というのは、あまりに貴重なものである。
＝子ども時代というのは大切なものであるから、それを親の見栄と自己満足のために台無しにしてはいけない。

問題を解くための解説

問２　②「すでに採用している方法である」とあるが、どんな方法か。

「入社試験の際、出身大学を記入する欄は用紙のなかにないという。」
「大学名をまったく調べず、選考のポイントにしない」
∴正解３　入社試験の際に出身大学名を選考のポイントにしない。

問３　③「大学のブランド神話はとうに崩壊しているのではないか」と筆者が言っているのはなぜか。

「あの神話が価値をもっていたのは、」「一流企業への入社に有利で、」
「安定した生涯が保証されていたからなのだ。」
∴正解４　有名大学を卒業すると一流企業への入社に有利で、生涯安定した生活が送れるという保証がなくなったから。

問４　④「それでもこの不景気の時代、親たちはなけなしの貯蓄を取り崩して、子どもたちを塾やクラブに送りだすのである」とあるが、筆者は、親たちがそうするのはなぜだと考えているか。

「親たちの多くは自分の子どもを、あのバッグと同じに扱っているのだ。」
→「親の虚栄と自己満足で犠牲にする」
∴正解１　親の虚栄心と自己満足のため

問５　⑤「病気である」とあるが、何が病気なのか。

「受験技術教育は年金と同じだ」
「親たちはなけなしの貯蓄を取り崩して、子どもたちを塾やクラブに送りだす」
「疲れたといって、栄養ドリンクを飲む子どもがいる」
「受験技術競争はやめませんか。」
∴正解４　子どもが受験技術教育を受ける社会

問６　現代の大学生の状況を筆者はどのようにとらえているか。

「基礎教育をやり直してさえいる」→「大学教育に耐える能力がない」
「本を読む力もないし、その習慣もない」→「文化的素養の欠如も驚くべきもの」
∴正解２　大学教育に耐える能力や文化的素養が欠如している学生が多い。

問７　受験教育は年金と同じだと述べているが、筆者はなぜそう思っているのか。

	受験教育	年　金
お　金	学習塾にお金を払う	かけ金を払う
将来性	お金は返ってこない 払えば払うほど損をする	かけ金は返ってこない 払えば払うほど損をする

∴正解２　受験技術教育にお金を支払うのは、将来返ってくる見こみがない年金のかけ金を払っているのと同じだから。

日本のことわざ【その４】

・**嘘も方便**（うそもほうべん）

意味　嘘は罪悪ではあるが、よい結果を得る手段として時には必要であるということ。

例　「あなたの病気はガンです」と真実を患者に言うのがいいか。「**嘘も方便**」で、言わない方がいいか。これはいつも問題にされることだ。

・**案ずるより産むが易し**（あんずるよりうむがやすし）

意味　物事はあれこれ心配するより実行してみれば、案外たやすいものだ。

例　国にいたときは、外国での生活に不安を感じていたが、実際に外国生活を始めたら思ったほど問題はなかった。**案ずるより産むが易し**だと思う。

・**住めば都**（すめばみやこ）

意味　どんな所でも、住み慣れるとそこが居心地よく思われてくるということ。

例　都会育ちの私が転勤でこの小さな町に移ってもう三年になる。始めは都会が恋しくてたまらなかったが、**住めば都**で、今はこの町がすっかり好きになった。

>>>日本のことわざ【その５】はP.175にあります。

13 アメとムチ

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

人を動かすものは、「アメとムチ」である。サーカスでクマに芸当を仕込む曲芸師のように、両手にアメとムチを持って、上手に操れば誰もがこちらの思いどおりに行動するはずである。望ましい行動に対しては報酬を与え、好ましくない行動をしたら罰を加えればよい。

①このような仮定の下で、ティーチングマシンや行動療法などをはじめとする行動変容モデルが構築され、多くの成果を上げている。

しかし、近年になって、人間の動機づけが必ずしも他者からのアメやムチを必要としないと思われる事実が相次いで報告されている。行動の結果得られる報酬が無くても、行動することそれ自体が報酬になっているような行動の存在が確認された。それどころか、②これらの行動については、報酬を与えるとむしろ欲求が低減する場合すらあるとの報告がある。

キャレンダーとストウは、大学生にパズルをやらせて、そのうちの半数の学生に一生懸命やったことに対して金銭を報酬として与えた。前述の「アメとムチ」の理論に従うなら、金銭を受け取った学生の方が、支払われていない学生よりも相対的にパズルに対する興味を増大させるはずである。（　③　）実際には、パズルの性質によって結果が違っていた。退屈なパズルをやらされた学生については、予想どおり金銭を支払われた学生の方が受けなかった学生よりもパズルに対して興味を示したが、面白いパズルをやらされた学生については、報酬をもらった学生の方がそうでない学生よりもパズルに対する興味を（　④　）のである。本来、行動することの中に興味が内在しているような場合には、他者から与えられる金銭等の報酬が興味を低下させてしまうことが確認されたのである。

内発的な意欲や興味は、自分が主体的に「やっている」という感じを前提としているが、報酬によって⑤「やらされている」という感じに変化させられたのである。

内発的に動機づけられた行動は、自己の環境との関連において、有能で自己決定的でありたいという人間の基本的要求に根ざしている。アメとムチによる制御は、自分の活動を支配しているのは自分以外のものであるという実感つまり他律性の感覚を作り出し、他への依存性を高めるのである。

（生熊 譲二『心理学ビギナーズ・トピックス100』斎藤 勇編　誠信書房）

ふりがな付本文

13 アメとムチ

人を動かすものは、「アメとムチ」である。サーカスでクマに芸当を仕込む曲芸師のように、両手にアメとムチを持って、上手に操れば誰もがこちらの思いどおりに行動するはずである。望ましい行動に対しては報酬を与え、好ましくない行動をしたら罰を加えればよい。

①このような仮定の下で、ティーチングマシンや行動療法などをはじめとする行動変容モデルが構築され、多くの成果を上げている。

しかし、近年になって、人間の動機づけが必ずしも他者からのアメやムチを必要としないと思われる事実が相次いで報告されている。行動の結果得られる報酬が無くても、行動することそれ自体が報酬になっているような行動の存在が確認された。それどころか、②これらの行動については、報酬を与えるとむしろ欲求が低減する場合すらあるとの報告がある。

キャレンダーとストウは、大学生にパズルをやらせて、そのうちの半数の学生に一生懸命やったことに対して金銭を報酬として与えた。前述の「アメとムチ」の理論に従うなら、金銭を受け取った学生の方が、支払われていない学生よりも相対的にパズルに対する興味を増大させるはずである。（　③　）実際には、パズルの性質によって結果が違っていた。退屈なパズルをやらされた学生については、予想どおり金銭を支払われた学生の方が受けなかった学生よりもパズルに対して興味を示したが、面白いパズルをやらされた学生については、報酬をもらった学生の方がそうでない学生よりもパズルに対する興味を（　④　）のである。本来、行動することの中に興味が内在しているような場合には、他者から与えられる金銭等の報酬が興味を低下させてしまうことが確認されたのである。

内発的な意欲や興味は、自分が主体的に「やっている」という感じを前提としているが、報酬によって⑤「やらされている」という感じに変化させせられたのである。

内発的に動機づけられた行動は、自己の環境との関連において、有能で自己決定的でありたいという人間の基本的要求に根ざしている。アメとムチによる制御は、自分の活動を支配しているのは自分以外のものであるという実感つまり他律性の感覚を作り出し、他への依存性を高めるのである。

（生熊 譲二『心理学ビギナーズ・トピックス 100』斎藤 勇編　誠信書房）

問　　題

問1　①「このような仮定」とあるが、どんな仮定か。

1　報酬と罰を交互に与えれば、こちらの思いどおりに人を動かすことができるという仮定
2　サーカスの曲芸師のように芸を仕込めば、こちらが思ったように人が行動するという仮定
3　上手に操れば、誰でもこちらの思いどおりになるという仮定
4　望ましい行動には報酬を、そうでない行動には罰を与えれば思いどおりに人を動かすことができるという仮定

問2　②「これらの行動」とあるが、どんな行動か。

1　多くの成果を上げている行動
2　動機づけを必要とする行動
3　行動そのものが報酬となる行動
4　動機づけを必要としない行動

問3　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　ということは
2　ところが
3　ゆえに
4　そのために

問4　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　失っていた
2　増大させていた
3　示していた
4　低下させまいとしていた

問5　⑤「やらされている」とあるが、どう感じるのか。

1　主体的にやらなければならないと感じる。
2　お金を受け取ったうえ、パズルができると感じる。
3　お金を受け取ったのだからやらなければならないと感じる。
4　アメとムチの理論にしたがって行動しなければならないと感じる。

問6　筆者によれば、人が意欲的な態度を持つためには何が必要か。

1　適度の報酬を得ながら自分の興味のあることだけすること
2　自分の活動を支配しているのは自分以外のものであるという感覚に打ち勝つこと
3　報酬の有無にかかわらず、「やらされている」ということを感じないようにすること
4　有能で自己決定的でありたいという人間の基本的な要求を持ち続けること

読解のポイント

✒ **アメとムチ**＝「報酬」と「罰」

アメとムチを持って、上手に操れば

＝望ましい行動に対しては報酬を与え、好ましくない行動をしたら罰を加えて、上手に相手を動かせば

✒ **必ずしも〜ない**＝必ず〜ではない、〜とはいえない

必ずしも他者からのアメやムチを必要としない

＝他者からの報酬や罰が必要でない場合がある。

✒ **動機づけ**＝動機を与えること、動機を持たせること

人間の動機づけが必ずしも他者からのアメやムチを必要としない

＝人間は他者からの報酬や罰がなくても、動機を持つことがある。

✒ **キャレンダーとストウ**＝ Calender,B.j.& Staw,B.M.（人名）

✒ **内在**＝中にある、中に存在する

行動することの中に興味が内在している

＝行動すること自体が興味の対象となる。

✒ **内発的な**＝外からの刺激に関係なく、自分の中からの

✒ **前提**＝基本的な条件

内発的な意欲や興味は、自分が主体的に「やっている」という感じを前提としているが、

＝自分自身が自然に持つ意欲や興味は、自分が主体的に「やっている」という感じを持つことが条件だが、

✒ **制御**＝自分が思ったとおりに相手が動くように操作すること、支配

✒ **他律性**＝自分の意志でなく、他からの命令や束縛によって行動する様子

他律性の感覚

＝自分で決定せず、他からの命令や束縛によって行動しているような感じ

問題を解くための解説

問 1　①「このような仮定」とあるが、どんな仮定か。

「このような」とあったら前の文に注目する。

→「望ましい行動に対しては報酬を与え、好ましくない行動をしたら罰を加えればよい。」

∴　正解 4　望ましい行動には報酬を、そうでない行動には罰を与えれば思いどおりに人を動かすことができるという仮定

問 2　②「これらの行動」とあるが、どんな行動か。

「これらの」とあったら前の文に注目する。

→「行動することそれ自体が報酬になっているような行動の存在が確認された。」

∴正解 3　行動そのものが報酬となる行動

問 3　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「金銭を受け取った学生の方が、支払われていない学生よりも相対的にパズルに対する興味を増大させるはずである。」

「実際には、パズルの性質によって結果が違っていた。」

前文と後文は反対の関係。

∴正解 2　ところが

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

「パズルの性質によって結果が違っていた。」
退屈なパズル→「金銭を支払われた学生の方が受けなかった学生よりもパズルに対して興味を示した」
面白いパズル→「報酬をもらった学生の方がそうでない学生よりも…」
「興味を示した」の反対の言葉が入る。
∴正解１　失っていた

問５　⑤「やらされている」とあるが、どう感じるのか。

「報酬によって『やらされている』という感じに変化させられたのである。」
「変化させられた」とは主体的でないこと。
∴正解３　お金を受け取ったのだからやらなければならないと感じる。

問６　筆者によれば、人が意欲的な態度を持つためには何が必要か。

人が意欲的な態度を持つ＝内発的に動機づけられた行動
「内発的に動機づけられた行動は、自己の環境との関連において、有能で自己決定的でありたいという人間の基本的要求に根ざしている」
∴正解４　有能で自己決定的でありたいという人間の基本的な要求を持ち続けること

14 進化

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

「進化」という概念を簡単に定義しておくと、「祖先から受け継いだ形質が変化すること」である。「遺伝する形質の変化」としてもいい。重要なことは、進化過程においては、変化が累積していくことである。

この辺から、進化と進歩の関係という第二の問題に移っていくのだが、進化の過程でどのような変化が生じて後の世代に残るかは、一定の方向があるわけではない。「進化」という語には「進」の字が含まれているので、何か一定の決まった方向に進んでいくイメージ、もっと具体的にいえば、「より良くなる」という進歩のイメージと結びつけて考えられがちだ。英語でも“evolution”という発展的な単語が使われているので、語感的には日本語とかなり似ている。百数十年前にはもっと極端に、“development”を「進化」の意味で使っていた。これは「発展」とか「開発」をあらわす単語である。生物学では「発生」、心理学では「発達」という意味になる。フランス語では英語と同じ“evolution”で進化をあらわすが、ドイツ語では今でも、英語の“development”に相当する“Entwicklung”を「進化」の意味で使うことが多い。今でも「進化」はいまだに、世界中のあちこちで、（　①　）のイメージで語られている。

だが、生物の「進化」を「進歩」と結びつけて考えるのは、完璧（かんぺき）に間違いである。仮に、今までそのような使用法がまかり通っていたとしても、今後、②そのような意味で「進化」の語を使うことは許されない。③進化は進歩と違って、もっと無方向な変化である。用語としては、「進化」をやめて「変化」にするぐらいでちょうどいいのである。

たとえば、祖先が所有していた器官が子孫では消滅すること（退化）は、生物の進化史上珍しいことではない。ヒトの尻尾は短く退化して、わずかに尾骨が残っているだけである。虫垂も痕跡をとどめるにすぎない。（　④　）ヒトの握力はチンパンジーの$\frac{1}{2}$〜$\frac{1}{3}$しかない。このようなさまざまな退化は、ヒトにいたる生物の系統がその過程で行なってきたこと、すなわち進化である。退化も進化のひとつのあり方なのである。

生物の進化は一つの方向に起こるものではないのだ。おのおのの生物が、祖先から遺伝によって受け継いだ形質を利用しつつ、それぞれの環境に合わせて、自分たちがうまく生活できるように変化（進化）してきた。⑤二つの生物を比べて、どちらがより進化しているかと問うのは、無意味なだけでなく、まちがった問いの立て方である。植物はデンプンを体内で合成できるが、動物はできない。鳥は空を飛べるがヒトは飛べない。進化は進歩とは関係がないのである。

（佐倉 統『進化論の挑戦』角川選書）

ふりがな付本文

14 進化

「進化」という概念を簡単に定義しておくと、「祖先から受け継いだ形質が変化すること」である。「遺伝する形質の変化」としてもいい。重要なことは、進化過程においては、変化が累積していくことである。

この辺から、進化と進歩の関係という第二の問題に移っていくのだが、進化の過程でどのような変化が生じて後の世代に残るかは、一定の方向があるわけではない。「進化」という語には「進」の字が含まれているので、何か一定の決まった方向に進んでいくイメージ、もっと具体的にいえば、「より良くなる」という進歩のイメージと結びつけて考えられがちだ。英語でも“evolution”という発展的な単語が使われているので、語感的には日本語とかなり似ている。百数十年前にはもっと極端に、“development”を「進化」の意味で使っていた。これは「発展」とか「開発」をあらわす単語である。生物学では「発生」、心理学では「発達」という意味になる。フランス語では英語と同じ“evolution”で進化をあらわすが、ドイツ語では今でも、英語の“development”に相当する“Entwicklung”を「進化」の意味で使うことが多い。今でも「進化」はいまだに、世界中のあちこちで、（　①　）のイメージで語られている。

だが、生物の「進化」を「進歩」と結びつけて考えるのは、完璧に間違いである。仮に、今までそのような使用法がまかり通っていたとしても、今後、②そのような意味で「進化」の語を使うことは許されない。③進化は進歩と違って、もっと無方向な変化である。用語としては、「進化」をやめて「変化」にするぐらいでちょうどいいのである。

たとえば、祖先が所有していた器官が子孫では消滅すること（退化）は、生物の進化史上珍しいことではない。ヒトの尻尾は短く退化して、わずかに尾骨が残っているだけである。虫垂も痕跡をとどめるにすぎない。（　④　）ヒトの握力はチンパンジーの

$\frac{1}{2}$～$\frac{1}{3}$しかない。このようなさまざまな退化は、ヒトにいたる生物の系統がその過程で行なってきたこと、すなわち進化である。退化も進化のひとつのあり方なのである。

生物の進化は一つの方向に起こるものではないのだ。おのおのの生物が、祖先から遺伝によって受け継いだ形質を利用しつつ、それぞれの環境に合わせて、自分たちがうまく生活できるように変化（進化）してきた。⑤二つの生物を比べて、どちらがより進化しているかと問うのは、無意味なだけでなく、まちがった問いの立て方である。植物はデンプンを体内で合成できるが、動物はできない。鳥は空を飛べるがヒトは飛べない。進化は進歩とは関係がないのである。

（佐倉 統『進化論の挑戦』角川選書）

問　題

問1　（　①　）に入るものとして最も適当なのはどれか。

1　変化
2　発達
3　進歩
4　進化

問2　②「そのような意味で」の「その」は何を指しているか。

1　生物の進化を退化と結びつけること
2　完璧な進化のみを進化とすること
3　生物の進化を進歩と結びつけること
4　進化の過程で起きた変化を進化とすること

問3　③「進化は進歩と違って、もっと無方向な変化である」というのはここではどんな意味か。

1　「進化」とは、いろいろな方向に変化、進歩していくことであるという意味
2　「進化」に一定の方向はなく、いろいろな方向に変化するという意味
3　「進化」はヒトだけでなく、すべての生物に共通するという意味
4　「進化」とは、進歩と退化を繰り返すものであるという意味

問4　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

1　ヒトの細胞の組織はサルに比べるとはるかに勝っている。
2　木を上り下りする能力もあるし、2本足での歩行も覚えた。
3　サルの遺伝子とヒトの遺伝子にはほとんど違いがみられない。
4　木を上り下りする能力も、サルに比べればはるかに劣る。

問5　⑤「二つの生物を比べて、どちらがより進化しているかと問うのは、無意味なだけでなく、まちがった問いの立て方である」とあるが、なぜ比較は無意味なのか。

1　それぞれの生物で変化のスピードが違い、比較できないから。
2　それぞれの生物は環境に合わせて変化しているだけだから。
3　退化と進化を繰り返す生物の変化のスピードを計る基準はないから。
4　それぞれの生物が祖先から受け継いだ形質が違うから。

問6　この文章の内容と最もよく合っているものはどれか。

1　「進化」とは変化することであるが、長い目で見ると進歩する方向に進んでいる。
2　「進化」とは、祖先から受け継いだ形質を利用していくことである。
3　「進化」とは、祖先から受け継いだ形質を消滅させていくことである。
4　「進化」とは変化することではあるが、進歩と同意義ではない。

読解のポイント

✒ **概念**＝「～とは～である」のように、あるものに対して一般的に考えられているイメージ

✒ **形質**＝生物の形態の特徴
祖先から受け継いだ形質が変化すること
＝祖先から遺伝的に引き継いだ要素が変化すること

✒ **累積**＝たまってたくさんになること
変化が累積していくことである。
＝変化が次から次へと起きてたまっていくことである。

✒ **語感的に**＝言葉の響きやニュアンス上で
語感的には日本語とかなり似ている。
＝その語の持つニュアンスからいえば、日本語とかなり似ている。

✒ **完璧に**＝完全に
完璧に間違いである。
＝完全に間違っている。

✒ **まかり通る**＝（正しくないことが）堂々と通る、通用する
今までそのような使用法がまかり通っていたとしても、
＝これまでそのような正しくない使い方が通用していたとしても、

✒ **器官**＝消化器官などの生物の体の部分
祖先が所有していた器官
＝祖先が持っていた体の部分

✒ **退化**＝進化や発生の途中で器官などが衰退したり縮小したりすること
祖先が所有していた器官が子孫では消滅すること（退化）は、
＝祖先の体では機能していた器官などが、子孫の代でなくなることは、

✒ **尾骨**＝脊椎（せきつい）の一番下にある、とがった骨、尾（び）てい骨（こつ）
ヒトの尻尾は短く退化して、わずかに尾骨が残っているだけである。
＝人間の尻尾は短くなって、背骨の下に尾骨があるだけである。

✒ **虫垂**＝内臓の一部

✒ **痕跡**＝過去に何かがあったことを示すあと、あとかた
虫垂も痕跡（あとかた）をとどめるにすぎない。
＝虫垂もかすかに跡形が残っているだけである。

✒ **劣る**＝能力や数量が低い
サルに比べればはるかに劣る。
＝サルと比べたら、サルのほうが優れている。

✒ **おのおの**＝めいめい、各自、それぞれ
おのおのの生物が
＝それぞれの生物が

問題を解くための解説

問２　②「そのような意味で」の「その」は何を指しているか。

「生物の『進化』を『進歩』と結び付けて考えるのは、完璧に間違いである」
∴正解３　生物の進化を進歩と結びつけること

問３　③「進化は進歩と違って、もっと無方向な変化である」というのはここではどんな意味か。

「無方向」＝一定した方向がない

進化≠進歩

∴正解２　「進化」に一定の方向はなく、いろいろな方向に変化するという意味

問４　（　④　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

前後の文から、（　④　）には退化の例が入ることがわかる。

∴正解４　木を上り下りする能力も、サルに比べればはるかに劣る。

問５　⑤「二つの生物を比べて、どちらがより進化しているかと問うのは、無意味なだけでなく、まちがった問いの立て方である」とあるが、なぜ比較は無意味なのか。

「鳥は空を飛べるがヒトは飛べない。」

「それぞれの環境に合わせて、自分たちがうまく生活できるように変化（進化）してきた。」

∴正解２　それぞれの生物は環境に合わせて変化しているだけだから。

日本のことわざ【その５】

・縦の物を横にもしない

意味　めんどうくさがって何もしない。

例　昔の男性は家にいると**縦の物を横にもしなかった**ものだ。

・下手の横好き

意味　下手なくせに好きで、熱心であること。

例　彼女はひどい音痴のくせに、**下手の横好き**でカラオケが趣味だそうだ。

・重箱の隅をつつく

意味　大切ではない細かいことにこだわる。

例　大きく全体を見て考えることが大切です。**重箱の隅をつついて**も何にもなりません。

・顔に泥を塗る

意味　相手の面目をつぶす。恥をかかせる。

例　部長の紹介してくれた見合い相手を断ったら、部長は**顔に泥を塗られた**と言ってご機嫌ななめだ。
（ご機嫌ななめ＝機嫌が悪い。）

15 科学者と技術者

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

科学者によく似た人種に技術者というのがいる。世間の人から見た時、仕事の内容も性格も同じようなので、両者を区別しないで科学技術者などと一まとめにして呼ばれるが、こと運命に対する態度に関していえば、①両者はまるで違う。科学者は、運命を認め、運命を予見しようとするのに対し、技術者は、運命が決まっているとは考えない。将来のことは一つに決まっているのではなく、知恵をしぼって対策や解決策を考えれば、運命はいくらでも変えられると思っている。

でもそれは、科学者の予見について、意見が違うわけではない。タイタニック号に乗っていた技術者は、自分の目で調べた結果、やはり二時間で船が沈没すると計算しただろう。ただしそのあとが違う。部屋に戻って論文を書かないで、人が一人でも多く助かる工夫を考えるだろう。たとえば燃料油を集めて巨大なトーチ（かがり火）を作っただろう。近くを航行する船舶に気づいてもらうためである。救命ボートの不足を補うため、船上のあらゆる機材を取り外し、ボートを造っただろう。炊事場の巨大なシチュー鍋も第一の候補である。それでも全員を避難させるのに足りないのだから、最後の手段としては乗客を船がぶつかった氷山の上に②退避させる計画に取り組んだかもしれない。

「たとえ」で理解するちがい

科学者と技術者は似ているともいえるし、まったく違うともいえる。将来の予測に関しては、同じ問題についてなら、両者に違いはない。③違うのは、何を予測するか、何のために予測するかである。科学者は人間のさじ加減一つで結果が変わるようなことの予測には興味を示さない。そうでなく、

人間の力の及ばないような大きな現象、太陽とか宇宙の将来を予測する。台風や地震を予測するのも、本来、科学者の仕事である。これに対し、技術者は、台風や地震で橋や建物がどうなるかを予測する、そして危ないという結果が出たら、補強する方法を考える。つまり、技術者にとって運命を予測するのは、運命を逃れるためである。

身近な「たとえ」を使うとわかりやすいので鉄道をたとえに使おう。「自然現象」を「列車の動き」と理解するのである。すると自然現象の予知とは列車の行先を知ることにほかならない。ところが、④列車は線路の通りにしか走れないから、列車の行先を知るには線路がどこを通ってどこまで行っているかを知ればよい。これを調べるのが科学者なのである。科学者は線路のことを「自然法則」と呼んでいる。科学者の仕事はこの自然法則という線路網、全国をおおっている線路網を正確に調査し、記録することである。だから、科学者に聞けば、東京駅の何番線から乗ればあなたは何時間でどこに連れていかれるかを正確に教えてくれる。

⑤これに対して、技術者は、鉄道を利用して自分が行きたい所に行くことしか関心がない人である。列車には乗るけれど、最後まで乗る気はなくて、どこでどんな線に乗り換えたらよいか、一生懸命考える人である。全国の鉄道網が全部頭に入っているという点では科学者と同じだが、関心のありどころはまるで違うのである。雪で名古屋と京都の間が不通と知れば、雪の中に立往生する運命をさけ、少しでも早く京都に到着するには、どうしたらよいか、自分の知識と工夫を総動員する。

病気、特にガンについても、同じようなことがいえるだろう。ガンが発見された時、その実態を精密に調べて、今後どう進行するかを正確に予測するのはガン研究者の役目である。これに対し、医者は基本的には技術者の役目を果たす。患者を⑥その運命からそらしてやるにはどうしたらよいのか、何ができるのか、持てる知恵と技術を総動員する。（西村 肇『見えてきたガンの正体』ちくま新書）

15 科学者と技術者

科学者によく似た人種に技術者というのがいる。世間の人から見た時、仕事の内容も性格も同じようなので、両者を区別しないで科学技術者などと一まとめにして呼ばれるが、こと運命に対する態度に関していえば、①両者はまるで違う。科学者は、運命を認め、運命を予見しようとするのに対し、技術者は、運命が決まっているとは考えない。将来のことは一つに決まっているのではなく、知恵をしぼって対策や解決策を考えれば、運命はいくらでも変えられると思っている。

でもそれは、科学者の予見について、意見が違うわけではない。タイタニック号に乗っていた技術者は、自分の目で調べた結果、やはり二時間で船が沈没すると計算しただろう。ただしそのあとが違う。部屋に戻って論文を書かないで、人が一人でも多く助かる工夫を考えるだろう。たとえば燃料油を集めて巨大なトーチ（かがり火）を作っただろう。近くを航行する船舶に気づいてもらうためである。救命ボートの不足を補うため、船上のあらゆる機材を取り外し、ボートを造っただろう。炊事場の巨大なシチュー鍋も第一の候補である。それでも全員を避難させるのに足りないのだから、最後の手段としては乗客を船がぶつかった氷山の上に②退避させる計画に取り組んだかもしれない。

「たとえ」で理解するちがい

科学者と技術者は似ているともいえるし、まったく違うともいえる。将来の予測に関しては、同じ問題についてなら、両者に違いはない。③違うのは、何を予測するか、何のために予測するかである。科学者は人間のさじ加減一つで結果が変わるようなことの予測には興味を示さない。そうでなく、人間の力の及ばないような大きな現象、太陽とか宇宙の将来を予測する。台風や地震を予測するのも、本来、科学者の仕事である。これに対し、技術者は、台風や地震で橋や建物がどうなるかを予測する、そして危ないという結果が出たら、補強する方法を考える。つまり、技術者にとって運命を予測するのは、運命を逃れるためである。

身近な「たとえ」を使うとわかりやすいので鉄道をたとえに使おう。「自然現象」を「列車の動き」と理解するのである。すると自然現象の予知とは列車の行先を知ることにほかならない。ところが、④列車は線路の通りにしか走れないから、列車の行先を知るには線路がどこを通ってどこまで行っているかを知ればよい。これを調べるのが科学者なのである。科学者は線路のことを「自然法則」と呼んでいる。科学者の仕事はこの自然法則という線路網、全国をおおっている線路網を正確に調査し、記録することである。だから、科学者に聞けば、東京駅の何番線から乗ればあなたは何時間でどこに連れていかれるかを正確に教えてくれる。

⑤これに対して、技術者は、鉄道を利用して自分が行きたい所に行くことしか関心がない人である。列車には乗るけれど、最後まで乗る気はなくて、どこでどんな線に乗り換えたらよいか、一生懸命考える人である。全国の鉄道網が全部頭に入っているという点では科学者と同じだが、関心のありどころはまるで違うのである。雪で名古屋と京都の間が不通と知れば、雪の中に立往生する運命をさけ、少しでも早く京都に到着するには、どうしたらよいか、自分の知識と工夫を総動員する。

病気、特にガンについても、同じようなことがいえるだろう。ガンが発見された時、その実態を精密に調べて、今後どう進行するかを正確に予測するのはガン研究者の役目である。これに対し、医者は基本的には技術者の役目を果たす。患者を⑥その運命からそらしてやるにはどうしたらよいのか、何ができるのか、持てる知恵と技術を総動員する。

（西村肇『見えてきたガンの正体』ちくま新書）

問　　題

問1　①「両者はまるで違う」とあるが、「両者」とは何を指すか。

1　科学技術者と技術者を指す。
2　科学者に似た人種と技術者を指す。
3　科学者と技術者を指す。
4　世間の人から見た科学者と技術者を指す。

問2　②「退避させる計画に取り組んだかもしれない」とあるが、筆者はだれが「取り組んだ」と考えたのか。

1　もし技術者と科学者がタイタニック号に乗り合わせていたとしたら、彼らが退避計画に取り組んだだろうと考えた。
2　もし科学技術者がタイタニック号に乗り合わせていたら、退避計画に取り組んだだろうと考えた。
3　もし技術者と科学者がタイタニック号に乗り合わせていたら、乗客全員とともに退避計画に取り組んだであろうと考えた。
4　もし技術者がタイタニック号に乗り合わせていたら、退避計画に取り組んだだろうと考えた。

問3　③「違うのは、何を予測するか、何のために予測するかである」とあるが、両者はどう違うのか。

1　科学者は運命を変えるために予測するが、技術者はそうはしない。
2　技術者は運命を変えようとして予測するが、科学者はそうはしない。
3　科学者は人間に変えられない将来の予測に興味を持たないが、技術者は興味を持つ。
4　技術者は大きな現象を予測することには興味を持つが、科学者は持たない。

問4　④「列車は線路の通りにしか走れない」とあるが、ここではどんな意味か。

1　自然現象は正確に調査されているものだという意味
2　自然現象は決まった法則によって起こるという意味
3　自然現象が起きるのは運命によるという意味
4　人間の期待通りには自然現象は起きないという意味

問5　⑤「これ」とあるが、「これ」とはどんなことか。

1　科学者が「自然現象」のことを「自然法則」と呼んでいること
2　科学者が自然法則を正確に調査し、記録していること
3　科学者が自然法則を正確に予知し、変化させようとしていること
4　科学者が自然現象の予知とは列車の行先を知ることと同じであるといっていること

問6　⑥「その運命」とあるが、「その運命」とはどんなことか。

1　ガンが進行すること
2　ガンの治療を受けること
3　ガンを予測すること
4　ガンが発見されること

問7　筆者はガン研究者と医者についてどのように考えているか。

1　ガン研究者と医者とは終始異なる考えを持ち、対照的に行動をするものだ。
2　ガン研究者はガンの研究と予測、医者はガンへの対策といったように両者は仕事を明確に役割分担すべきだ。
3　ガン研究者も医者もガンを研究、予測するが、その目的・対処法は非常に異なる。
4　医者は目の前の患者に対して自分の力を総動員しているのだから、研究者はガンの予測についてもっと協力すべきだ。

読解のポイント

✏ **両者**＝（前に述べた）二人、二つのもの

✏ **一まとめ**＝一つにしたもの
科学技術者などと一まとめにして呼ばれるが、
＝科学技術者などと一緒にして呼ばれるが、

✏ **こと**＝特に
こと運命に対する態度に関していえば、
＝特に運命に対する態度に関していえば、

✏ **予見**＝予想、予測
運命を予見しようとする
＝運命を予測しようとする。

✏ **知恵**＝物事の本質を知り、適切に処理する能力

✏ **しぼって**＝出して
知恵をしぼって
＝頭を働かせて、一生懸命考えて

✏ **運命**＝身の上に起こること、将来どうなるかということ

✏ **いくらでも**＝たくさん、どのようにも
運命はいくらでも変えられると思っている。
＝将来はどのようにも変えられると思っている。

✏ **救命ボート**＝人命を救助するための小舟

✏ **補う**＝足りないものを満たす、埋め合わせる

✒ **シチュー**＝肉や魚介や野菜などを煮汁やソースを使って弱火で長く煮込んだ料理
シチュー鍋＝シチューを作るための大きい鍋

✒ **退避する**＝危険から逃げる、避難する

✒ **取り組む**＝真剣に物事に当たる、担当する
氷山の上に退避させる計画に取り組んだかもしれない。
＝氷山の上に避難させる計画に当たっただろう。

✒ **科学者と技術者は似ているともいえるし、まったく違うともいえる。**
＝科学者と技術者は似ている部分もあるし、まったく似ていない部分もある。

✒ **さじ加減**＝状況に応じて対処を変えること
人間のさじ加減一つで結果が変わる
＝人間のわずかな対処で結果が変わる。

✒ **及ばない**＝届かない、影響を与えない
人間の力の及ばない
＝人間の力の届かない、人間が変えられない

✒ **〜にほかならない**＝〜ことだ、まさに〜である
自然現象の予知とは列車の行先を知ることにほかならない。
＝自然現象の予知とは列車の行先を知ることである。

✒ **頭に入っている**＝記憶している、覚えている
全部頭に入っている
＝すべて記憶している。

✒ **ありどころ**＝あるところ
関心のありどころはまるで違うのである。
＝何に関心があるかは全然違うのである。

✒ **工夫**＝対策、解決法

✒ **総動員する**＝全部使う
自分の知識と工夫を総動員する。
＝自分の知識と解決法を全部使う。

✒ **そらす**＝外す、逃がす、退避させる
患者をその運命からそらしてやる
＝患者をその運命から逃がして、少しでもよい状態にする。

15 科学者と技術者

問題を解くための解説

問1　①「両者はまるで違う」とあるが、「両者」とは何を指すか。

前の文に出て来る二つのものに注目→「科学者」と「技術者」
「両者はまるで違う」ので、区別しない場合の「科学技術者」は×
∴正解3　科学者と技術者を指す。

問2　②「退避させる計画に取り組んだかもしれない」とあるが、筆者はだれが「取り組んだ」と考えたのか。

「タイタニック号に乗っていた技術者は……退避させる計画に取り組んだ」
∴正解4　もし技術者がタイタニック号に乗り合わせていたら、退避計画に取り組んだだろうと考えた。

問３　③「違うのは、何を予測するか、何のために予測するかである」とあるが、両者はどう違うのか。

「科学者は人間のさじ加減一つで結果が変わるようなことの予測には興味を示さない。」
「技術者は、台風や地震で橋や建物がどうなるかを予測する、」
∴正解２　技術者は運命を変えようとして予測するが、科学者はそうはしない。

問４　④「列車は線路の通りにしか走れない」とあるが、ここではどんな意味か。

「列車の動き」＝「自然現象」
科学者も技術者も「自然現象」を予測する→法則がある
∴正解２　自然現象は決まった法則によって起こるという意味

問５　⑤「これ」とあるが、「これ」とはどんなことか。

「これ」は直前の文、「科学者の仕事はこの自然法則という線路網、全国をおおっている線路網を正確に調査し、記録することである。」
∴正解２　科学者が自然法則を正確に調査し、記録していること

問６　⑥「その運命」とあるが、「その運命」とはどんなことか。

「その運命」＝「ガン患者の運命」＝「今後どう進行するか」
∴正解１　ガンが進行すること

問７　筆者はガン研究者と医者についてどのように考えているか。

ガン研究者と医者について書かれているのは最後の段落
「今後どう進行するかを正確に予測する」→ガン研究者の役目
医者→「どうしたらよいのか、何ができるのか、持てる知恵と技術を総動員する。」
∴正解３　ガン研究者も医者もガンを研究、予測するが、その目的・対処法は非常に異なる。

16 偶然性と必然性

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

私は以前、雑誌の編集をしていて、「時の人」「成功者たち」にインタビューする機会が何回となくあった。

話を聞いていくうちに気づいたのは、年齢も職種も違うのに、彼らから共通して出てくる言葉があるのだ。それは、「(①)」「偶然にも」「ラッキーだったことに」という三つの単語である。

この三つの単語ほど②取材者泣かせの言葉はない。あなたは偶然にラッキーでよかったかもしれないけど、それでは読者に伝わらないからと、あの手この手で聞き出さなくてはならない。

(③)、偶然と言っている割には必然を引き寄せている道筋が見えてきて、実に面白い取材になる。

ところが一方に、ずっと必然の人がいる。一流の大学を出て、一流の企業に入って、一流のポストを歴任し、経営トップとなった人たちである。海外留学や海外駐在の経験もあって、④一分のすきもないキャリアを形成している。

こちらは必然の資料がたくさんあって、⑤取材には苦労しないのだが、話はちっともふくらんでいかない。

これらの取材を通して、私は偶然と必然のバランスが面白いのではないかと思うようになってきた。偶然をもてあますのではなく、またすべてを必然で固めてしまうのでもない、そんな生き方がもっとも人間らしいのではないか、ということである。

「努力したら報われる」こうしたら、こうなるという必然の図式は、確かにわかりやすい。政治が目指すことも、これに他ならない。

しかし、現実はそうだろうか。会社に忠誠を尽くしていても、リストラに遭う。老後に備えて蓄えてきた貯金だって、利子が付いて増えるどころか吹き飛んでしまうこともある。

政治が必然の図式を目指すことに変わりはなくても、個人がいつまでも必然だけを頼りにするのは、かえってリスキーなのではないだろうか。

私は、そろそろ偶然を「意識して」「取り入れる」時が来ているように思う。

偶然に「すがる」のでも「期待する」のでもなく、偶然と「向き合う」姿勢である。偶然はやっかいだからと排除するのではなく、偶然とうまく「付き合う」ことも必要になってきている。

私がｉモードの開発に関わることになったのは、たまたま知人から声が掛かったからである。

42歳で今さら未知の分野に、それも私の体質と相容れないデジタルの世界に踏み入る必然性はまるでなかった。

しかし、躊躇しながらも、私はこう考えるようにした。

目の前にある偶然に心を開いてみよう、と。偶然を敵に回さず、味方につける方法だってあるんじゃないだろうか、と。

（松永 真理「『偶然性』と『必然性』」岩波書店「図書」2002年7月号掲載）

ふりがな付本文

16 偶然性と必然性

私は以前、雑誌の編集をしていて、「時の人」「成功者たち」にインタビューする機会が何回となくあった。

話を聞いていくうちに気づいたのは、年齢も職種も違うのに、彼らから共通して出てくる言葉があるのだ。それは、「(①)」「偶然にも」「ラッキーだったことに」という三つの単語である。

この三つの単語ほど②取材者泣かせの言葉はない。あなたは偶然にラッキーでよかったかもしれないけど、それでは読者に伝わらないからと、あの手この手で聞き出さなくてはならない。

(③)、偶然と言っている割には必然を引き寄せている道筋が見えてきて、実に面白い取材になる。

ところが一方に、ずっと必然の人がいる。一流の大学を出て、一流の企業に入って、一流のポストを歴任し、経営トップとなった人たちである。海外留学や海外駐在の経験もあって、④一分のすきもないキャリアを形成している。

こちらは必然の資料がたくさんあって、⑤取材には苦労しないのだが、話はちっともふくらんでいかない。

これらの取材を通して、私は偶然と必然のバランスが面白いのではないかと思うようになってきた。偶然をもてあますのではなく、またすべてを必然で固めてしまうのでもない、そんな生き方がもっとも人間らしいのではないか、ということである。

「努力したら報われる」こうしたら、こうなるという必然の図式は、確かにわかりやすい。政治が目指すことも、これに他ならない。

しかし、現実はそうだろうか。会社に忠誠を尽くしていても、リストラに遭う。老後に備えて蓄えてきた貯金だって、利子が付いて増えるどころか吹き飛んでしまうこともある。

政治が必然の図式を目指すことに変わりはなくても、個人がいつまでも必然だけを頼りにするのは、かえってリスキーなのではないだろうか。

私は、そろそろ偶然を「意識して」「取り入れる」時が来ているように思う。

偶然に「すがる」のでも「期待する」のでもなく、偶然と「向き合う」姿勢である。偶然はやっかいだからと排除するのではなく、偶然とうまく「付き合う」ことも必要になってきている。

私がiモードの開発に関わることになったのは、たまたま知人から声が掛かったからである。

42歳で今さら未知の分野に、それも私の体質と相容れないデジタルの世界に踏み入る必然性はまるでなかった。

しかし、躊躇しながらも、私はこう考えるようにした。

目の前にある偶然に心を開いてみよう、と。偶然を敵に回さず、味方につける方法だってあるんじゃないだろうか、と。

(松永 真理「『偶然性』と『必然性』」岩波書店「図書」2002年7月号掲載)

問題

問1 「(　①　)」に入るものとして最も適当なものはどれか。

1 努力して
2 たまたま
3 必然的に
4 意識して

問2 筆者はなぜ②「取材者泣かせの言葉」と言っているのか。

1 話し手がその三つの単語を使うと、読者が泣くほど感激するから。
2 話し手がなぜ成功したかが、その三つの単語だけでは読者に伝わらないから。
3 話し手がこの三つの単語を使うと、取材者が泣くほど感激してしまうから。
4 話し手がなぜ成功したかが、その三つの単語だけで簡単に読者に伝わるから。

問3 (　③　)に入るものとして最も適当なものはどれか。

1 そして
2 それから
3 すると
4 にもかかわらず

問4 ④「一分のすきもないキャリアを形成している」とは、どういう意味か。

1 他人にすきを見せないという意味
2 忙しくて一分の時間もとれないポストにいるという意味
3 非常にりっぱなキャリアを持っているという意味
4 他人が入り込むすきがまったくないという意味

問5 ⑤「取材には苦労しないのだが、話がちっともふくらんでいかない」とは、ここではどういう意味か。

1 資料がたくさんあるので、取材したこと以外で話をふくらませる必要はないという意味
2 取材に苦労しないため、面白い記事にならないという意味
3 資料がたくさんあるので、取材したことが全て使えないという意味
4 資料はたくさんあるのだが、発展性がなく面白い記事が書けないという意味

問6 どうして筆者はｉモードの開発に関わったのか。

1 42歳になった記念に何か新しいことがしてみたかったから。
2 偶然を味方にしようと考えたから。
3 デジタルの分野に興味があったから。
4 知人に誘われ、仕方がなかったから。

問７　この文章の内容と最もよく合っているのはどれか。

1　偶然はやっかいなことだから、期待しないほうがいい。
2　偶然はやっかいなことだが、うまく付き合うことも必要である。
3　人は努力をすれば、幸運に恵まれなくても報われる。
4　人は努力しても、偶然が味方してくれなかったら報われない。

答　問7/2

読解のポイント

✒ **～泣かせ**＝～をひどく困らせること
この三つの単語ほど取材者泣かせの言葉はない。
＝この三つは取材者を非常に困らせてしまう言葉である。

✒ **あの手この手で**＝いろいろな手段を使って
あの手この手で聞き出さなくてはならない。
＝いろいろな手段を使って、相手に質問しなければならない。

✒ **必然**＝必ずそうなると決まっていること

✒ **道筋**＝物事の道理、筋道
必然を引き寄せている道筋が見えてきて、
＝必ずそうなるという過程が見えてきて、

✒ **一分のすきもない**＝少しの油断もない
一分のすきもないキャリアを形成している。
＝付け入るすきのないくらい、りっぱなキャリアを持っている。

✒ **もてあます**＝取り扱いに困る
偶然をもてあますのではなく、
＝偶然をどう取り扱うかに困るのではなく、

✒ **報われる**＝いい結果がでる
「努力したら報われる」
＝「努力すれば、必ずいい結果がついてくる」

✒ **すがる**＝しがみつく、頼りとする
偶然に「すがる」のでも「期待する」のでもなく、
＝偶然を当てにするのでも、頼りにするのでもなく、

✑ **躊躇する＝ためらう**
躊躇しながらも、
＝ためらいつつも、

問題を解くための解説

問１　「（　①　）」に入るものとして最も適当なものはどれか。

「偶然にも」と同じ意味の言葉を選ぶ。
∴正解２　たまたま

問２　筆者はなぜ②「取材者泣かせの言葉」と言っているのか。

後文にヒントあり。
「それでは読者に伝わらないからと、あの手この手で聞き出さなくてはならない。」
∴正解２　話し手がなぜ成功したかが、その三つの単語だけでは読者に伝わらないから。

問３　（　③　）に入るものとして最も適当なものはどれか。

（　③　）には、前文に続いて後文が起きるときの接続詞が入る。
∴正解３　すると

問５　⑤「取材には苦労しないのだが、話がちっともふくらんでいかない」とは、ここではどういう意味か。

「話がちっともふくらんでいかない」＝話が面白くならない。
∴正解４　資料はたくさんあるのだが、発展性がなく面白い記事が書けないという意味

問６　どうして筆者はｉモードの開発に関わったのか。

後文にヒントあり。
「目の前にある偶然に心を開いてみよう、」
「偶然を敵に回さず、味方につける方法だってあるんじゃないだろうか、」
∴正解２　偶然を味方にしようと考えたから。

17 日本語

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

私は、日本語を特別に母音語と呼んでいる。母音語に分類される言語は、私の知る限りでは日本語だけである。

ポリネシア語がかなり母音に傾倒した、日本語に近い音構造であることを指摘する学者もいるが、ポリネシア人は日本の五十音図のような数学的な読み文字モデルまで持っているわけではないようなので、正式な母音言語と呼んでいいかどうかは保留中である。

日本語を母音語と名付けて特別扱いするのには、完全な開音節言語であることの他にもう一つ理由がある。①日本語が、母音単音の語（吾 a、胃 i、井 i、鵜 u、卯 u、絵 e、柄 e、枝 e、餌 e、尾 o などなど）を数多く持つ、世界でも珍しい言語だったからだ。

私たちは、母音単音を、語として認識しているのである！日本語人の読者の方は、あまりにも当たり前なので、私が付けた、この「！」の意味がちょっとわからないと思う。

では、これならどうだろう。②母音単音を語として認識する人間と、そうでない人間は、脳の機能構造が違うのである！

医学博士の角田忠信氏の著書『日本人の脳』によれば、欧米各国と韓国ならびに日本の被験者のうち、母音単音を言語優位脳、つまり「考える半球（左脳）」で聞くのは、なんと日本語人だけ、という顕著な実験結果が出ているのである。

ここで、私があえて日本「語」人としたのには理由がある。日本語人とは、50ページでもふれたように、母語が日本語である人のこと。遺伝子的あるいは国籍上は日本人でなくても、生まれてから言語脳完成期（八歳ごろ）までの期間に日本に住み、日本語で育った人を含む。

角田博士の実験によれば、日本語人以外は、単音の母音を言語優位脳で聞いていないのである。つまり、音楽や雑音を聴く領域で処理され、記号として扱われていないことになる。③彼らにとって、母音の音声は人間が自然に出す音、すなわち唸り声のようなものであって、記号として認識できない音なのだ。

私たち日本人も、空調のファンの音や、楽器の音、お父さんがお風呂に入ったときに出す唸り声なんかは、ちゃんとした擬態語にはしにくい。記号化に失敗し言語脳で処理できないからだ。

（黒川 伊保子『怪獣の名はなぜガギグゲゴなのか』新潮新書）

ふりがな付本文

17 日本語

私は、日本語を特別に母音語と呼んでいる。母音語に分類される言語は、私の知る限りでは日本語だけである。

ポリネシア語がかなり母音に傾倒した、日本語に近い音構造であることを指摘する学者もいるが、ポリネシア人は日本の五十音図のような数学的な読み文字モデルまで持っているわけではないようなので、正式な母音言語と呼んでいいかどうかは保留中である。

日本語を母音語と名付けて特別扱いするのには、完全な開音節言語であることの他にもう一つ理由がある。①日本語が、母音単音の語（吾a、胃i、井i、鵜u、卯u、絵e、柄e、枝e、餌e、尾oなどなど）を数多く持つ、世界でも珍しい言語だったからだ。

私たちは、母音単音を、語として認識しているのである！　日本語人の読者の方は、あまりにも当たり前なので、私が付けた、この「！」の意味がちょっとわからないと思う。

では、これならどうだろう。②母音単音を語として認識する人間と、そうでない人間は、脳の機能構造が違うのである！

医学博士の角田忠信氏の著書『日本人の脳』によれば、欧米各国と韓国ならびに日本の被験者のうち、母音単音を言語優位脳、つまり「考える半球（左脳）」で聞くのは、なんと日本語人だけ、という顕著な実験結果が出ているのである。

ここで、私があえて日本「語」人としたのには理由がある。日本語人とは、50ページでもふれたように、母語が日本語である人のこと。遺伝子的あるいは国籍上は日本人でなくても、生まれてから言語脳完成期（八歳ごろ）までの期間に日本に住み、日本語で育った人を含む。

角田博士の実験によれば、日本語人以外は、単音の母音を言語優位脳で聞いていないのである。つまり、音楽や雑音を聴く領域で処理され、記号として扱われていないことになる。③彼らにとって、母音の音声は人間が自然に出す音、すなわち唸り声のようなものであって、記号として認識できない音なのだ。

私たち日本人も、空調のファンの音や、楽器の音、お父さんがお風呂に入ったときに出す唸り声なんかは、ちゃんとした擬態語にはしにくい。記号化に失敗し言語脳で処理できないからだ。

（黒川伊保子『怪獣の名はなぜガギグゲゴなのか』新潮新書）

問　題

問１　①「日本語が、母音単音の語（吾 a、胃 I、井 I、鵜 u、卯 u、絵 e、柄 e、枝 e、餌 e、尾 o などなど）を数多く持つ」とあるが、どんな意味か。

1　日本語の単語には「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」が数多く入っているという意味
2　日本語の単語は「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」の母音で表されることが多いという意味
3　日本語には「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」のような母音１字の単語が多くあるという意味
4　日本語では「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」のような母音１字は意味のあることばとして認識されることがほとんどないという意味

問２　筆者は②「母音単音を語として認識する人間と、そうでない人間は、脳の機能構造が違う」と言っているが、どんなことか。

1　母音単音を語として認識する人間は母音単音も言語として処理する左脳を持つということ
2　母音単音を語として認識する人間の左脳は母音単音の音を言語として処理できないということ
3　母音単音を語として認識する人間の左脳は母音しか言語として聞き分けられないということ
4　母音単音を語として認識する人間は母音単音を音楽や雑音を聞く領域で処理するということ

問３　ここで筆者が③「彼ら」と言っているのは、どんな人々か。

1　欧米人と韓国人被験者
2　日本語人以外の被験者
3　日本語人被験者
4　日本人被験者

問４　筆者は、日本語人に可能なことは、どんなことだと考えているか。

1　唸り声を意味のあることばとして聞くこと
2　「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」の１字を意味のあることばとして認識すること
3　人間が自然に出す音を意味のあることばとして聞くこと
4　どんな音でも、文字に書き表すことができること

問５　筆者によれば、日本語人の特徴はどれか。

1　人間が出した音であれば、日本語人はすべて意味のあることばとして認識している。
2　日本語人は遺伝子的に左脳が非常に発達している。
3　日本語人は、そうでない人々と違い、たとえば「い」のような母音単音を言語優位脳で聞かないため擬態語を使うことが多い。
4　日本語人は「お」のような母音単音も言語優位脳で聞いており、意味のあることばとして認識している。

読解のポイント

✒ **母音**＝vowel、日本語では「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」

✒ **母音単音**＝「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」のどれか一つの音

✒ **数学的**＝機械的に処理できるような

✒ **〜に傾倒する**＝〜に傾く、〜傾向がある
ポリネシア語がかなり母音に傾倒した
＝ポリネシア語がかなり母音を使う傾向がある。

✒ **保留**＝すぐに決めたり、実行したりしないで、待つこと
〜かどうかは保留中である。
＝〜かどうかはまだ決定していない。

✒ **開音節**＝「あ」、「い」などの母音、または「えい」、「おう」などの母音二つで終わる音節

✒ **顕著な**＝はっきりした、明確な
顕著な実験結果が出ているのである。
＝はっきりした実験結果が出ているのである。

✒ **ふれたように**＝述べたように
50 ページでもふれたように、
＝ 50 ページでも述べたように、
（『怪獣の名はなぜガギグゲゴなのか』の 50 ページには「日本語人とは母語が日本語である人」という説明がある。）

✒ **あえて**＝わざわざ、特に
私があえて日本「語」人としたのには理由がある。
＝私が特に日本「語」人と呼ぶことには理由がある。

✒ **領域**＝ところ、部分、区域
音楽や雑音を聴く領域で処理され、
＝音楽や雑音を聴く部分で処理され、

✒ **空調**＝空気調節装置の略、エアコン

✒ **擬態語**＝「わくわく」「ひらひら」のように事物の様子、状態、身振りなどを表現する言葉

✒ **記号化**＝（ここでは）文字に置き換えること
記号化に失敗し
＝文字に置き換えることができず

問題を解くための解説

問 1　①「日本語が、母音単音の語（吾 a、胃 I、井 I、鵜 u、卯 u、絵 e、柄 e、枝 e、餌 e、尾 o などなど）を数多く持つ」とあるが、どんな意味か。

母音一つでできることばが多い。
∴正解 3　日本語には「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」のような母音 1 字の単語が多くあるという意味

問２　筆者は②「母音単音を語として認識する人間と、そうでない人間は、脳の機能構造が違う」と言っているが、どんなことか。

「母音単音を言語優位脳、つまり『考える半球（左脳）』で聞くのは、なんと日本語人だけ、」
∴正解１　母音単音を語として認識する人間は母音単音も言語として処理する左脳を持つということ

問３　ここで筆者が③「彼ら」と言っているのは、どんな人々か。

「彼ら」＝「日本語人以外」
∴正解２　日本語人以外の被験者

問４　筆者は、日本語人に可能なことは、どんなことだと考えているか。

「日本語人以外は、単音の母音を言語優位脳で聞いていないのである。」
＝日本語人は、単音の母音を言語優位脳で聞いている。
＝日本語人は、単音の母音を考える半球（左脳）で聞いている。
∴正解２　「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」の１字を意味のあることばとして認識すること

問５　筆者によれば、日本語人の特徴はどれか。

「母音単音を語として認識する」
日本語人は、単音の母音を言語優位脳で聞いている
∴正解４　日本語人は「お」のような母音単音も言語優位脳で聞いており、意味のあることばとして認識している。